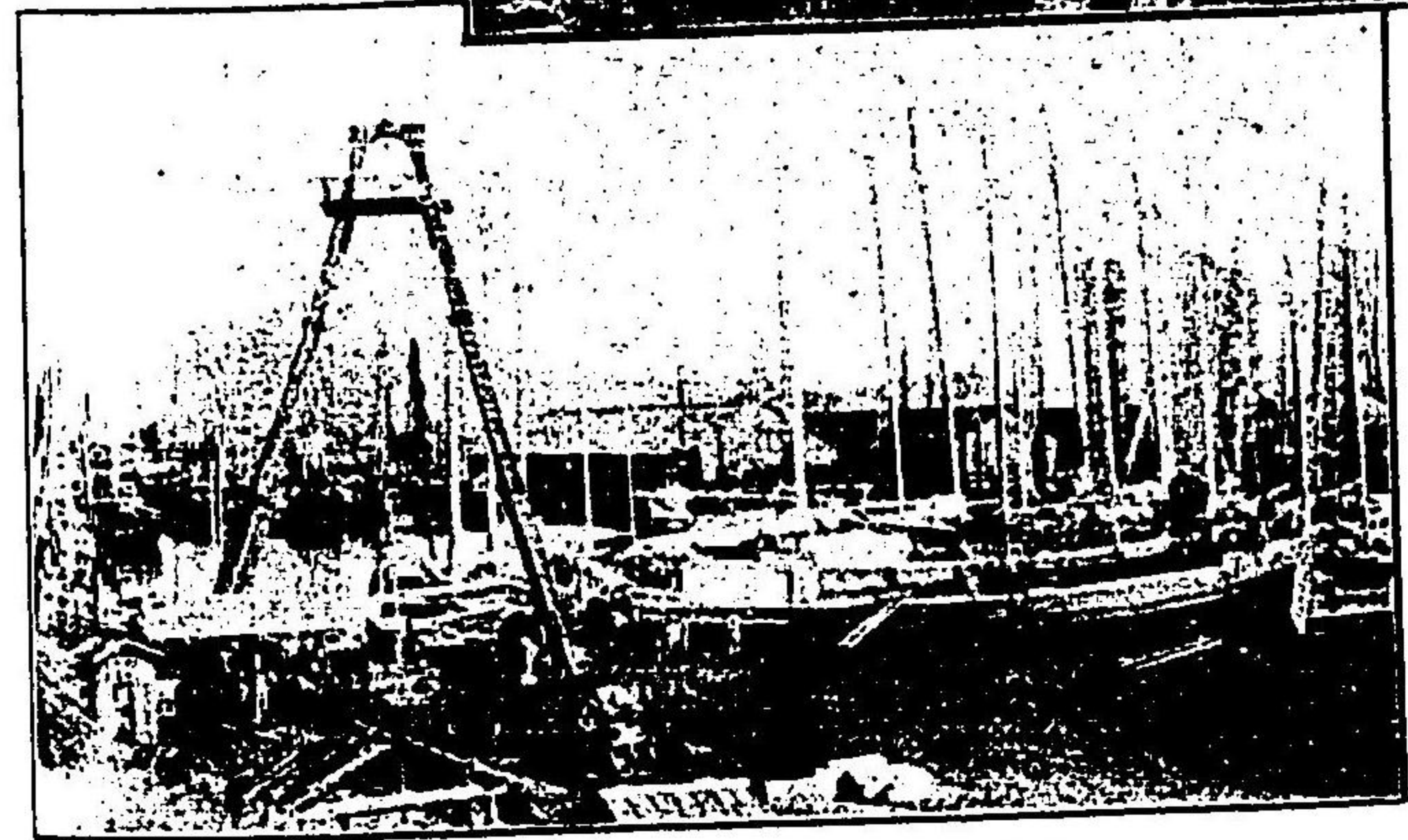
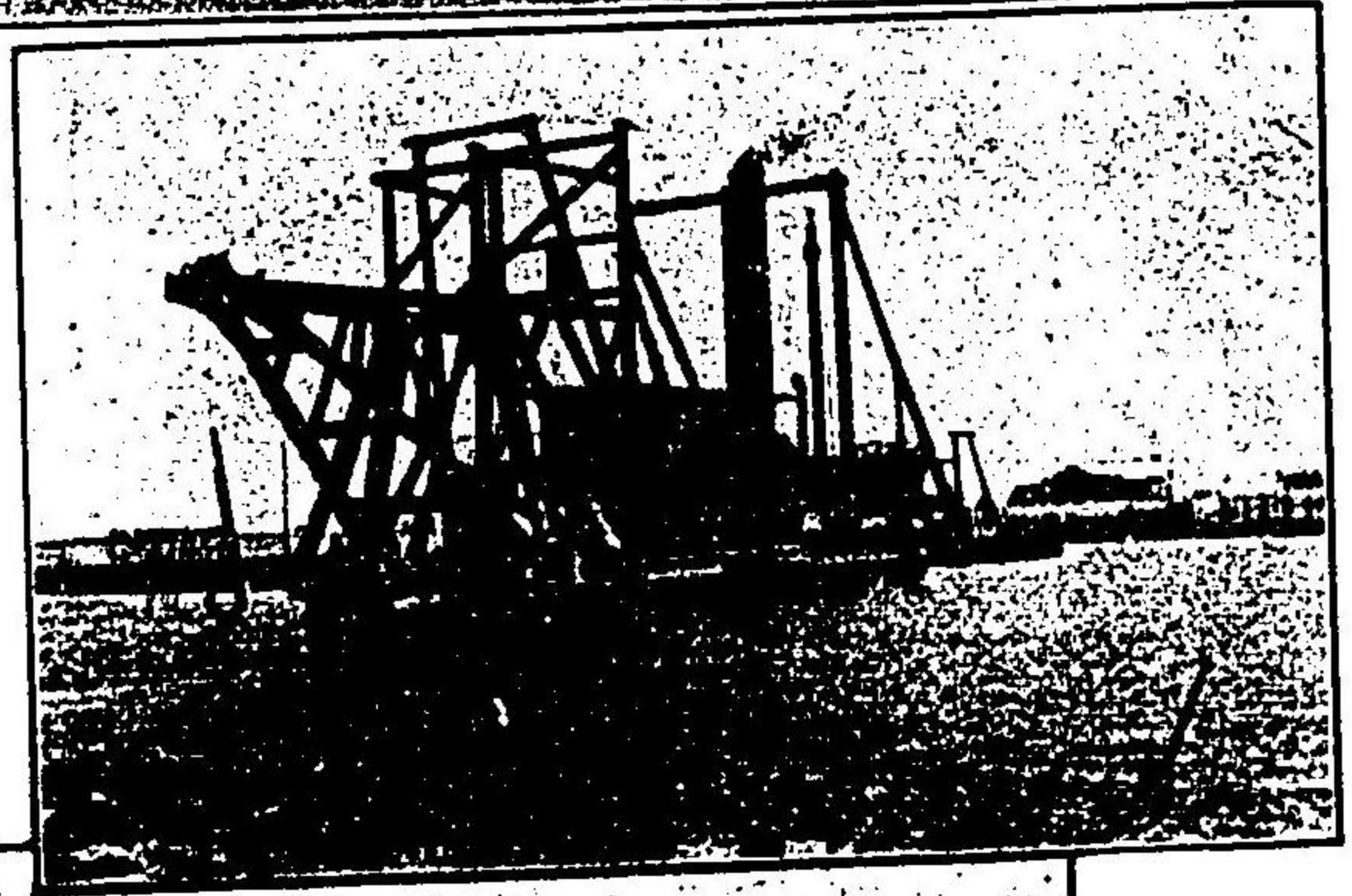


宮水米留久(甲)

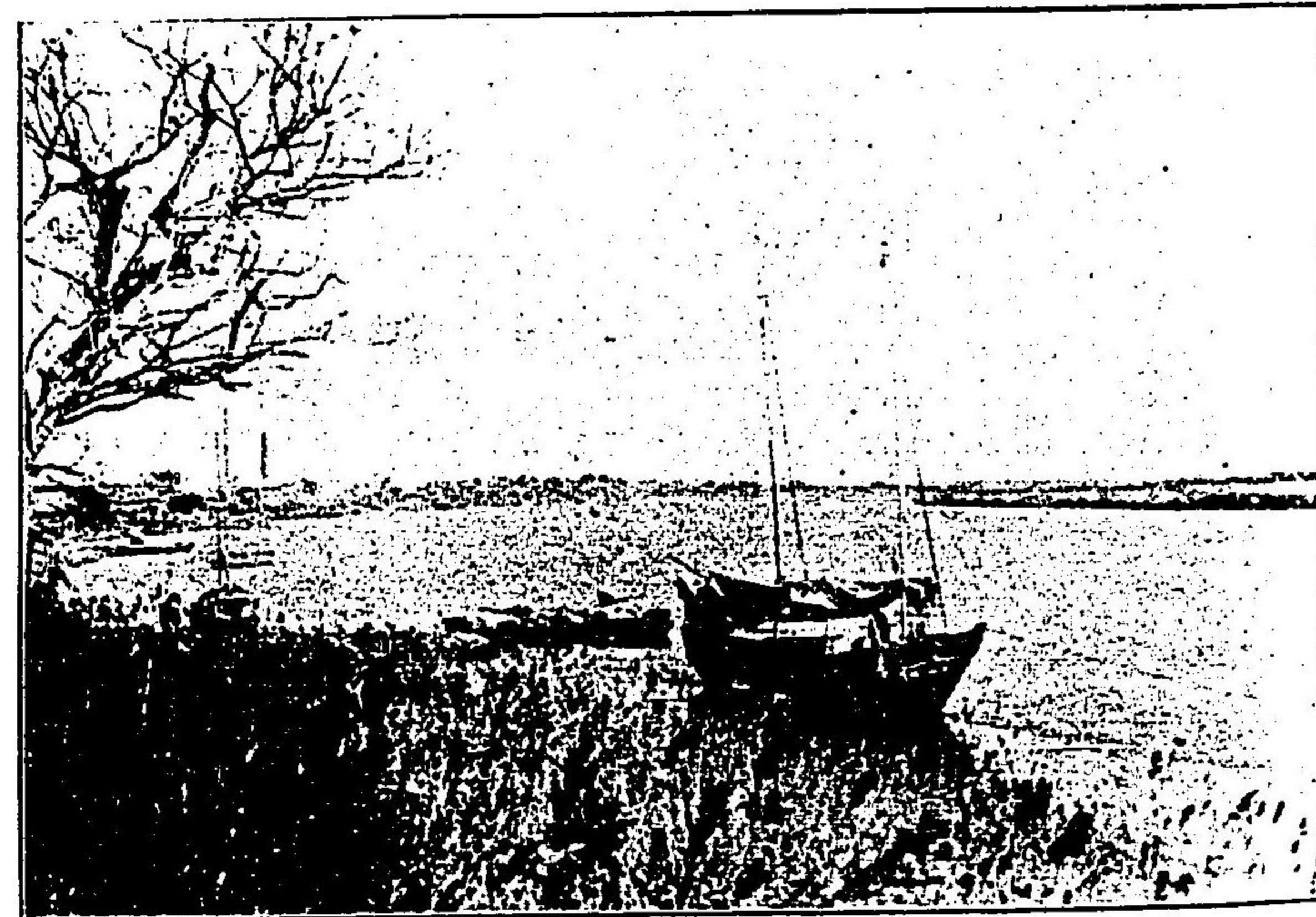
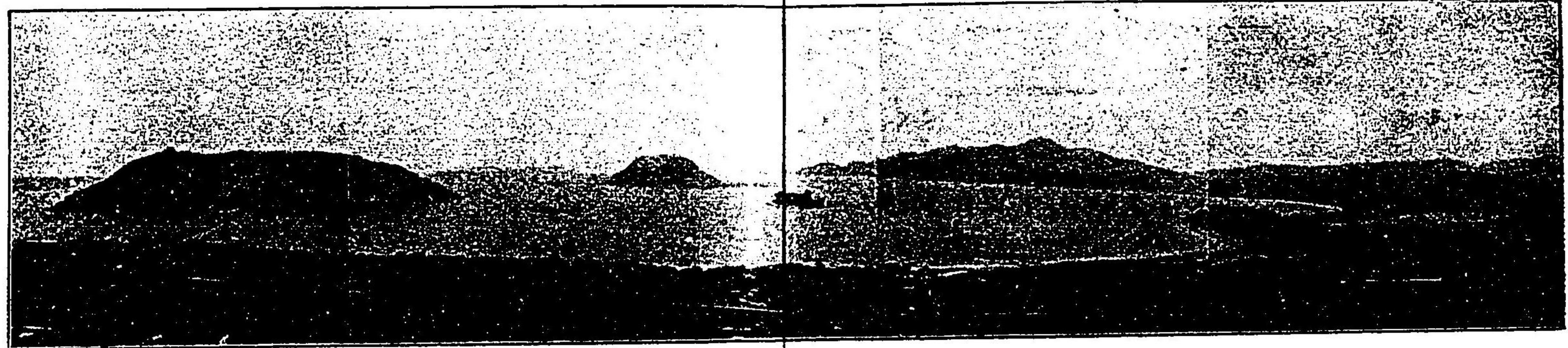


場込積炭石田牟大後筑(丙)

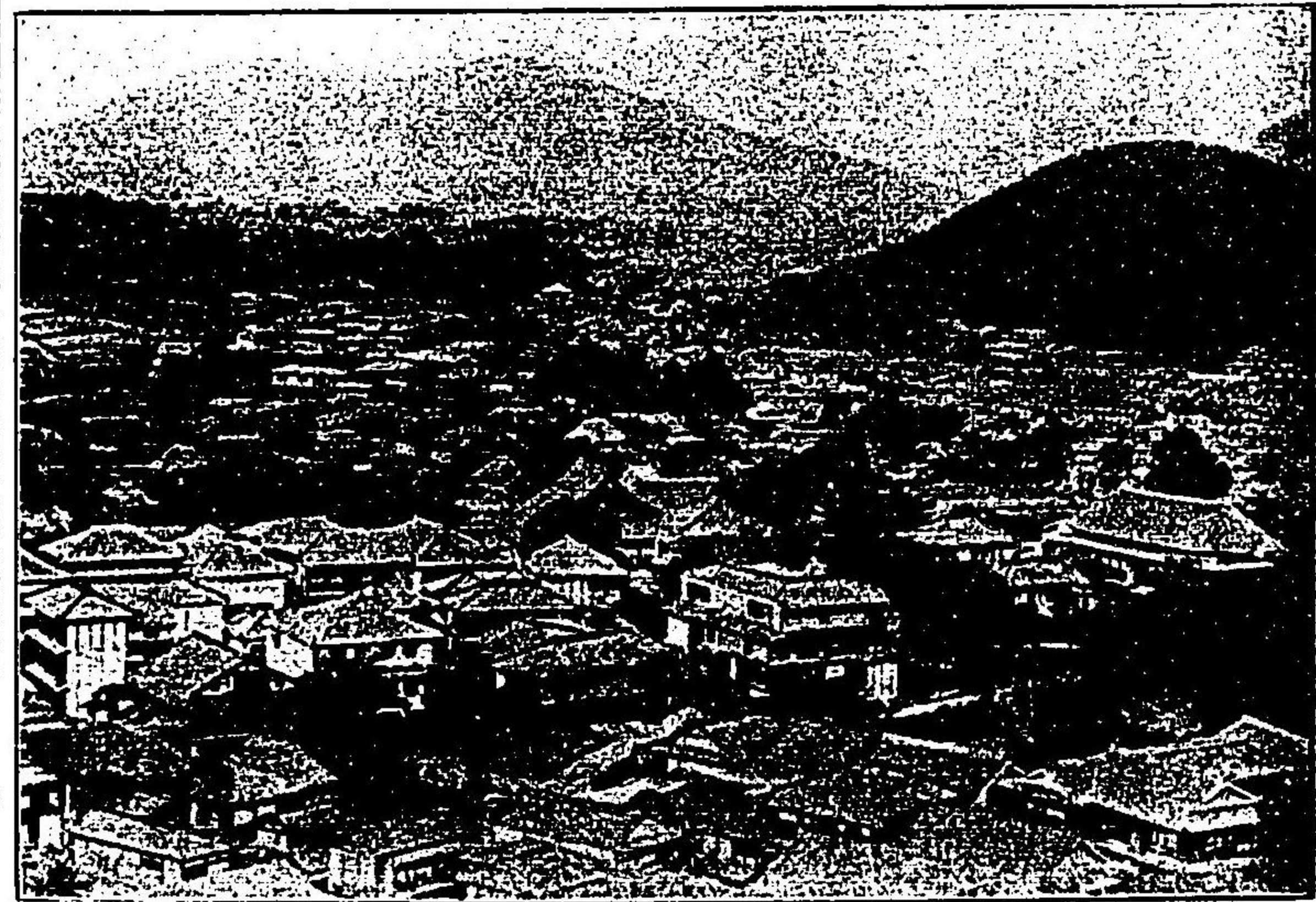
(乙) 筑後三池港深船塢ノ浦丸

第五十八圖

(左方の西港の一部份見ゆ) 肥前唐津港 (甲)

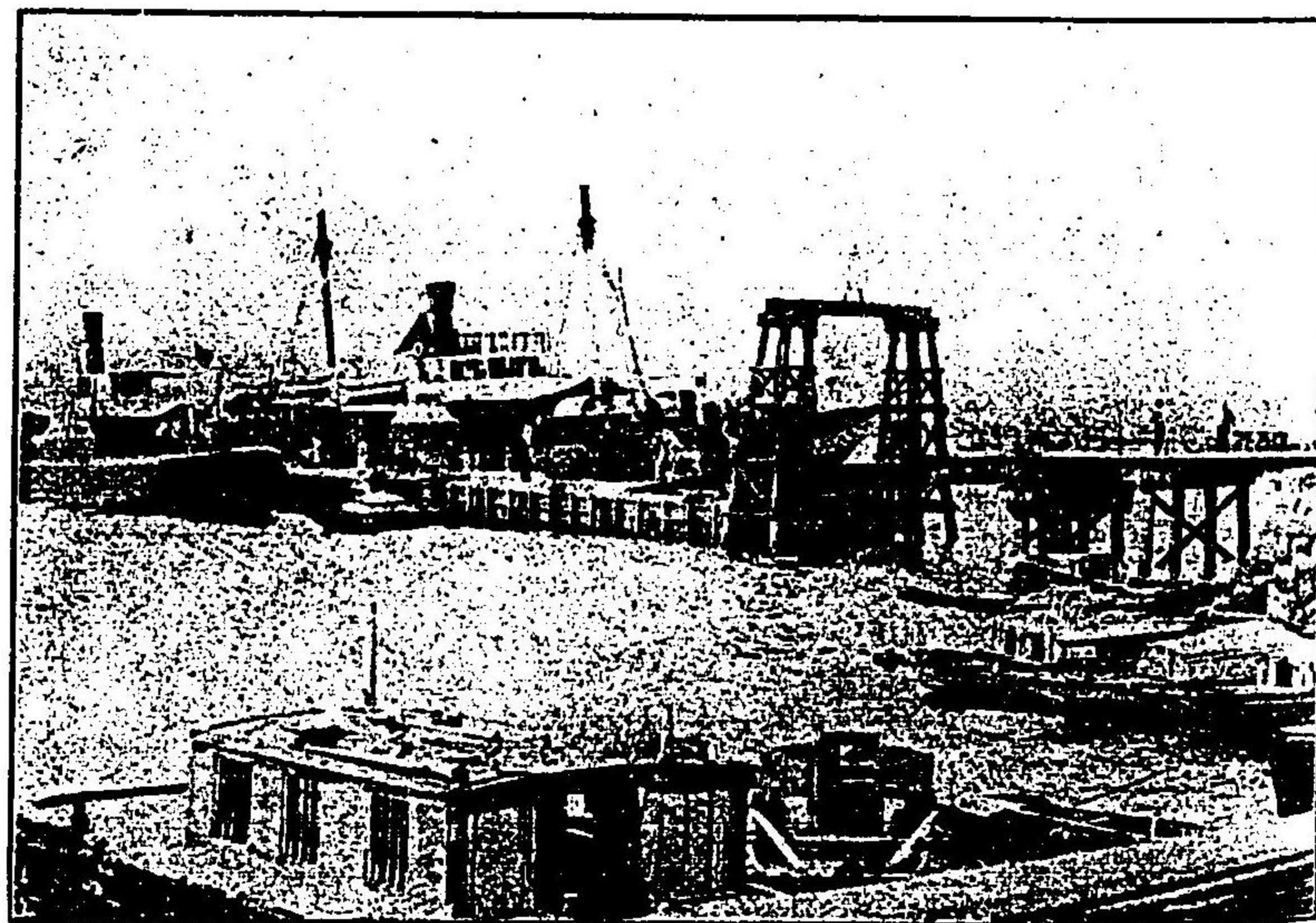
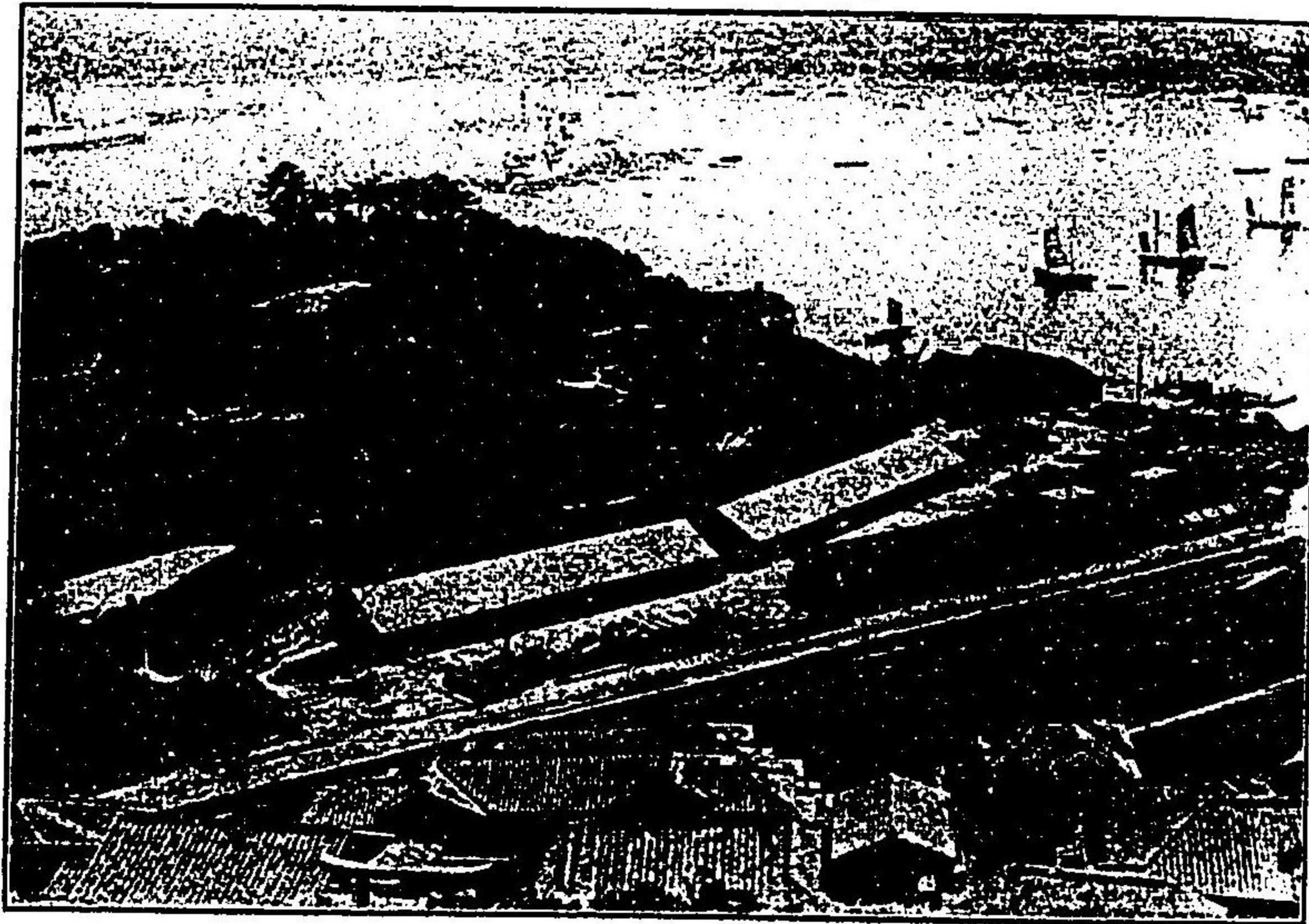


(セメトン社会を望む) 肥前諸富港 (丙)



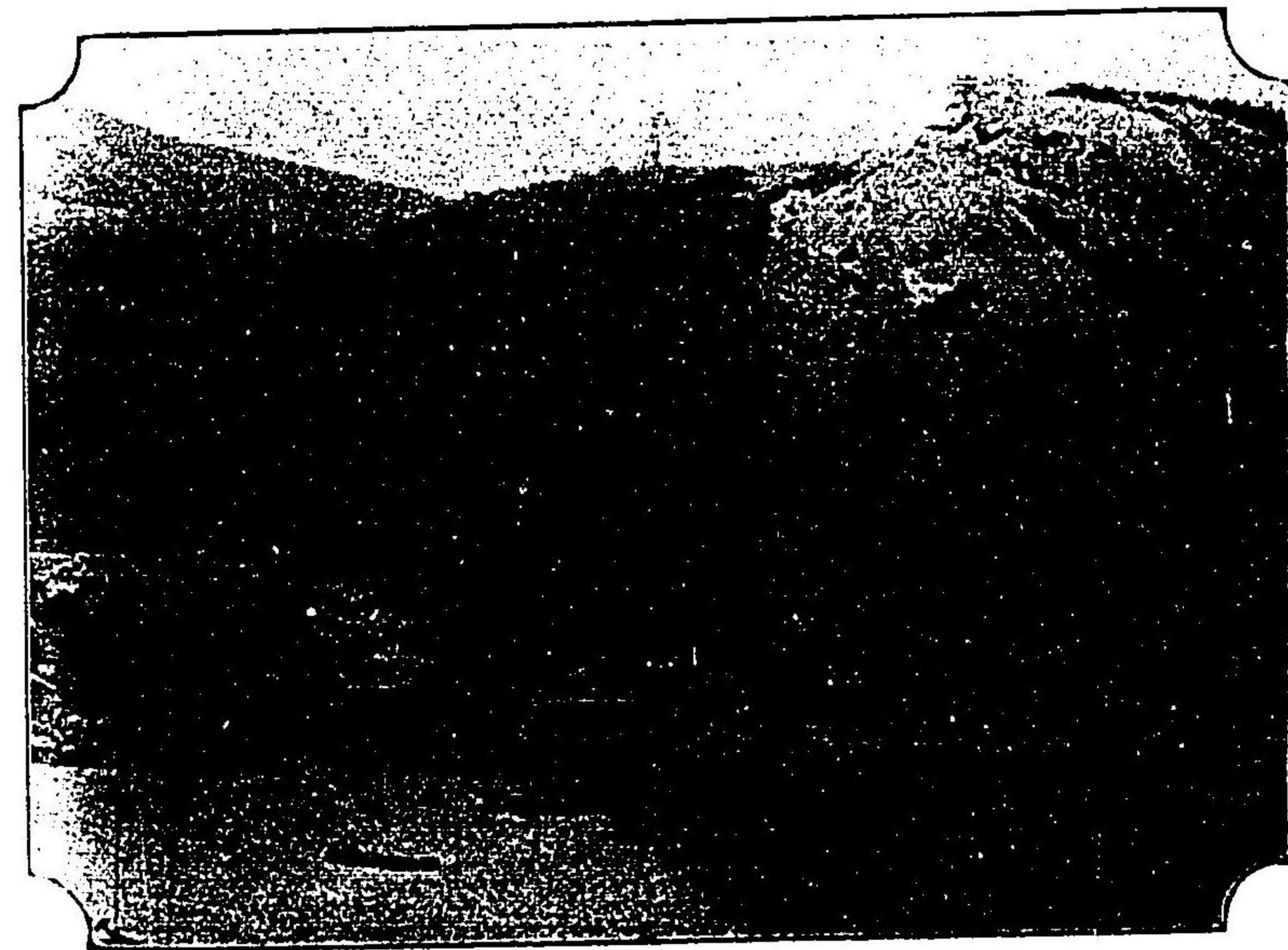
肥前武雄町 (乙)

渠船三第所船造菱三崎長 (甲)



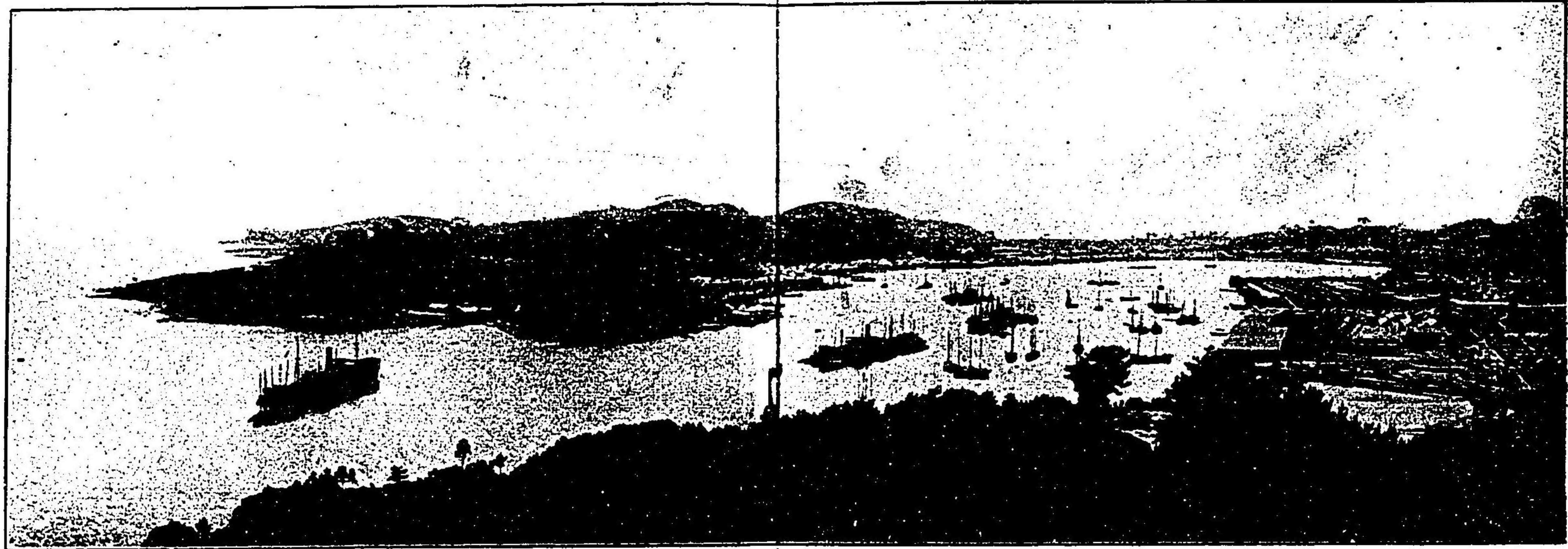
戶波大崎長 (乙)

浦の郷岐壹(甲)

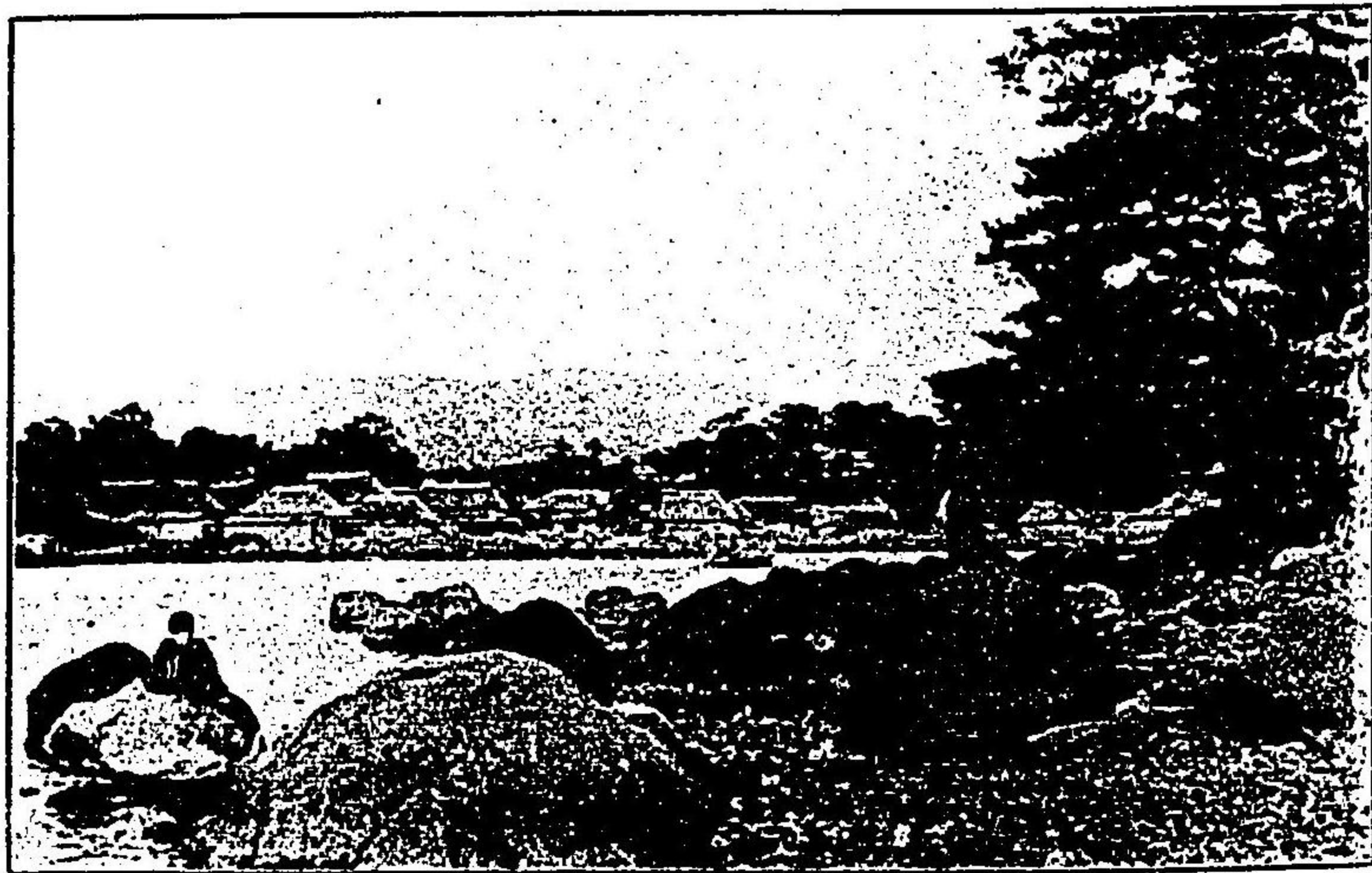


港原殿島對(乙)

港津ノ口前肥(甲)



港原島前肥(乙)



む望を浦ノ東りよ島寺村大前肥(丙)

陶土

高島焼

上野焼

東海岸なる雨龍崎に連亘せる石灰岩は、始原代に屬し、結晶質にして不純物を含まず、石灰製造の原料に適せり、姫戸高戸種ノ島等に於て、盛に石灰を焼成し、海運の便を籍りて、諸地方へ販賣せり。同郡築島の石灰岩も亦始原代に屬し晶質なり、セメント資料として之を採切す。八代郡日本セメント會社の石灰原料は即ち是れなり。

陶土

福岡縣早良郡七隈及び京都郡吉松に於ては、洪積層の下方に花崗

岩の分解せる良質の陶土を産す、採掘し得べき部分は、二尺乃至五尺の厚さを有す、即ち雅客の賞翫する高島焼の原料にして、製品の種類に依り、遠賀郡石峰村字小石産の陶土若くは肥後天草産の陶石を混合す、而して其の釉藥としては、早良郡有田の洪積層中に産する不純の褐鐵鑛を用ふ。製品は花瓶、置物茶器茶碗及び猪口等にして頗る雅致に富み、多くの産額あり。

同縣田川郡上野村字皿山に於ては、多くの土器を製す、是れ上野焼の稱あるものにして赤焼及び黄焼の二種あり、前者の原土は南方二里半を距つる夏吉村字小堤上に産する白色の陶土を用ゆ。該陶土は花崗岩礫を含める礫岩の

著しく分解して硅酸に富める白色の粘土に化成せるものなり。後者の原土は西方一里餘市場字堀切に産する合酸化鐵の赤色粘土に仰げり。舊時は産出多かりしも、現今微々として振はず、製品は粗造の茶器皿瓶等なり。

同縣企救郡柳ヶ浦及び大里に於ては、附近の田畔に産する粘土に細砂を雜へて煉瓦を焼成し、又同郡皿山に於ては、玢岩より變成せる粘土に、田土を混して煉瓦を製す。同郡猿喰に在ては、凝灰岩より化成せる赤色粘土を用ひて煉瓦を焼き。糸島郡今宿にては、田土を原料として、土管瓶及び煉瓦等を燒製す。田川郡畑猿田及び糟屋部乙犬所産の瓦煉瓦及び土管は、第三紀泥板岩の粘土に化成せるものを其の原料に仰ぎ、同郡中津産の瓦磚は洪積層中に介在せる粘土を用ひ、宗像郡下西郷熊田産の瓦磚は、花崗岩の霏爛せる爐土及び粘土を使用す。企救郡城野産の瓦及び瓶は、蟪田の洪積層より産する灰色粘土を原料とし、尙同地所産の耐火煉瓦は、以上粘土の下方に産する花崗岩の稍、粘土化せるものを原料に仰ぎ、何れも多少の産額あり。

佐賀縣西松浦郡有田に於て製出する有田燒は、其の原料を同所附近の分解

有田燒

せる流紋岩及び天草陶土に仰ぎ、兩者を混用して精巧なる陶磁器を製す。製品は主に伊萬里港に運搬せられて同港より輸送するにより、一つに伊萬里燒の名あり。年額四五萬圓を産すと云ふ。

佐賀縣藤津郡吉田村に産する陶土は、富士岩脈の溫泉作用を受けて白色の粘土質物となりたるものに係り、容易に水飛し易く、其の割合は土七分砂三分なり。該砂は柞灰を雜へて釉藥に用ふべく、製品の種類に従ひ、天草陶土の六割乃至八割を混す。目下製造家十數戸に達し、盛に諸種の日用品を燒製し、嘗に九州地方の需要に應ずるのみならず、多少朝鮮に輸送せらる。同郡柄崎村産の陶土は、細砂を雜へ、前者に較ぶれば水飛し難く、且つ少量の雲母並に鐵分を含み、吉田村産に比し遙に劣等にして、未だ陶器原料に供用するの運に會せず。

唐津燒

同縣東松浦郡唐津町附近に於て製造する唐津燒は、歷史上著名なり、原土は附近の花崗岩の分解せるものと、第三紀硅質泥板岩とを混用し、専ら禽獸の置物を造り、傍ら茶碗花活等を製す。又唐津瓦と呼び、唐津町の東部にて

唐津瓦

製造するものは、原料を山本驛附近の水田下部に存在せる粘土に仰ぎ、多くは朝鮮に輸出す。一箇年五萬圓内外の製産額ありて産物の一に算へらる。同縣三養基郡白石に於ては、閃雲花崗岩の分解したる陶土を産す、之れを水飛し、更に天草土を加へて、下等の陶磁器を製す。製造家十數戸あるも、年産額僅に四五千圓に過ぎず。

同縣神埼郡尾崎村にては、附近の粘土を採掘して素焼を製す。年額三千圓ありと云ふ。

三川内焼

長崎縣東彼杵郡折尾瀬村三川内にて製する三川内焼は、其の原料を同郡針尾島三ヶ岳産の粘土化せる白色流紋岩に仰ぎ、之れに天草陶土の幾分を混用す。三ヶ岳産粘土は、硅質に富めるも石英粒を雜ゆること尠なく、且つ粉碎し易きを以て稍、善良の陶器原料たり、製品は花瓶鉢德利水指花活茶器香爐等なり、而して粉飾顔料には、本邦并に支那歐洲産のものを用ひ、模様淡明工作精巧にして、其の優等なるものは有田焼を凌駕し、年々多額の産出あり。

波佐見焼

同郡上波佐見村三ツ股中尾永尾及び小樽等に於て製造する波佐見焼は其の

諫早焼

原料を、其の附近に産する白色流紋岩及び其の分解せる粘土に仰げり。優等品は該土に天草土三分の一を混じ、最優等品は其の半を混す。製品は磁壺德利茶碗にして、伊萬里鹽田肥後地方へ販賣し、年額二萬五千圓内外あり。

對馬焼

同縣北高來郡諫早町字栗面に産する褐色粘土は、頗る鐵分に富み、茶臼山に於て製造する諫早焼の原土なり、粗造の壺摺鉢等を燒製す。

同縣下縣郡嚴原に於て製造する對馬焼の原料は、同郡南室阿須産の石英斑岩及び其の分解せる粘土を用ひ、之れに天草土を混用す、比較的雅致ある日用器具を製し、主として朝鮮に輸出するも、未だ隆盛の域に達せず。原土は之を伊萬里大村佐賀鹽田等に販賣し年額七千萬斤に達すと云ふ。

天草陶石

熊本縣天草郡高嶺小田床下津深江郡呂々及び内原に於ては、白堊紀層を貫き岩脈を成せる流紋岩を産す。之れを天草の陶石と云ひ、俗に茶碗石の稱あるものにして、陶磁器製造の原料として本邦第一に位す。其の質緻密白色にして往、純白色のものあり、主として肥前地方の製陶地へ輸送せられ、又は近江京都美濃尾張東京等に販賣す。就中高嶺産のものは純白色にして京都向上

水平焼

等品は該地の陶石に限らる。其の高濱に於ける價格は、原石の儘にて一萬斤に付き五十圓、石粉としたるものは八十圓内外にして、他産のものは普通原石一萬斤に付き十二圓乃至三十二三圓なりと云ふ。

天草下島本戸村本戸馬場にては、水スイガイ平焼と稱する磁器及び陶器を製す、陶器の原土は本戸村地内洪積層中に介在せる粘土に仰ぐものにして、赭色及び灰白色の二種あり、赭色粘土は素地に用ひ、灰色粘土は凡そ等分の天草陶石粉を混和して使用する。釉薬には北西一里餘を距つる河原村産の粘土に灰を加へて用ゆ。磁器の原料は高濱村鷹ノ巣又は劍ヶ追の陶石粉を水飛したるものにして、釉薬は同石粉に柞灰を混じたるものなり。

高田焼

同縣八代郡高田村大字豊原字平山及び其の附近の諸所より産する高田焼は、象筭細工を以て名あり。其の原土は葦北郡鳩山竹内所産の分解せる白色流紋岩并に八代郡平山及び遙拜に産する白堊紀泥板岩の分解せる粘土を用ひ、素地釉薬共に之れに依れり。製品は日用器具に適せざるも、清酒にして雅趣愛すべきものあり。

薩摩焼

鹿児島縣に産する薩摩焼の原料は、霧島火中山築之尾温泉附近にある白土(噴氣餘土)并に川邊郡加世田村に産する白砂、揖宿郡鰻池四近のパラッチ及び粘土に仰ぎ、釉薬は加世田村附近産の白砂に灰を混じて用ゆ。製品は多く裝飾的日用品の内地向きのものにして、一箇年の産額四五萬圓なりと云ふ。

火山灰

火山灰

近來本邦に於ける諸般工業の勃興に伴ひ、一般建築材料たるセメントの需用著しく増加し、爲めに甚だしく價格の騰貴を來たせるの時に當り、殆んど無盡藏とも稱すべき天與のセメント材料を發見したるは豈に快心の至りならずや。天與のセメント材料とは何ぞや、本邦殆ど到る所に堆積し地盤の一部を構成する火山噴出物、所謂火山灰是れなり。此謂はゆる火山灰と稱するものは火山灰 Volcanic Ash 凝灰岩 Tuff 泥質熔岩 Mud Lava 及び分解せる火山岩等容易に粉碎し得べきもの、總稱して、火山國たる本邦に於ては其の原料は殆ど到る處に發見すと雖も、之を採掘して天然セメントの製品を得るは目下の處單に九州唐津地方に限るなり。今本地方に於ける火山灰産出の狀況を概説すべし。

唐津火山灰の沿革

唐津火山灰は、去る明治二十七年佐賀縣東松浦郡打上村大字菖蒲字筒江菖蒲峠掘削に於て發見せられしを嚆矢とす。越えて二十八年六月菖蒲峠に原料を仰ぎ大に事業の發展を計りしも、不幸にして一時中止の不運に會せり。同三十五年長崎市上水工事の起工に際し、二三の有志の協力に依り、火山灰製造工場を設置し、菖蒲峠筒江及び權現山の三箇所より原料を採取し、佐世保鎮守府并に長崎水道事務所之れが實功審査を出願せり。後更らに唐津火山灰商會起り、同時に個人として該事業に従ふものあり、三十六年五月佐世保鎮守府に於ては、該火山灰の有効なるを確め、火山灰商會は之れが納入を命ぜらる、之れ唐津火山灰の實地に使用せられたる始なり。同三十七年九州火山灰合資會社なるもの組織せられ、菖蒲峠の外、名護屋村の原料採掘の權利を得、同灣に工場を設け、三十九年に至り二三の火山灰製造事業を買收合併せり。同四十年六月に至り、日本火山灰株式會社及び個人としては澤山坂口、太田帝國火山灰製造所等、相前後して興り、争ふて之れが採掘精製に務めたり。

火山灰の産地

如上諸會社并に個人の採掘に係れる火山灰の産地は、唐津町の北西約二里を距つる打上村の地より、名護屋村に連亘せる半島一體の地積を占む。目下採掘せる原料産地は、東松浦郡打上村字菖蒲石室藤尾打上赤木湊村字屋形石横野相賀等にして、此の他未だ採掘に着手せざる地方は、打上村岩野加倉高野八床及馬渡島等にして尙採掘せば其の産地を多く發見すること難からざるべし。

火山灰現出の狀態

此等の地方に敷衍せる原料は、其の上層は普通の土壤に被覆せられ、其の下に上土ウツツチと稱する新鮮なる火山灰あり、其の下層地表より約三尺乃至六尺の所に介在せるものは、即ち採掘すべき部分にして、厚さ一定ならず、時に數丈に達する厚層あり。其の色黝色乃至赤紫色粘土様にして多くの孔穴あり、稀に白色の長石及び黑色の輝石角閃石黒曜石等を挾雜す。此の火山灰を製粉とするには二種の方法あり、一つは手製法にして、他の一つは器械製なり、手製法は原料を日光に曝露し、更らに加熱乾燥を行ひ打撃して細末となす。近來手製法に代ふるに器械裝置を用ふるに至れるは非常なる進歩と稱すべき

製粉方法

瑪瑙
磷英石
砒石
硅化木
螢石
方解石
菱鐵礦
磁石
白鉛礦

豊後大野郡尾平字ハジカミにては、斧石と共生し、包裹物の爲めに緑色を帯ぶ。日向西臼杵郡岩戸村字山裏に於てはダトリットと共産す。小晶にして無色透明なり、往、傾軸式双晶を成せるものを發見す。肥後天草島産は小豆大の微晶にして無色透明なり、肥前五島奈良島は傾軸式双晶を成せる水晶の産地として著明なり。平戸島首、田及び中津良には瑪瑙を産す、白色或は赤褐色にして採りて種々の裝飾物を製作す。磷英石は肥後飽託郡石神山及び薩摩伊佐郡山野村字布計に産し、火山岩の空隙に六角板の結晶を簇生す。豊後田川郡津野村に産する硅化木は赤黄又は黝黄の斑紋を呈し同國鐵畑産は褐色を帯ぶ。螢石は豊後尾平産のもの有名なり、淡紅色を帯び透明なり、灰鐵輝石と共生す。又尾平字ハジカミ産は無色淡紅淡緑等相混じ天然の表面は稍、脂肪光澤を放つ。日向嶺峯にては銅鑛の表面に方解石の結晶を出し、豊後内の口産の菱鐵鑛は黄褐色を帯び、其扁平なる菱面は彎曲せるを特徴とす、多くは黄鐵鑛と共産し、表面屢、酸化して黒變するを見る。磁石の一種として管状を成せるものは、豊後觀海寺、肥後阿蘇等の温泉中に沈澱生成せらるゝなり。白鉛鑛は

重石
ウルフラム鐵
クロム鐵鑛
磁鐵鑛
藍鐵鑛
葱臭石
異極鑛
ダトリット
雲母
綠泥石

豊後尾平産のもの名あり、豊前田川郡三ノ嶽よりは脈石の間に重石を産す、多少變質して黑色乃至暗褐色を呈し脂光を放ち、變質せざるものは白色半透明にして金剛光あり。薩摩尾久島早崎にては板状を爲せるウルフラム鐵鑛を産す。クロム鐵鑛は豊後大野郡鷲谷村、筑前嘉穂郡八木山、同糟屋郡篠栗、肥後他託郡津森村等に産し、何れも蛇紋岩中に介在せり。豊前田川郡三ノ岳に於ては磁鐵鑛を産す、又肥前西彼杵郡大串村附近産の同鑛物は、八面體の單晶を成し、滑石剝岩中に介在せらる。孰れも岩石中に點布するものにして實用とするに足らず、其の他薩摩郡下飯島字手打よりも花崗岩中に該鑛物を産出す。日向西諸縣郡真幸村字島内産の藍鐵鑛は、灰色粘土中に土状を爲して存在す。肥後飽託郡金峯山産のもの亦粘土中に介在し、木葉の假像をなす。豊後大野郡木浦産は葱臭石と共生し、淡藍色纖維状をなす。異極鑛は豊後木浦産のもの有名にして、赭色土壤の空隙に簇生す。日向西臼杵郡岩戸村字山裏小字登尾よりは斧石、石英、柘榴石、雲母、綠泥石、方解石等と共にダトリットを産す。豊後尾平及び大隅高隈山よりは電氣石を産す、後者は石英及び雲母と共産す。

電氣石
 硅灰鐵礦
 クエスプ石
 橄欖石
 ダンプリット
 柘榴石
 斧石
 善敷輝石
 角閃石
 斜方沸石
 輝沸石
 通商上より觀
 たる九州の位

豊前企救郡柳ヶ瀬豊後大野郡木浦よりは硅灰鐵礦を産す。クエスプ石は豊後木浦に産し、橄欖石は肥前西松浦郡東山代村字瀧川西の岳に玄武岩の分解物中より輝石と伴ふて産す。ダンプリットは豊後尾平東品洞に出で、柘榴石は豊前企救郡柳ヶ浦豊後大野郡木浦及び尾平の諸地に産出す。斧石は豊後尾平殊に同地大倉谷、パジカミ産のもの頗る著明にして數多の美品を出だす。同様の礦物は日向西臼杵郡山裏村字登尾に在り。又善敷輝石は豊後木浦産のもの名あり。筑前糟屋郡志賀島村及び豊前田川郡日吉村に角閃石を産す。志賀島産は閃綠岩中に斑晶をなして介在し、日吉産は綠色粗大の結晶を爲せり。斜沸石は大隅始良郡菱刈肥前長崎高銻島同平戸等に産す、菱刈産は淡赤褐色にして輝沸石と共産し、高銻島産は無色の細晶をなし、平戸産は小晶にして玄武岩の空隙を充填せり。

六 商 業

九州は古代既に我國とアジア大陸地方との政治的通商的關係に於て、帝國

の各大島中最も重要な意義を有せしことは何人も知る所なるべく、而して其原因の主としてこの大島の占むる優秀なる位置と、その特殊なる海灣の發達とにあるとも又説くを要せざるなり。往古既に我が國の三津と稱せられし海港の二つ即ち博多津坊津の共に此大島の南北にあると固より偶然にあらず。若し其れ今日も猶ほ博多商人の名の大坂商人近江商人の語と共に吾人の記憶に存する事實を審かに討究したらんには、現時の位置こそ大に下れ、起源の遠きとに於ても、又その生命の長きことに於ても博多の大坂以上たると自ら明かなるべし。げにも通商上に於ける九州の位置は上古は中古、中古は近古と變移すとも、依然として其値を失はざるのみならず、時代の進むに従ひ、常に最も新しく最も活氣ある商業地をなしたりき。長崎の近古に於ける、門司の現代に於ける其證なり。吾人は東京若しくは大阪の我國商業上の地位を述べし際に於て、その商業勢力範圍は概ね日本帝國を二分することを注意せり。又此著の各編を占むるところの地方に於て、常に東京か大阪か時に名古屋かの商業勢力下にあることを説けり。然るに九州は固よりその大體に

於て大阪の勢力下に立てる地なれども、仔細にその商業關係の事實を考究するに、必ずしも阪神本位なること四國の如くなるにあらず、商品の如何によりては別に直接東京と連絡するものあり、又裏日本沿岸若くは北海道に對し、需給關係の媒介となり、隱然内國商業上の一中樞をなせるが如き感無きに非ず。只中央大市場を缺けるを以て憾とするのみ。殊に外國貿易に至りては前諸編に述べし地方の如く、此地方を出入する商品は阪神又は横濱等を経由すること極めて少く、多くは直接に行ふものなりとす。是れ等は蓋し主として九州と商業上相關係する外國并に内國諸地方との距離若しくは交通關係より來れるものなるべし。此點より觀れば一方日本海岸地方と商業上の關係を有し、他方帝國貿易の上より至大の關係を有する清韓に最も近き九州は、本州の大部分及び四國に對し、別に一個の系統をなせる商業區を形成せるに似たり。彼の九州縦貫鐵道開通が、今後九州の人文發達殊に商業上の活動に對し、如何に多大の影響を與ふるかと云ふの事實につき識者の今より刮目する所以のもの實にこの理由あればなり。

南部九州と北部九州

商業上の小分野

九州は前既に述べしが如く、一部の工業を除きては物資の産出豊富なる上に、之が運搬はおもに船舶によりて殆ど遺憾無きまでに行はるゝを以て、九州の全體を通じ、商品は全年を通じ常に移動しつゝあり。只陸地内部の交通は割合に進歩せず、明治四十二年迄は九州の鐵道幹線も全通せざりしが故に、海岸を離れたる陸上の生産は遅々として發達せず、常に沈滞の氣味を呈したり。殊に九州山系の南方に位せる宮崎鹿兒島の二縣の如きは地形の障害を蒙ること著しく、一般開化の發達は殆ど事毎に海上交通にたよらざるを得ざる不便を忍びつゝ今日に及びしを以て、南北九州は外形の如く一體をなさず。之を大體に觀るも宮崎の全部鹿兒島の大部は大阪の商業勢力圏中、四國よりも更に遠きにあるを以て、北部九州とは經濟上殆ど何等相關せざるが如き嫌あるを免れず。こは北部九州殊に福岡附近の人事上種々の活動花々しきものあるに對して、此南部地方は極端なる反照をなせるものなり。更に九州の各地につき商業上の小分野を劃する時は大凡そ三つとなすを得べし。第一は東半即ち大分宮崎より南端鹿兒島迄の三縣より成り、互に殆ど

何等の關係なしに大阪商區に屬せり。第二は佐賀熊本福岡にして、別に自ら一團をなし、大中心を作成するには至らざれども、現時は概ね福岡門司の二市を商業地として圍繞するものなり。熊本市は九州にては固より商業上の一中心なれども、その取引關係は單に肥後を中心とせるものゝ如し。第三は長崎縣全圓に肥後天草列島をも加ふる一分野にして、悉く半島若しくは島嶼より成り、沿岸の利用も不如意がちなる第一の分野に對しては、全然反對なる所謂海の地域たり。その中心とも見るべきものは固より長崎港なり。若し其れ第一を陸の分野となすべくんば、第三は海の分野なるべく、第二は海陸相中和を得たる分野なるべきか。第一の分野は商業發達の上より觀れば殆ど全く原始的狀態にあるものにして、自己の生産物も自己の所要品も共に他を介して融通すれども、第三者は假令大なる統一點は無くとも、分散せる各生産地が自ら働き、需給すべき商品をその地域は勿論第二區方面に向つて有無相通するを常とす。然るに第二者はその地域はほゞ商業上の中心地を有し、豊かなる生産物を出し、一般取引關係の盛んなること、一箇純然たる商業地を

商業都邑の分布

以て許すべき處なり。其商業區域は裏日本沿岸の諸地方より北海道に及び、兼ねて中國の西部四國の西北を包み、貿易品は種類により第一分野の北隅即ち大分縣のもの又は第二地方のもの迄も吸收輸出し或は輸入す。商業都邑の分布につきて述べれば、生産并に交通上の位置關係より北部九州に最も多く、南するに従ひ地方的小商業地處々に散點するに過ぎず。又商業中心としての各都邑の經濟的規模及び活氣の程度も北と南とは雲泥の差あり。一般に瀬戸内海沿岸の商業地の如く、各都邑は自然の形勢上海港としての性質を具備し、商品出入は大部分海運を利用す。北部海區即ち内海より玄界灘を経て有明灣に至る九州邊縁の半ばは、這種の海港的商業地に富み、其中にて門司は西南日本の大部の海上交通線を結束する位置に立ち、此處を通過し若しくはこゝに寄航する大小船舶は、隻數、積量共に帝國にて無比なり。されど門司は貿易港としての外は商業地と言はんよりも、むしろ交通都市としての意義大なり。是に反して博多は貿易港なれども、輸出入委微振はず、却つて内國商業地として九州中之に比肩すべきものなし。博多も長崎もそれ

ぞれ内外國商業地として重要なれども、長崎は位地の關係上後背地を有せず、單に仲繼所若しくは船舶の休養碇繫地とも稱すべく、實際活動はさまで顯著ならず、門司の興隆と背馳しつゝある如し。比較的大なる都市此外に久留米、佐賀の如き所あれども、海の利用盛大なる九州の都會としては、其利便を缺き外觀頗る振はず。殊に佐賀市を以て然りとす。久留米はむしろ生産都會と見るべし。熊本市は大きな人口并に地方開化の上より觀て九州の核たる値あれども、佐賀市の大なるものゝ如く、消費地に過ぎざる特徴は事々物々に見るべし。却つて八代は小都會なれども貨物の集散盛んなり。東北海岸にては中津最も著しく、四近の産物こゝを経て他地方に出づ。大分臼杵より宮崎方面に出づれば漸く寂寥を加へ、縣廳若しくはその他の主要官衙存在すとも、市中は常に閑散なるが如し。鹿兒島市は南部九州にては第一の都會にして、沖繩方面との經濟關係は頗る大なれども、また地勢位置の然らしめしところとて、何となく孤立せる感あり。鐵道九州本線の全通は此市に對して一新生面を與ふるものなるべし。

外國貿易港としては九州は十二港を有し、臺灣の十一港を除き、全國總貿易港數三十七に對し三分の一を有す。門司若松博多三池以上福岡縣、唐津住江(以上佐賀縣)、長崎口津、嚴原鹿見佐須奈(以上長崎縣)、三角熊本縣是なり。此一箇年の輸出入總計、明治四十二年に於て約二千八百萬圓、同年帝國總貿易額の約八億圓に比すれば、港の數多き割合には出入貨物の價額稍少き憾あれども、帝國の重要輸出鑛産の一たる石炭の大部分がこの中にあるを想は、此等諸港の多數は石炭港の特色あること自ら明かなるべし。なほ門司港の如きは貿易に關係する出入船舶の噸量大なることに於て神戸の次に立ち横濱の上にある。貿易高多きは門司を第一とし、同年一箇年分約三千萬圓、長崎若松三池は之に次ぐ。門司若松は殆ど専ら石炭の貿易を以て立ち、殊に若松の發達は極めて顯著なるものなり。以下口津唐津博多は各百萬圓を上り、三角嚴原住江佐須奈鹿見はそれ以下なり。但し對馬の三貿易港はもと朝鮮との關係を考慮したる上より定めたるものにして、彼とは日常生活の方面にて密接の關係あり。商品としては輸出にて、石炭の輸出は最も目覺しく、朝鮮清國

に入るべきもの例へば林産水産の如きはその次に位す。輸入の重なるものは砂糖・石油・鐵及び鋼の粗製品并に大小豆・豆糟類にして、關係多きは朝鮮・關東州・清國等なり。

要するに北部九州は九州經濟の大中心とも稱すべく、(後章掲出諸表参照のこと)商工業の隆盛全國中にも有數の位置にあり。左に主要商業都會につき、九州商業の一斑を示さん。

(1) 商業都市一斑

福岡縣は全國にても有數の産業興隆の地とて、商業の盛んなること固より九州の首位にあり。試に明治四十一年の生産力なりとて福岡縣統計書の示せる處を観るに、右一箇年の産出は農業五千萬圓、鑛業石炭はこの大部分を占む四千一百万圓、工業四千萬圓、他は公有林社寺林民有林よりせる林産約三百萬圓、漁業二百萬圓餘、牧畜一百万圓餘を算し、商業機關の整頓事業の勃興と相俟つて、一切の方面より第一者たらんとする希望を遺憾なく説明せり。先づ北方より記せんに、門司は帝國の西關を扼し、海上は内國系の航路の大

門司市

部并に支那・朝鮮その他東洋又は泰西諸國に通ずる船舶を或は集め、或は通過せしめ、陸上は日本群島を縦走せる鐵道は此に至りて本州と九州とを連ね、かねて東洋の大航路と連結する位置にあるを以て、その港灣として商業地として年々面目を新にするは、我國の都會中他に類を見ざるところなり。是れ畢竟地の利を得たるにも因るべしと雖も、一部は後背地に極めて豊富なる筑豊炭田を控へ、大航路に當れる船舶に大なる迂路を取らしめず、迅速に輕便に且つ幾何にても多量に購買し得る自由を與ふるに因らざばあらず。明治廿年頃迄茅屋蟹舎の點綴せるに過ぎざりし地の、僅々廿年にして此大飛躍をなせるは、自然に勢を成し來れる經濟上の大發展とて驚くべきものたらずんば非ず。門司税關・門司港務部・日本銀行西部支店・三井銀行門司支店・帝國商業銀行門司支店・住友銀行門司支店・廿三銀行築港會社・淺野セメント會社等あり。對岸の下關とは唇齒輔車の關係を有し、互に夾める一綫の水道は晝夜四季暫時たりとも駛行の船影を絶たず、碇繋せる幾多の船橋は林立の形容を以て盡し得ざる壯觀を呈せり。殊に石炭積込みに従事する者即ち石炭仲仕を乗せたる

石炭賣船の入港碇泊せる汽船軍艦の傍に蟬集し、瞬くひまに其業を完了する如きは、海國たる日本國中、門司の如く敏活なるはあらず。一萬五千の石炭仲仕の門司によりて生くる所以は、又一面に門司の此等勞働者によりて立つ所以を示す者なり。長崎港の近古の貿易港してと古びたる偶然にあらず。明治四十二年の貿易額は輸出入通計二千九百八十三萬圓餘、實に貿易額に於て横濱神戸大阪の次位にあり。このうち輸出は一千四百十萬圓、輸入は一千五百七十二萬圓餘。石炭^{五八四}綿織絲^{二六五}精糖^{一三五}及びセメント^{七六}は輸出品のおもなるものにして、綿綿^{六〇九}砂糖^{二四一}豆糟^{一九六}石油^{五三三}は重要輸入品なり。内國商業地としておもに北部九州の物資を集散し、その商區は中國の西部、四國の西北部より遠く日本海沿岸地方にわたる。金融機關の特に多數存するはこの故なり。尙特に韓國に對し下關と共に航路の起點となり物資供給の口をなせるは注意を要す。明治四十一年の統計に據れば、商業戶數の多きことに於ても福岡縣第一なり^{五三九二戸}。

小倉市

小倉市は九州本線の東部九州に通ずる豊州本線を分岐するところに當り、

若松町

第十二師團司令部所在地として聞ゆ。商業地としては、縣の四市中最も振はざれども、製紙及び小倉製鋼の二工場の外、附近に日本製糖會社の工場もあり。九州の工業市と見るべし。古來の名産小倉織は今は大に衰へ、産額僅々五千圓を算するに過ぎず。百三十銀行小倉支店その他銀行數二三あり。尙市より南方にある北方町に向ひ馬車鐵道を通せり。

近傍に枝光製鐵所を控へたる若松はこの帝國の一大工場と密接の關係あるは言を要せざるところなるが、尙石炭輸出港として九州第二の貿易港にして、最近の趨勢よりして之を察すれば、此點に於て今將に門司を凌駕せんとする機運に臨めり。石炭輸出額比年に増加し、明治四十二年には門司の五百八十四萬圓に對し、四百五十八萬圓となり、彼の年々少しづつ減少するに比し、此の年々益増加する事實に徴して明かなり。是れ此港は新に築港成り、門司の如く潮流激甚ならず、安全に荷役をなし得ると、筑豊炭田に對しては彼よりも近く、且つその運搬は鐵道及び遠賀川の利用により、時間節約運賃廉價、荷卸機械の使用便なればなり。同築港事務所に於ては、更に二百萬圓を抛ち、

港灣を浚渫し約廿五尺の深さとなし、五六千噸以上の大型汽船をも自由に入港せしむる計劃をなし、九州鐵道管理局にても今一臺の荷卸機械を増設せんとすと云へり。明治四十二年の貿易は輸出五百四十一萬圓(内石炭四百五十八萬圓)、輸入約百廿五萬圓(内鐵鑛塊鐵百廿萬圓)、若松貯蓄銀行あり。鐵道は對岸戸畑を九州本線通過し、筑豊本線は此地より起り前述炭田地方に通ず。

福岡市

福岡市は古の博多港を併せたる九州の大商業地にして、すべての點に於て最も活動しつゝある福岡縣の現勢と最も痛切なる關係を有し、後の表にも示せる如く、博多米穀取引所の一箇年の取引高全國中にも大に顯著なるは、即ちこの都市の商業地たるを證する者なり。福岡と博多とを併せたる此市は固よりその内部に於て互に異なる性質を併有するはその處なるべく、政治的都市としての舊福岡に對して、舊博多は飽く迄も商工業地として立てり。博多織・博多人形はいづれも歴史ある生産なるが、なほ此等以外に雜多なる家内若しくは工場の工業行はれ、大なるものには鐘淵紡績株式會社博多工場あり。又筑前國輸出玄米同業組合をはじめ重要物産同業組合十を數ふ。商業會議所

は其成績九州中第一の評高く、金融機關としては住友銀行博多支店百三十銀行其他株式會社十七銀行外二銀行及び福岡貯蓄銀行福岡縣農工銀行、他に物産陳列所等あり。中古太宰府を置きし以前より既に九州の港市として、市場として發達せし地とて、所謂博多商人は一種九州風の商習を襲ひ、他の關西商人とは區別するところあるものゝ如し。外國貿易港としては今も博多の名を存し、明治四十二年に輸出は九萬圓(内石炭約四萬圓)、輸入は約九十八萬圓(豆糟及び大豆は多額なり)なり。西北の風浪には汽船の荷役困難なるにより對岸海中道なる西戸崎^{サイトサキ}を補助港とす。おもに運炭線たる博多灣鐵道は彼に終る。舊博多の東なる吉塚驛(九州本線上にあり)よりも九州本線の支線東に向つて出で、亦運炭に便すれども、今日の貿易港としては門司若松を近傍に有するこゝとて甚だ振はず。尙市内には東西の主要街を貫き新たに電車鐵道敷設せられたり。魚市場としては全國中東京大阪神戸京都に次ぎ、明治四十一年に百六十萬圓許の取引をなせり。朝鮮對馬附近の水産は殆ど悉く此地に集るにやれり。

久留米市

久留米市は筑後の大都會にして、九州本線を通過し、筑後川の舟運は又此地をして物貨集散の一中心たらしむるに適す。福岡小倉の如く舊城地なれども市街の景観は引き立たず。有名なる機業地として久留米耕株式会社久留米精株式会社その他筑後木蠟等の物産同業組合あり。機業生産及び足袋の産あるは工業の條に述べたる如く、この點より觀るも重要な生産地なり。又鐘ヶ淵紡績株式会社久留米工場もあり。久留米商業會議所其他久留米貯蓄銀行株式會社六十一銀行等の金融機關あり。尙交通にて筑後川の中流に臨める米産地の一中心吉井とは狭軌鐵道を通せり。この外第十八師團司令部以下所屬各科兵營は、市を東南に距ること里餘の處にあり。

三池港と大川町

福岡縣には大牟田の西南に當り三池と稱する貿易港あり。未だ港市を形成せざれども、三池炭田の中心たる大牟田町の港と稱すべきものにして、大規模なる築港新に成り、明治四十二年には輸出二百五十三萬圓(内石炭は二百五十二萬圓)、輸入十二萬圓に達し、縣下四貿易港中博多の上に位せり。大牟田は三井家の中央炭田とも云ふべき處なるが故に、その施設に係る諸工場多し。

佐賀市

また鐘淵紡績株式會社三池工場も存す。筑後川の下流汽船の溯江極限の處に大川町あり。河港としては若津港と稱せらるゝ地なるが、廣き筑紫平野の物産、并に筑後川の上流豊後の一部よりする貨物は此地によりて集散する量尠からず。筑後米花苳等の搬出、日田木材の積出しの如きその一例なり。大阪との間航路開け四近と大阪神戸との商業的聯絡をとる仲繼所たり。此他筑前の津屋崎港の、和船港として對馬壹岐との關係深きと、豊前宇島港の瀬戸内系の商業地たるに等注意すべきもの内陸沿岸共にあれども省略す。佐賀縣は肥前米唐津杵島の石炭産地なれども生業比較的各方面に亘りて發達せざる嫌あり。佐賀市は市として又縣廳その他諸官衙のある地として縣の中心と稱すべき處なれども、商況常に沈滞がちにして市街の外観甚しく揚らず。然れども古來の大都なるを以て各種の商業機關いづれも備はれり。即ち商業會議所米穀取引所その他銀行には株式會社佐賀百六銀行外三四の銀行あり。筑後川の河口諸富とは馬車鐵道通ず。諸富は筑後の若津港と對する港にして、肥前米をはじめ地方生産物の積出地なり。

唐津町

唐津は有名なる唐津炭の輸出港にして、かねて又木材魚類等の市場を以て顯はる。南方長崎本線よりは久保田にて岐出せる唐津線此町を過ぎて西港唐房灣に来れるあり、港灣は東西兩港共に風浪を防ぐべく、殊に西港は水深といひ港灣の地形といひ好箇の良錨處たり。されば唐津港の歴史は北部九州にては博多と共に遠く、上古三韓との外交關係ありし頃には松浦灣とて大に繁盛を極めたるもの、如し。唐津の主要石炭はこの南方唐津線に沿へる處に多量に産出し、鐵道と並に町の東を限れる松浦川の流とを利用して此地に集る。而して此等は外國貿易品として直に汽船に積出さるゝものもあれども、中には帆船又は和船により九州西北諸港の間の有無を通ずるものも尠しとせず。帆船和船の松浦川の河口を入り舞鶴城の下にかゝるもの常に多く、帆樫林立して此港商業の活勢を示せり。土地の産として、唐津焼あれども、舊法廢れ産額またさまで多からず。されば港を出入する貨物は上述二三種を除けば一般日用雜貨等なり。銀行には唐津銀行西海銀行唐津貯蓄銀行等あり、朝鮮との間には大川運輸株式會社とて縣及郡より補助金を受くる汽船會社、定期航路

伊萬里港

を開き對馬を経て相往來す。唐津の貿易は明治四十二年に輸出百六十一萬圓(内石炭百四十四萬圓)、輸入約五萬圓(主に大豆米を韓國より入る)なり。尙東方濱崎方面との間には馬車鐵道通す

伊萬里も亦古き九州の港にして、夙に有田燒搬出に名高く、又西北海面の水産は夥しく此に集り汽車によりて長崎佐世保佐賀その他の地方に散す。古來九州屈指の市場とて、他の古き商業地の如く商家の屋號は國名を冠す。有田よりは伊萬里線九州本線より岐れ乗り、海路は長崎博多神戸大阪と通す。但し港は淺く汽船を深く市街近く入るゝには不便なり。

住ノ江港

住ノ江は近年開かれたる有明海岸の貿易港にして、背後の杵島炭輸出を目的とす。明治四十二年には約廿六萬圓の額に達せり。貿易は輸出に限られ、港市は未だ發達せず。

商業分野より觀て長崎縣は貨物一處に集中すべからざる性質を帯へることは前既に述べたり。殊に地方産として著しきは海路直に消費地に向ふべき水産物を主とし、米穀は自個の産出にては不十分なるより、消費地は直接陸海

長崎市

路其れ々々供給地より購入する状態なるを以て、縣内は場所により或は熊本縣島原半島)或は佐賀福岡二縣(平戸早岐諫早方面)又は韓國(壹岐對馬)と密接の關係を有す。往時島帝國唯一の開港場として隆々の勢、天下を風靡せし世界の港長崎も現代に於ては帝國はおろか、その商業上の後背地は肥前半島にも及ばず、此點より觀て此港は全く東洋の孤島港の如し。蓋し時勢の變遷なり。しかれども港灣はリアス式海港として殆ど理想的の發達をなし、周圍の風景は目覺るばかりに美しきを以て、休養碇泊場としては、位置といひ地形といひ、將又商習の自ら外人に適する上よりといひ共に我國にては特徴ある貿易港にして、貿易額上著しき點無きに拘らず、出入船常に多きはこれがためなり。殊に港の西岸には東洋第一の三菱造船所あり、埠頭には税關假置場及び自由倉庫會社あれば、東洋を駛走する艦船は多く一旦は此處に錨を投じ、西歐文明の入口としての史蹟に對し、限り無き感懷にあこがるゝもの尠からず。清國を相手とせる貿易品のうち殊に水産物(鰯乾鰯海參鱈鱈乾鮑乾蝦罐詰鮑)は多く在留清商の手によりて中清南清と取引す。この外林業の條にて述べた

る椎茸清國に向ひ、木炭は關東州朝鮮方面に向ふ。港口の外に横はれる高島端島の石炭も輸出せらるれども、一箇年五十萬圓にも上らず。而して輸入品は造船所の使用品たる鐵及び鋼の粗製品明治四十二年に一五七、豆糟(同年一七八)の外石油(南洋のスマトラ)肥料用獸骨韓等に止る。通じて明治四十二年の貿易は輸出三百五十八萬圓、輸入九百三十一萬圓なり。清人を顧客とせる關係上商習清商に適し、彼國人にして此港の商業に成功せる者は多數在留し、公同事業、その他市の經營事業に對し、資を分つもの尠からず。ロシアとの交戦以前には彼國との商業も盛なりしかども、戦争以後彼我國交關係は回復せしに拘らず、敦賀港新興せしたため、概ね昔日の如き關係を失へり。諸官衙の外商業會議所商品陳列所長崎税關長崎港務部、其他銀行にては十八銀行株式會社長崎縣農工銀行株式會社長崎貯蓄銀行あり、銀行の支店には合資會社三井銀行長崎支店株式會社日本商業銀行長崎支店橫濱商工銀行長崎支店等あり。又市街の附近に長崎高等商業學校長崎醫學專門學校設置せらる。尙通商に關係せるものには清國外八箇國の外國領事館あり。此地には磚茶玻璃製造

佐世保市、口津港

等多少注意すべき製造工業行はるれども、通じて造船所以外は規模大なるもの無し。名産には鼈甲細工、珊瑚細工、煙草及び針あり。前の二つは寄港外人を顧客とす。交通線は佐賀縣鳥栖にて九州本線と岐れたる長崎本線後ろより達し、航路は九州西北海岸の沿岸航路をはじめ我國及び外國の東洋諸航路は大抵此地を過ぐ。又水底電線は臺灣ウラヂポストク、上海等の間に設けらる。

長崎の北には鐵道長崎本線に沿ひ大村、早岐等の小商業地あり。早岐は西海水産物の大集散地なり。早岐より佐世保支線佐世保市に通ず。佐世保は第三海軍鎮守府ある軍港とて、商業上より全く消費地に屬し、株式會社佐世保銀行及び他の銀行支店二三あり。大連に通ずる水底電線出づ。平戸島にある平戸も長崎と並び古き港なれども今は外國貿易には關係無く。捕鯨根據地として重要な港市なり。島原半島にては島原、口津顯はる。島原町はその南に隣接せる湊町と共に半島東岸の一小商業地をなし、銀行會社も各二三を有す。有明灣岸諸港と長崎とを連絡する航路は此地にも寄航す。半島の南端に近く口津あり。貿易港として三池炭田より齎らせる石炭を貯へ、便宜販賣する所

福江、嚴原諸港

熊本市

にして明治四十二年の貿易額百八十九萬圓のうち輸出百八十二萬圓石炭一四〇〇噸輸入七萬圓未滿なり。近ごろ三池港開港の爲に其繁榮を奪はるる傾向あり。

五島列島の福江、壹岐の郷浦、對馬の嚴原共にそれ〴〵各島の主要市街なれども人口も少く商業もさまで盛大ならず。嚴原は北に在る鹿見、佐須奈と共に専ら朝鮮に關係する貿易港なれども、商品價額大ならず。明治四十二年の貿易額は嚴原は廿九萬圓、佐須奈は約十九萬圓、鹿見は十三萬圓にして、いづれも輸出は輸入に優り木炭、木材等を出し、米、大豆を入る。由來對馬と朝鮮との關係甚だ深く今日朝鮮に於ける對州人の發展的勢力の甚だ大なるも、この位置自ら然らしめしものなり。

熊本縣は陸産頗る豊かにして中にも米麥の産は頗る多く肥後米は市場に聲價あり。又林産、水産にも富めるが故に他地方との商業關係頗る深し。されど工業は甚だ發達せず。之に加ふるに陸上交通は前三縣に比して不如意を免れざるが故に、縣全體の地産がそれぞれ移動し融通する程度迄には進まず。されば熊本市の如きも、昔の大藩所在地として市街も大に、諸官衙學校等の設

置も九州としては少からず集められたれど、商業地としては稍々閑散にして、主要街は極めて狭小なる面積を占む。蓋し縣の重要産たる米穀の如きも、主産地は北部菊池川沿岸なるを以て、多く彼地より他に搬出せらるゝを常とし、木材はおもに八代より、水産物は天草方面又は八代灣邊より直に他に出づるを以て此地は殆どその外に立てる觀あればなり。商品陳列場の外工場としては鐘淵紡績株式會社工場最も著しく、地産としては特に擧ぐべきものなし、然れども市街も大きく、師團をはじめ官衙學校等の如く、消費力盛んなるもの。集まれるが故に之に支配せらるゝ商業行はる。商業會議所米穀取引所其他銀行には株式會社肥後農工銀行株式會社九州商業銀行株式會社九州貯蓄銀行第九銀行等あり。尙此地にはハワイ其他の外國に出稼する移民を取扱ふ會社にて有名なるものあり、熊本移民合資會社九州移民株式會社はなり。交通機關としては鐵道九州本線の西部を通過せる外に、南は水前寺、東は大津に通ずる電車鐵道あり、又海運の便を圖る港としては有明海岸に百貫石あり、同灣岸諸港の間を航する汽船の寄航地たり。

隈府町・八代

熊本市の外には北部に隈府南部に八代あり。隈府は附近の山鹿等と共に肥後米の集散の中心となり各二三の金融機關を有せり。八代は玖磨川の河口右岸に位し、陸路薩摩に入るべき交通線の分岐點となり、又八代灣沿岸航路の要地たるを以て百貨四近の地より輻輳し或は海路或は鐵道によりて之を他に搬出す。主要なるものは球磨川沿岸其他の木材にして、その工業として八代杭木合資會社あり、又日本セメント會社八代工場あり。

以上の外尙小商業地各地に分散すれどもいづれも特記するに足らず。唯宇土より九州本線とわかれたる三角支線の終點附近に三角港あり。宇土半島と天草上島との間に位し、貿易港として、明治四十二年に輸出五萬八千圓(内セメント五四^{千円})、輸入二十九萬圓(豆糟を主とす)に達せり。鐵道の終點三角(際崎)は數町距る。

大分縣は海陸産物殆ど不偏に盛んなる地にして、殆ど常に大阪をその商業中心となし、沿海港市は孰も小商業地たる觀あり。商業上東部九州の分野に屬すれども、宮崎鹿兒島に比すれば商業上發達せる位置にあり。大部分内海

中津町

に臨めると、距離の上より彼二者の如く中央市場より遠く隔たれるに非ざればなり。北部の中津は關門方面とは鐵道豐州本線を以て相通じ、四近に生産多き地を控ふること商業の盛なること縣下第一なり。主なる貨物は米穀・木材薪炭にして、木材薪炭は共に山國川の上源地方より來り、この地の市場を経て、豐州方面又は阪神地方に向けらる。又近傍は養蠶製絲業九州中にて最も發達し、良質の生絲を出すを以て聞ゆ。されば一部は工業地の觀を呈し、木挽製帽・酒造等の工場の外、鏡淵紡績株式會社中津工場あり。又機業地として中津織を産す。金融機關には株式會社中津共立銀行外二三を有し、金融常に活潑なり。只海濱は淺く殆ど全く用をなさざる遺憾あり。是より南國東半島に沿ひ小港相連接し、孰も多少の地産を伴はざるはなし。守江港・日出港の如き是なり。この附近は縣の主要農藝産青筴の主要地にして、沿岸航路の便よく備はる。

大分町

別府灣に臨みて大分・別府の二港市あり。別府は温泉湯および、海水浴湯として消費地に屬すれども、大分は米穀・繭・生絲・青筴及び木材の集散地にして、

臼杵其他の小都會

大阪との間には別府と共に日々定期航路あり、別府との間又電車鐵道を通じ、海陸の交通甚だ便なり。商業會議所・米穀取引所等は缺如すれど、金融機關としては二十三銀行株式會社の大分銀行以下、大分農工大分貯蓄その他の銀行あり。商品陳列場もあり。大分は商業地なれども、地産としては中津の如く注意すべきもの未だ多からず。

縣の南方に至れば佐賀・關白・杵・佐伯の如き海港また連る。いづれも地方的小商業地にして、主要産物は水産なり。金融機關としても又各一又は二の銀行を備ふ。尙臼杵は木材及び蜜柑の産出に名あり。他海岸を離れて日田・森・竹田等あり。概ね林産並にその副産物を出すを以て顯はれ、またそれと金融機關あり。

宮崎縣は陸産廣き地域に亘りて稍豊かなれども、沿岸の單調にして地形また互に隔離し、加ふるに徳川時代幾多の小藩割據せし關係より、各地互に孤立せる傾向あるを以て、商業地として擧ぐべきものは、いづれも後背地小なり。主要輸出品は米穀・生絲・木材・木炭・製茶・椎茸及び水産物にして、専ら阪神地

方に出す。他の日用品の供給も大阪より仰ぎ又宇和島とも關係す。鹿兒島とは南部都城附近のみ歴史地形上の關係によりて相連絡するのみ。但し九州本線の開通により、日向の西部此線に沿へる地方は、昨今盛に之を用ふるに至れり。

細島港

縣の中央以北には延岡土々呂細島高鍋佐土原等あり。いづれも海濱に臨めども、土々呂細島を除きては船舶の寄港に適せず、土々呂は日平銅山の咽喉をなし、細島は縣下の中央咽喉にして、日々阪神との間航路相通ず。後者は港灣佳なれども、陸上はいづれの地に赴くも不便多し。延岡高鍋佐土原共に一つづゝ金融機關を備ふ。宮崎は縣の主要官衙の所在地なれども、起源新しく、その發達極めて遅々たり。株式會社宮崎農工銀行株式會社日州銀行等その他勸業物品陳列場等あり。産物としては製絲の外木材なるべく、これは大淀川の上流方面より河流その他の運送により此地に集り、河口なる赤江港を経て主に阪神地方に向ふ。但し他普通旅客及び貨物は南方數里を隔てたる内海港による。此港は日々阪神と定期航路あり。大淀川の上流には廣き原野あり、

宮崎町

都城町

り、都城はその中心にして素と薩摩藩所領なりしより現代開化の關係は上述地方と異り、米生絲茶瓦の産地にして、製絲工業頗る盛なり、鹿兒島に通ずる要路に當る。この東方海濱に油津港あり。その西、海岸を離れたる飢肥の咽喉をなせる海港にして、地方産木材砂糖鯉節等を出す。

鹿兒島縣は舊藩時代の習俗自ら因をなし、今日も商業は重んぜざる風無きに非ず。然れども一方廣き地域にわたり各種の生産あり、又他の供給も待たざるべからざるが故に逐次商業活勢を添へ來れるは事實なり。縣の生産中最も價額大なるは農産にして、次は鑛工業産水産林産の順位を取り孰も之を縣外に出すには從來殆ど悉く海路交通により、おもに阪神に出したりき。商業地は鹿兒島市を推すべく、その他は商業上より觀れば悉く地方の小都邑若しくはそれ以下の位置にあり。鹿兒島市は九州の他の地方とは全く背中合せをとれる同名の海灣に臨み、北部九州は勿論東方帝國の中央市場に出づるにも、常にこの灣を出で東西兩半島のいづれかを迂回せざるべからざるが故に、他地方との開化の關係は概ね之を缺き、孤立的にその特色を發揮したり。然れ

取引所

取引所 九州地方七縣に於ける取引所の總數は四箇にして大分宮崎鹿兒島の三縣に於ては全く其存在を缺く。之を他の諸地方に比較するに其數に於て其商勢に於て稍遜色あるを免れざれども、熊本は有名なる肥後米産地を控ふるとして、一箇年の米穀取引高二百六七十萬石に上り、東京大阪下關に次ぐ。肥前米の産地たる佐賀も亦一箇年百萬石以上の賣買高あり。南部九州は地勢の障碍をうけ未だ商業取引頻繁ならず。今最近の概況を左表に於て示さん。

取引所 (明治四十一年)

(第廿五次農商務統計表による)

名稱	株式 人員	仲買 人員	資本金	拂込 資本金	名稱	株式 人員	仲買 人員	資本金	拂込 資本金
博多米	三六	一七	10,000	100,000	長崎米	三	五	100,000	100,000
佐賀米	一〇〇	三三	100,000	100,000	熊本米	五	三〇	100,000	100,000

(八) 會社事業

九州地方の諸會社は大分佐賀二縣を除けば、其數に於ても、其資本金に於

會社事業

ても甚しき劣勢を示さず。殊に農業會社の資本金を一覽するに長崎縣の如きは全國中第七位にあたる。而して福岡縣が商工業會社に於て本地方中優勢なるは縣下の商工鑛業盛なるに因れるものにして、各會社拂込資本金の如きは二千五百萬圓に達し、東京大阪神奈川兵庫新潟の次ぎに立ち、東海道の企業地静岡とは伯仲の間にあり。今各種會社事業の大勢を最近の統計(明治四十一年)に依りて次表に掲ぐ。

(第廿五次農商務統計表による)

地方	農業		工業		商業		水陸運輸		合計	
	社數	拂込資本金	社數	拂込資本金	社數	拂込資本金	社數	拂込資本金	社數	拂込資本金
福岡	二	二〇,六九〇	五八	一〇,四二二,三三三	一七八	一,五二六,〇〇三	一八	二,四八八,〇七七	二〇六	二,四四六,一三五
佐賀	一	三〇,六〇〇	二五	七,九三二,三〇〇	七二	四,五八八,四九八	四	二六九,二〇〇	一〇二	五,六八,五五六
長崎	四	六,三七〇,〇〇〇	二二	五,九〇五,〇〇〇	六〇	五,四四五,三三三	四	一,三二五,〇〇〇	九六	六,七九,七八三
熊本	五	一,三三四,四五	一八	一,三七〇,二二八	四三	三,五九,二二八	四	三〇二,二四	七	五,三三,九四五
大分	一	八,〇〇〇	一五	五,二一四,四五	七	五,八〇,二五六	五	五,四八,八七二	九四	六,八六,八九二
宮崎	一	三,〇二五	一六	二,八九,三三二	二七	二,三九,九八五	—	—	四	二,六八,三三二
鹿兒島	八	二〇,三四〇	六	一,四五,〇〇〇	二〇	三,一八,二〇八	五	七,六,五〇〇	三九	五,六四,九四八

商業銀行

(二) 金融機關

商業銀行 本地方の銀行業は他の諸地方に比して甚しき遜色を見ず。本地方固有の銀行及び他地方の銀行支店を以て九州地方商業界金融の均一を計るに足れり。今や九州本線開通し、九州ははじめて一箇の有機體として活動をなすを得るに至りたれば、漸く面目を一新せんとす。今左に明治四十一年各縣銀行の狀況を掲ぐ。

(第二十八統計年鑑による)

地名	本店	支店	資本金	積立金	純益金	配當金	地方	本店	支店	資本金	積立金	純益金	配當金
福岡	七〇	三三	三,三九〇,〇〇〇	一,〇七三,〇〇〇	八三,二一八	四三,二一九	大分	三	三	三,〇〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇	三,〇〇〇
佐賀	三三	三三	二,二七〇,〇〇〇	九六,二〇〇	六四,九三三	三〇,〇〇〇	宮崎	四	一	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
長崎	三三	三三	三,一〇〇,〇〇〇	六三,三三三	三九,八七三	一五,七七一	鹿兒島	三	一	一,〇〇〇,〇〇〇	四三〇,〇〇〇	二,五八二	一,〇〇〇
熊本	二四	二四	二,二〇〇,〇〇〇	五〇,七三三	三八,五九四	三〇,七三三							

農工銀行 農工銀行は九州七縣下に各一を有す。今明治四十一年の成績を示すこと左表の如し。

(第二十八統計年鑑による)

銀行名	資本金	積立金	配當金	銀行名	資本金	積立金	配當金
福岡	六〇〇,〇〇〇	二四六,〇〇〇	三七,四〇〇	大分	四〇〇,〇〇〇	七五,一〇〇	二四,四八〇
佐賀	三〇〇,〇〇〇	四九,九三三	一六,八四二	宮崎	五〇〇,〇〇〇	八六,七〇〇	三〇,四〇〇
長崎	四〇〇,〇〇〇	一五,一〇〇	一五,一〇〇	鹿兒島	六五〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	三九,四三三
熊本	七〇〇,〇〇〇	二八,五〇〇	四〇,〇三三				

貯蓄銀行 明治四十一年の統計に依り九州地方七縣内の貯蓄銀行の數及び其資本金高を示せば左表の如し。

(*は普通銀行の兼業) (第二十八統計年鑑による)

地方	本店	支店	拂込資本金	地方	本店	支店	拂込資本金
福岡	二	二九	六三,三〇〇	大分	三	三	六〇,〇〇〇
佐賀	*一	一	三三,二五〇	宮崎	一	一	九五,〇〇〇
長崎	*一	一	三〇,〇〇〇	鹿兒島	一	一	三〇,〇〇〇
熊本	三	五	三六,五〇〇				

第三編 地方誌

福岡縣

福岡縣

福岡縣は九州地方の北部を占め、西は佐賀縣に接し、東南は大分縣に連り、南は熊本縣に堺し、北は日本海及び瀬戸内海に瀕す。筑前筑後の兩國と豊前の一部とを管し、縣廳を福岡市に置く。總て四市十九郡にして、四市は福岡市久留米市門司市小倉市にして、十九郡は糟屋宗像遠賀鞍手嘉穂朝倉筑紫糸島早良浮羽三井三潑八女山門三池企救田川京都築上即ち是なり。其の廣表は東西廣き處に於て二八里、南北廣き所三〇里、全面積三一七、八一方里(四九〇一、七三方)人口一、七〇五、四〇九人を有す。各郡の中面積の大なるは八女郡の三二、一二方里、田川郡の二七、一二方里、嘉穂郡の二八、三二方里にして、企救遠賀の二郡これに次ぐ。最も小なるは早良郡にして、其面積九、五方里に過ぎず。人口の密度は九州地方最も大なる所にして、一方里に五二四四、二方

人口

地勢

に三四〇(實に本邦有數の高度を示し、關東平野の諸縣と拮抗して、猶之に優るの概あるものあり。殊に遠賀郡の五六〇〇人三池郡の六一〇〇人の如き殊に其最たり。

地勢は大分縣と境を交ゆる邊に於て、築上田川朝倉三郡の相交錯する處は、山嶽重疊し、多く平地を見ず。筑前筑後の國境には高良山を主峯とせる山脈東より西に連亘し、八女郡の東部は連山波濤の如く起伏す。縣下最も重要な地は、遠賀川の流域にして、福岡市を其海岸に存せる筑紫、糟屋、早良地方、北部門司若松地方、久留米市を有する筑後川下平野域地方、有明海々岸に瀕せる三池地方等これに次ぐ。而して遠賀川流域地方と三池地方とは炭坑地として、門司は交通の要地として、若松は石炭輸出港として、福岡市久留米市は商業市として、共に皆な世に知らる。遠賀川流域地方は九州炭田中最も主要なるものにして、幹線折尾驛より南下したる鐵道線路は、深く嘉穂田川の兩郡に入りて各所の炭坑と相連絡し、直方、小竹、飯塚の諸邑連珠の如くこの沿線に發達す。筑紫郡の平野は往昔鎮西府の置かれたる處にして、三

井・浮羽兩郡の平野と相連接し、農業盛に、市街村落の發達せるもの尠なからず。其南に久留米の一市ありて此附近の平野に於ける商業の一中心を爲す。筑後川矢部川の下流附近は第四紀新層より成れる低夷卑濕なる平野を成し、河渠縱横に疏通し、道路また蛛網の如く頗る市邑村落の發達せるを見る。三池の炭田は今本縣と熊本縣に亘ると雖も、大牟田町を其主腦となせるを以て、其繁華は此地方に一種の特色を帯びしむ。

縣下の産業は鑛業を以て第一となし、農業これに次ぎ、工業またこれに次ぐ。遠賀・嘉穂・田川三郡の炭坑、これを南にしては筑後三池郡の炭坑等、其規模の宏大なる、其産額の著るしき、まことに本邦第一の名あるに背かずと謂ふべし。農業は浮羽、三井、筑紫の平野と筑後川流域地方等に良好なる米を産す。工業には、八幡町に枝光製鐵所あり。其規模の大なるまた本邦第一と稱せらる。其他陶器に高取焼あり。紙、花筵また多少の産出あり。

縣下の交通は、先づ九州鐵道の幹線あり。縣の東北端、門司市は交通上實に九州の門戸を成し、此地方に往來する旅客は常に此處に踵を接す。線路は

産業

交通

大瀬戸の海岸を繞ひ、大里驛を経て小倉市に達し、此處に豊後宇佐地方に赴ける豊州線を岐ち、枝光驛に、製鐵所の煤烟の空を壓するを見、黒崎驛を経て、折尾驛に至れば、若松港を基點として嘉穂田川兩郡に向へる一支線北より來りて相交するに會す。これより西南して、遠賀川赤間・福間等小丘陵の起伏する間の諸驛を過ぎ、古賀驛に至りて玄海灘に沿ひ、香椎に至りて博多灣に向ひ、箱崎を経て、博多驛に達す。これより線路は全く南に折れ、雜餉隈・二日市等を過ぎ、植樹の林立せる筑紫の平野を経て、田園の間に原田・田代の二驛を通過し、鳥栖に至りて、長崎線を西に岐ち、鹿兒島線は又更に南して、筑後川矢部川の灌漑する平野に出づ。羽犬塚は小驛なれども、矢部川流域地方に通ずる主要驛をなせり。これより矢部川渡瀬大牟田の諸驛を経て熊本縣に入る。豊州線は小倉市より岐れて、城野會根の二驛を過ぎ海岸に出て、苅田を経て行橋驛に達し、田川郡香春地方に達する一支線を分ち、再び海岸に沿ひて大分縣に入る。行橋より岐れし筑豊線は、豊津・岸川を経て、京都郡に入り、油須原・香春・伊田を経て、直方より來れる伊田支線に會す。伊田より

更に後藤寺に至り、これより宮床に至る線を北に岐ち、池尻川尻を経て、添田に達す。遠賀川流域の交通線なる若松上山田間は、若松より二島を経て、折尾に至り、幹線線路と相交叉し、中間筑前植木を経て直方に達し、これより伊田支線を左に岐ち、小竹幸袋、鯉田飯塚、下山田を経て上山田驛に達す。皆炭坑の爲めに發達せるものなり。其他、室木附近の炭坑の爲めに幹線遠賀川驛より南方丘陵中に岐れたる室木遠賀川間の線路あり。又道路は門司より起り小倉を過ぎ幹線黒崎驛より直方飯塚を経て内野に達し、博多根會越を越えて筑紫平野に出づるもの、これを古來の長崎街道と爲す。又一方福岡市より筑紫平野を横れる一路は、二日市を過ぎて、豆田街道久留米街道の二に岐れ、前者は朝倉郡の中部を貫きて東南に走り、後者は三井郡を縦貫して南す。前者に甘木若市の諸邑あり。東西に一直線を成せる高良山脈の北麓には山脈と全く相並行せる道路二あり。共に浮羽郡中の交通路を成せり。久留米市より南する道路は三條に岐れ、右は三潞郡を貫きて柳河町に至る柳河街道を成し、中央は幹線鐵路に添うて熊本街道を成し、左は福島町を経て熊本別路を

成す。福島町より東する一路は、矢部川の流域を溯るものにして、八女郡の主要路たり。其他、福岡市より早良絲島兩郡の海岸を縫ひて西走する伊萬里街道あり。

門司市

吾人は先づ縣の北門たる門司市より筆を起し縣下を一瞥せん。

門司市は九州地方の東北端に位し、早瀬の瀬戸を隔て、山口縣の下ノ關市と瓦葺粉壁相望む。東北に城山(一七二米)を帯び、峯巒延びて市の南方背後の地を擁し、西に大瀬戸を隔て、彦島の翠螺を望む。市は明治二十年以前にありては、寂寞たる一小漁村に過ぎざりしが、地形の優秀なると、港灣の良好なると、加ふに筑豊炭の輸出著しく増加せしが爲め、自から多數の船舶を吸引し、市街次第に發達して、二十二年町制を布き、特別輸出港に編入せられ、三十二年には既に市制を實施し、遂に今日の隆盛を致せり。市の人口五萬五千有餘を有して、今や縣下第二の都會となれり。市は其前面の海峽水面を以て港となし、巨船は常に此處に投錨し、小船は別に築港内に來泊す。而して内外航路の大汽船の瀬戸内海を過ぐるもの、多くは又爰に碇泊して石炭の供

給を仰ぐが故に、煤煙汽笛常に波上に絶えず。(第五十)旅客もし對岸なる下ノ關市の埠頭より瀬戸連絡の小蒸汽に搭じて、此間を航し來たらば、水を渡り來る雜多喧囂なる音響は、其市況の活躍を傳へて、坐ろに人をして單に其九州の門戸たるのみならず、又本邦重要の海門たるの感を起さずんば止まざるなり。埠頭に上れば巍然たる税關の高厦を仰ぐべく、棧橋通は廣濶なる街路にして、九州幹線の門司停車場は其西南に位し、旅客は直ちに鹿兒島直通の汽車に搭ずることを得べし。門司港務部日本郵船會社支店大阪商船會社出張所三菱合資會社支店等海岸に接して指願の間にあり。又門司陸軍兵器修理所は稍離れて市の北方にあり。停車場より東北に通ずる街路は、本町通にして、市中最も繁華なる處をなし、郵便局日本銀行西部支店三井銀行門司支店其他銀行會社此附近に相連り、車馬の往來織るが如し。築港より通じたる溝渠は市の中央を圓形をつくりて本町通は恰も其直徑をなして南北に通じ、繁華は更に一層の繁華を加へ、人屋櫛比して八町目に至る。濱町通は本町通と海岸通との間にある横街路にして、其の繁華は本町通に及ばざれどもまた巨商老

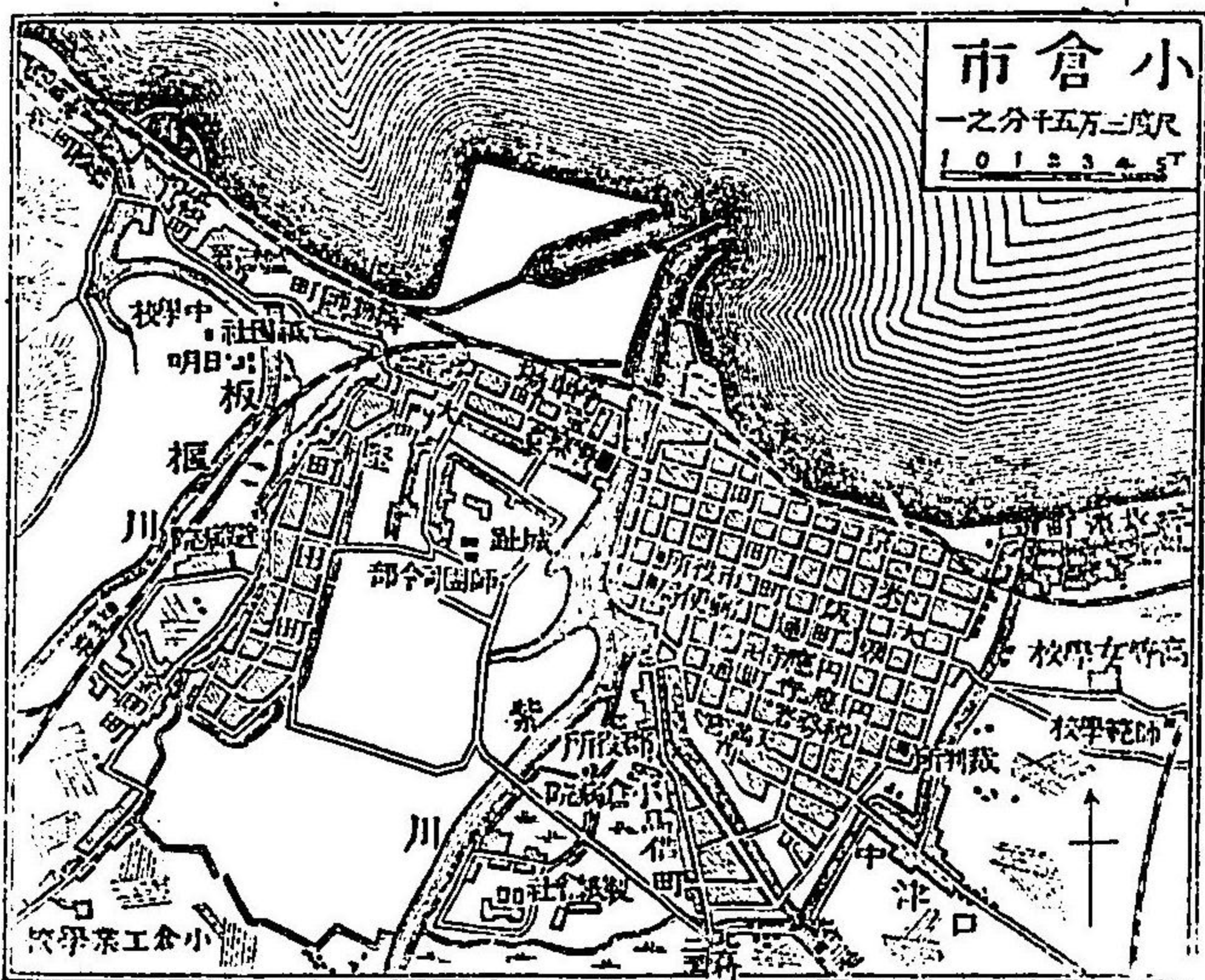
舗の連るを見る。本町八丁目より更に海岸を傳へば、蒼鬱たる小丘陵の海に臨んで立てるを見るべし。これ即ち城山にして、和布刈神社其の下にあり。傳へ云ふ神功皇后の三韓より凱旋せられし時、齋き祀れるものにて、仲哀天皇二年の創建にかゝり今縣社に列す。社前直に早瀬の海峡最も狹き所に面し、潮流急激矢の如きを望み、大小無數の船舶之に乗じて奔馳する亦壯觀なり。又、町に甲宗八幡宮、文字が關の址等あり。眞光寺は淨土宗の古刹にして、壽永年間の創建なり。其境内は眺望に富めり。停車場の東南に門司公園あり。西南に向へば淺野セメント工場あり。

これより大瀬戸に添へる海岸を南すれば、大里驛に至る。安徳天皇行在地のありし所にして、附近に平氏の古跡多し。驛に日本精糖會社工場あり。此海岸を一に柳が浦と呼ぶ。門司の開けざりし以前にありては旅客は下ノ關より多く船を僦ひて此地に渡りたりき。之より幾くもなくして小倉に至る。

小倉市は企救郡の北部にありて海に瀕し、紫川その中央を流る。市坊の數二十、戸數五千九百人口二萬九千有餘を有し、縣下屈指の一都會なり。維新

小倉市

前は小笠原氏居城の地にして、今、猶其城址を市の西部に存す。停車場は紫



川の鐵橋を西に渡りたる處にありて、其東西の横路を京町通となし、郡役所、病院、郵便局等皆其處にあり。城内には歩兵第十二師團司令部あり。その南に兵營ありて、練兵場、射的場これに連る。紫川に架せる橋を中心にして市内最も繁華なる京町通はこれより東西に通ず。市は門司市の發達と反比例して、其活氣近年に至りて著しく衰へたるが如く、今は寧ろ單に其師團所在地たる、地方的行政の中心たるに於てより、港は紫川の河口にありて、北東に

向ひ、運輸の便多く商船は常に港内に蟻集す。市の西端銚物師町に監獄署あり。又同町に縣社八坂神社あり。市の鎮守神にして、元和元年國主細川忠興の創設する所にかゝる。社殿海に沿ひ、六連島彦島の島嶼一眸の下に集る。米町に永照寺あり。真宗の巨刹にして、里人これを御坊と呼ぶ。堺町に蓮門教會本祠あり。又、足立山の麓に黃檗宗の巨刹遍聚禪寺あり。足立山は市の東南、中津街道の東に聳ゆる丘陵にして、頂に妙見權現を祀れり。中津街道は市の東南より南し、小倉驛より九州幹線と別れし豊州線(中津線)は市の西南部を過ぎりて、郊外に城野の一驛を過ぎ、濁川に至りて前の中津街道と並行して東に向ふ。城野には兵營の處々に連るを見る。篠崎には篠崎八幡宮あり。小倉市には小倉織の産ありて、古來其名高かりしも、今は其業盛ならず。又製紙製鋼の工場あり。

九州幹線鐵路はこれより西し、豊前筑前の國境を過ぎて、直ちに遠賀郡の東北端洞の海の前に展けらるるを見る。戸畑に明治専門學校あり。炭界の富豪安川氏の巨資を投じて創立せるもの、主として工科を教ゆ。校舍宏大設備

若松町

亦整ひ、加ふるに位置形勝を占め、自から此種學校の範をなす。戸畑の市街と洞海の海門一葦水を挟みて、對岸に若松港あり。市街は、半は丘陵に凭りて、海に面して其の瓦葺粉壁を展開し、水上には帆檣林立煤煙濛々、具に港灣の殷盛を極む。町は東西十町、南北十二町、戸數五千六百、人口二萬七千に餘り、縣下屈指の繁華なる都市を成せり。此地は元、修多羅と稱する一漁村たりしが、天保の頃より人煙漸く増加し、筑豊炭田の發達著しきと相伴ひ、殊に其遠賀川流域に近接し、水路鐵道の便尠なからざるより、夙に石炭輸出の重要な門戸となり、之が爲めに特に築港の工を施し、石炭輸出港としては今は遙かに門司港を凌ぎて其上に立ち、之に加ふるに附近に製鐵所の勃興せるに伴ひ、之に往來する船舶に便ならしめんが爲め、更に築港の工事を擴張せるが如き、市況日に發展して止むなきの勢を示せり。鐵道筑豊線は此地に起り、洞海の北岸を走り、折尾に至り、九州鐵道幹線を過ぎり、更に南進して遠賀川流域に入る。若松停車場には特に巨大なる水壓機械の設けありて貨物揚卸の便に備ふ。

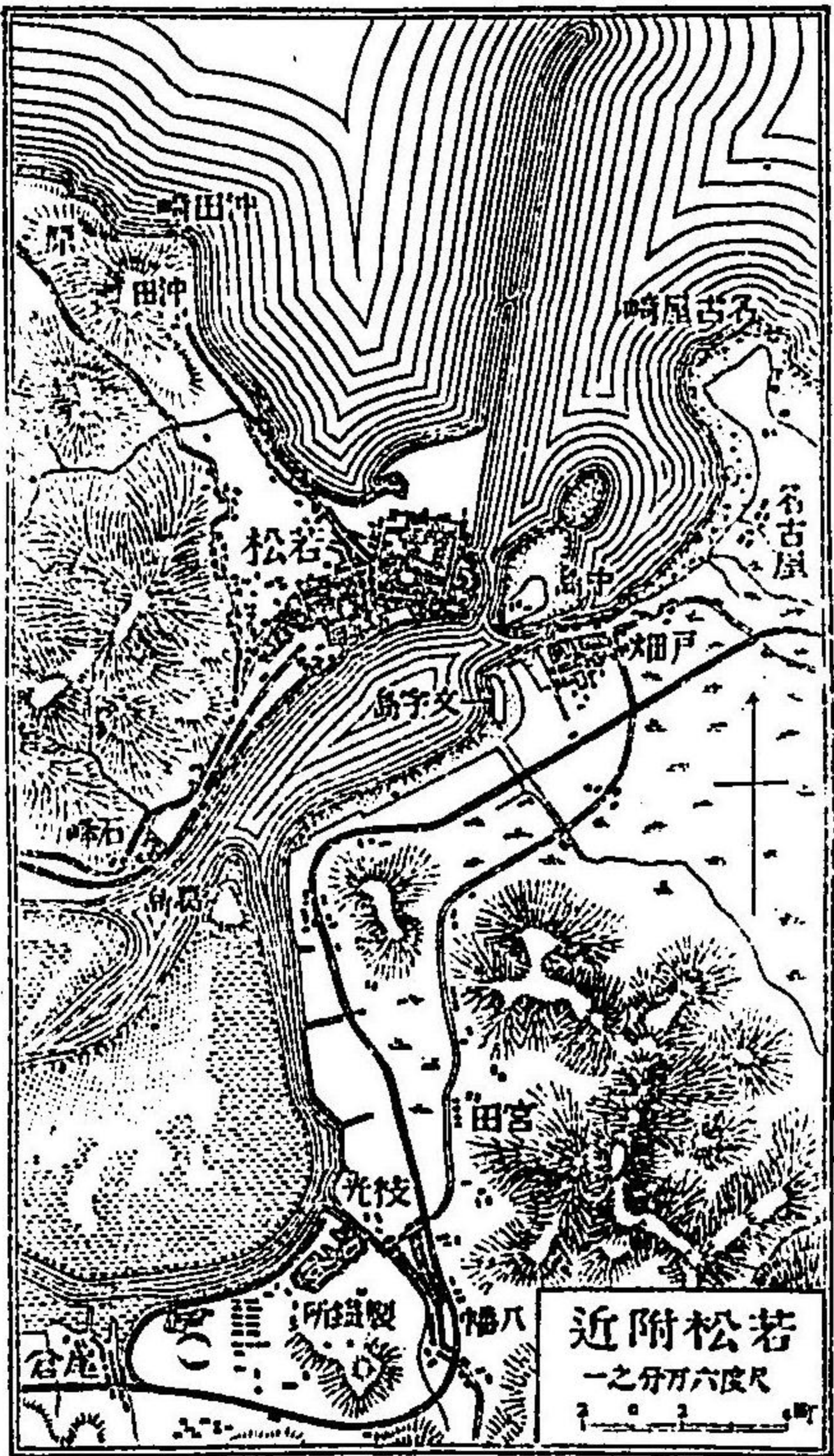
枝光製鐵所

この繁盛なる港の光景を目撃しつつ、戸畑より進んで楯山の麓を迂回せる旅客は、更に宏大なる工場の眼前に開展せるに驚くものあるべし。有名なる枝光製鐵所は、實に洞海の一角に位し、巨大なる幾箇の煙突より騰上する煤煙は、殆ど天空を暗うし、大工場に聳々たる機械の音響は、將に双耳を聳せんとする感あり。工場を圍りて八幡町の新市街發展し、その二萬有餘の市民は殆ど此工場によりて衣食せるを見るべく、滿目盡く行客をして一種名狀すべからざる活動の天地に充てるを感せざる能はざらしむ。請ふ姑く爰に此製鐵所につきて數言を費さしめよ。(第五十圖乙)

製鐵所は、福岡縣遠賀郡八幡町にあり。農商務省の所管に屬し、鋼鐵製造のことを掌る。政府は維新後間もなく、自ら釜石其の他に於て製鐵事業の經營をなしたるも、種々なる事情の爲め、成功を見るに至らずして止みしが、軍備及び工業の獨立上、一日もその缺ぐべからざるを以て、明治二十九年三月に至り、新に製鐵所官制を發布し、翌年二月位置を福岡縣筑前國遠賀郡八幡村(今の八幡町)に定め、諸般の準備成るを待ち工場建設の計畫を立て、一方

に於ては、廉價なる鐵鑛、及び石炭の供給と、貨物運搬の便宜とを得るが爲め、越後の赤谷鐵山及び筑前二瀬炭田を買収して之を經營し、傍ら若松築港會社に補助を與へて、築港の事業を擴張せしめ、以て船舶出入の道を開けり。創立工事は三十四年迄の繼續事業なりしが既成部分より順次に作業を開始する方針を採り、三十四年二月五日第一熔鑛爐の點火式を舉げ始めて銑鐵の製造に着手し、其他の作業も亦相次いで開始するに至り、漸次事業を擴張して、現今に及べり。工場は洞海の濱に沿ひて、近く若松港と相對し構内の敷地凡そ四十萬坪あり。工場其他の主なる設備は、ソルベー式骸炭爐百五十基、コッペー骸炭爐百二十基、熔鑛爐三基、ベスマー爐二基、マルチン爐十一基其他數多の工場あり。海岸には延長五百七十五間餘の繫船壁あり。凡そ四千噸迄の船舶を繋ぐを得べし。別に和船及び小蒸汽船の碇泊荷揚場に充つるが爲め、面積一萬五千坪の船溜を設く。骸炭原料及び燃料炭は、主として、其の所有なる、筑前國穂嘉郡高雄伊岐須潤野の三炭坑及び附近の炭田(これ等全部を二瀬炭田と云ふ)より採り、銑鐵の原料は主として、其の所有なる朝鮮黃

道般栗及び載寧鐵山と並ひに特別の協定ある清國大冶鐵山より採掘せる鑛石を用ふる外、内國各地の鑛山鑛石を用ふること尠からず。工場に使用する原動力は、汽力、電力、及び水壓力の三種にして、電力一萬三千馬力、水壓力四千八百馬力、汽力凡そ四萬馬力を有す。構内鐵道は、延長五十三哩に及び特殊の場所には電車併用の設備あり。製品には、各種の鋼軌條及其附屬品、外輪、亞鉛引波形鋼板、鋼線、坩堝鋼、平鋼板、鋼板等の種類あり。現今の職工數は約七千六百人、官役人夫一日約千五百人を使役すと云ふ。



折尾驛

汽車は枝光驛より煤煙暗き八幡町を掠め、洞の海に沿ひて南岸を走り黒崎驛を過ぎ折尾驛に至る。折尾驛は遠賀川の堀割なる吉田川(堀川)に臨み、若松より來れる筑豊線と相交又し、繁華なる一驛を成せり。殊に筑豊線は複線を成し、毎回四十餘輛の炭車を連絡せる列車は晝夜の間斷なく來往し、以て直方飯塚地方より採掘し來れる石炭を若松港に運搬せり。蓋し遠賀鞍手田川地方よりする石炭の産額は極めて多くして、この複線の汽車の運搬猶ほこれを充たす能はず、更に千を以て數ふる小舟は、遠賀川の本流とこの驛を貫流する堀川に泛び、以て其運搬力の足らざるを補へり。以て其地方の採炭のいかに多大なるかを知るべし。

堀川は長さ二里、幅六間、國主黒田侯が元和年間遠賀川の漲溢を防がんが爲めに起したる工事に於て、國老栗山大膳其工を董し、が、吉田川の開鑿工事に至りて挫折し、寶曆年間に及び再が工を起して漸く竣工せしもの、蓋し當時稀に見る所の大工事なりとす。折尾驛の東南洞南村大字剛松に洞南鑛泉あり。又、遠賀川驛の北方二里遠賀河河口に蘆屋町あり。其港は萬葉集に見

蘆屋町

えたる往古の岡の水戸にして、近來若松港に其の繁華を奪はれたれど、猶多少の繁盛を保てり。地に釜を鑄る良工數戸ありて、所謂蘆屋釜の名遠近に聞えたりしが、今は斷絶せり。此町の北に山鹿岬あり。山鹿秀遠が平氏を庇護せし古城址今猶存す。遠賀郡鎮守の縣社たる高倉神社は、矢矧村大字高倉にありて、驛より西に二里を隔てたり。神功皇后以來の古社にして、社殿宏壯なるを以て附近に知らる。

宗像神社

遠賀川驛より汽車は遠賀宗像兩郡の間に横れる小丘陵の間を過ぎて、直ちに赤間驛に至る。これより西北海岸に至る路二あり。一は鐘岬に至り、一は神湊に至る。共に海岸地方の名邑なり。神湊に至る途中田島に宗像神社あり。往古は神湊東の海邊にありしもの、建長年中今の所に移せり。官幣大社にして、境内老樹蒼鬱、殿宇また清楚なり。本縣屈指の靈社なるを以て、賽者常に絶えず。福岡驛に至れば、玄海灘の蒼波前に展げ、相島の小嶼の微かに海中に浮ぶを見る。津屋崎の一邑はこの北一里餘に位し、附近に宮地嶽神社あり。宮地嶽その傍に聳立す。傳へ云ふ神功皇后新羅を征討せられし時戰勝を

立花山

祈願せられし處と。田島村吉田に眞言宗の巨剎鎮國寺あり。古賀驛を過れば、東方に一小山あり。秀容轉た掬すべし。これ即ち有名なる立花山にして、山上の古城址は大友貞武以來數世の居住せしところ、一度毛利氏の爲めに陥られしを、元龜三年に至りてこれを回復し、戸次鎮連をしてこれを守らしむ。

海の中道

天正十三年、島津氏の軍大舉して筑前に入るや、鎮連の義子統虎死守して下らず、以て豊臣氏の軍の來るを待ちき。此山また樟の大木多きを以て聞ゆ。海の中道は此の附近の海岸和白村奈多より志賀島に至る一大砂嘴にして長く海中に斗出して、博多灣の門扉を爲し、其幅狭きは二三町より廣きは十町に至る。白砂青松三里に亘り、風光明媚眞に描くが如し。殊に其砂の純白雪を欺くを以て世人呼んで之を奈多の白濱といふ。奈多の北一里、新宮に磯崎神社あり。

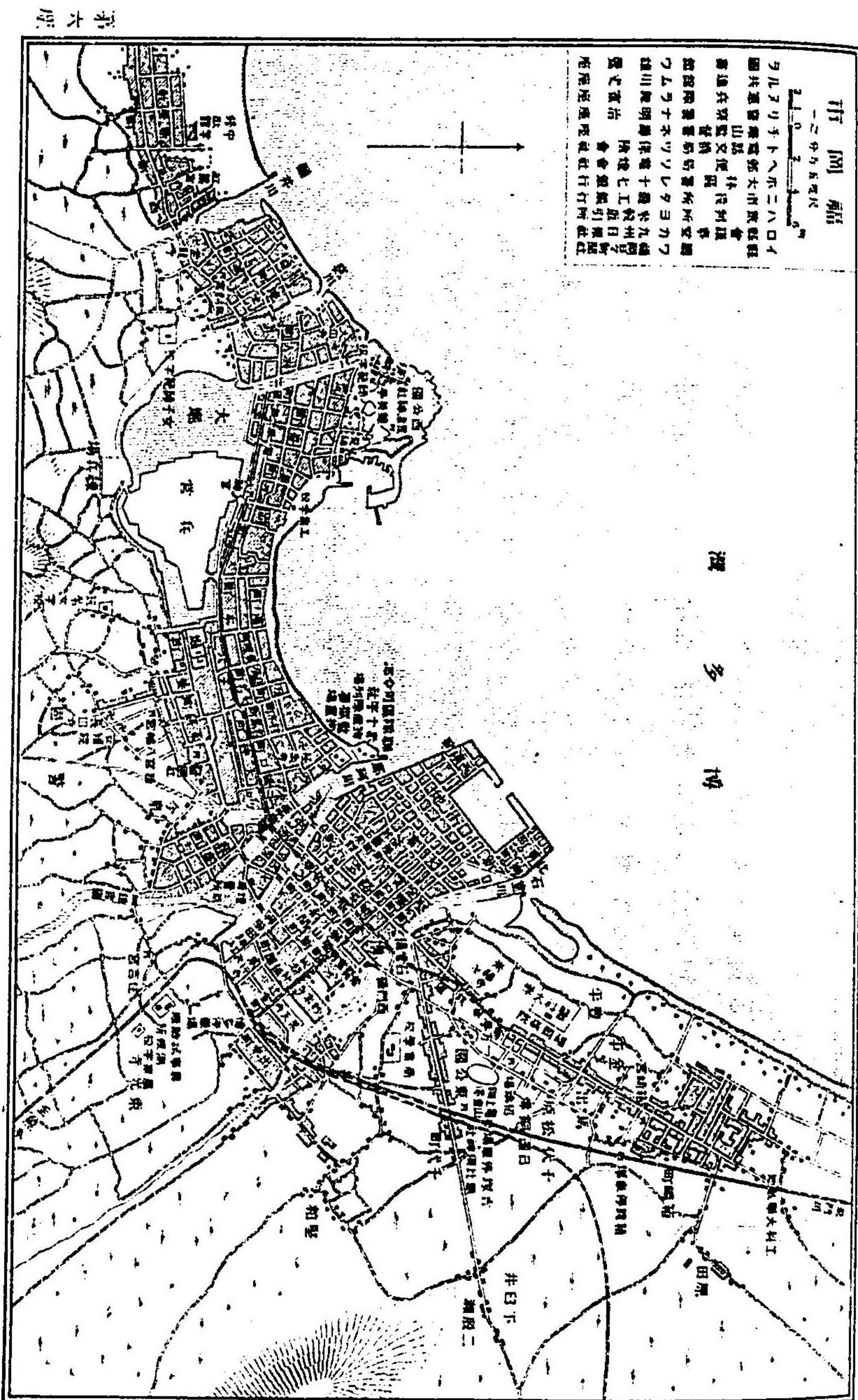
香椎宮

これより鐵路は全く博多灣に沿ひ、頃刻にして香椎驛に至る。驛は有名な香椎宮のあるところなり。宮(第五十圖)は停車場の東數町に位し、田家離落の間大華表の高く前に立てるを見る。官幣大社にして、神功皇后應神天皇及び

底筒男命・中筒男命表筒男命を祀れり。創建年月は詳かならざれども、社域は仲哀天皇神功皇后の行宮のありし地にして、傳へ云ふ仲哀天皇九年二月此地に崩去あらせられし時、梓宮を椎の木にかけ置きけるに、異香四方に薫せしより、香椎の名起れりと。社域五千三百餘坪にして、四圍老樹繁茂し、頗る幽邃の致を極む。先づ瑞籬の前に綾杉と稱する老杉樹あり。神功皇后征韓の後兵器を此處に埋めたる標として、手づから苗杉を植えさせ給ひし處なりとの傳説あり。本殿は丹塗を施し、瑞籬これを廻り、その建築頗る壯麗なり。附近に渡殿・拜殿・神庫・神饌所等あり。又、附近に香椎宮舊址、仲哀天皇の古宮・棺掛椎・不老水・餓塚・兜塚・鎧阪等の舊址あり。汽車は香椎より海汀築堤の上を走り、西北に海の中道の白砂青松を望みつゝ、萬葉以歌人の吟詠に絶えざる香潟の岸を縫ひ、名島を過ぎて、箱崎驛に達す。名島は多々良河口の一丘にして、其形の島に似たるを以て其名を得たり。左に千代松原を望み、右に海の中道を指し、風光頗る明媚なり。丘上に辨才天祠を鎮す。海岸にある帆柱石は神功皇后凱旋當時の御船の帆柱化して石となりたるものなりとの傳説ある

箱崎八幡宮

も、是れ此地方の第三紀層中に普通なる硅化木にして然かも能く其樹幹の形を具ふるものなり。(第七圖四)丘陵の上に小早川隆景の古城址あり。箱崎驛の停車場は多々良濱邊なる千代の松原の中に位し、著名なる箱崎八幡宮(第六圖乙)は其處を距る二町の處にあり。華表は福岡街道に面じて聳え、旅客は松樹蒼々たる中に、正面の樓門高く立ちて、楣間に掲げられたる敵國降伏の大額は、醍醐天皇の宸筆に係り、最も著名なるものなり。樓門はめぐらすに長廊を以てし、中に宏壯なる社殿を包めり。社前に、女松あり、印の松といふ。應神天皇の胞衣を埋めさせしところといふ。宮は天平寶字三年の創建にかゝり、應神天皇、玉依姬命、神功皇后の三神を奉祀す。樓門は文祿年中小早川隆景の建立せる處其建築の巧妙既に定評あり。又今の社殿は天文年中大内義隆の建立する處にかゝり毎年八月十五日大祭を行ひ繁盛を極む。千代の松原(第七圖乙)は、箱崎の西に連り今、福岡市東公の園に置かれたるところ、老松影濃かにして頗る雅致に富めるあり。ことに青松白沙の中に、元寇を記念とせる龜山天皇の衣冠端麗たる銅像と日蓮上人の銅像ありて公園に偉觀を添ふ。公園



第六圖

の北部松林の間醫科大學並に附屬病院あり。今京都帝國大學に屬すと雖も、近く工科大學を併置し、九州大學たらしめんとす。城内廣濶幾多の教室と實驗室とは設備よく整ひ、具さに鎮西學術の淵藪たらんとす。

汽車は公園の一端を掠めやがて福岡市の東南端に位せる博多驛に達す。

福岡市は縣の北方海岸の中央に位し、北は一帶博多灣に面し、東は御笠川、西は樋井川を以て限られ、那珂川其中央を流る。東西二里、南北二十町、市坊の數六十二、人口七萬九千を有す。九州第二の都會にして、其繁華また本地方に冠たり。市の沿革を尋ぬるに、往古太宰府を置きし以前、既に人烟稠密なる市邑をなし市の一部なる博多は儼縣として夙に海港を以て知られ、續日本紀孝謙天皇の天平寶字三年には既に博多の名の現はるゝを見る。其海外船舶來航の地にして、殊に太宰府に近く、最も要衝に當れるを以て守護職を置き、武器を備へ外敵防禦の要地をなせしに似たり。文永弘安の役に於ても此地が重要な防禦點なりしを見るべし。其後袖の湊に唐船の碇泊せしこと史に見ゆ。戰國の時、大友龍造寺の二氏此地を争ひ、民家の過半は兵燹にか

り、全く衰頽せしを、天正十五年豊臣氏黒田孝高を此處に封せしより町の繁華は次第に舊に復し、徳川氏に至りても黒田侯歴世の治所として益々繁華を増し以て今日に至れり。地は那珂川を以て東西二部に分たる。東部は即ち往昔の博多にして、老舗巨商軒を並べ、西部は福岡にして舊城址のある處、舊藩士の邸宅も亦此處にあり。今日に於ては此等の邸宅多く變じて商家となりたりと雖も、其繁華猶博多に及ばず。市中の交通機關としては、近く完成せる電氣鐵道あり。市外千代村(千代松原)より博多福岡を経て市街を横斷し、西方黒門橋に至り、中ごろ吳服町より支線を分ちて博多停車場に至らしむ。市の中央那珂川に架せる橋は市の繁華の中心をなし、之れより西すれば天神町に縣廳市役所議事堂等相並んで立ち、大名町には裁判所あり。其の大林区署監獄署福岡縣物産陳列所師範學校商業學校高等女學校等川の以西所謂福岡の區内にあり。有名なる中學修猷館は市外西町にあり。(第五十圖甲)

城址は市の西南に位し、繞らすに濠を以てし、東西九町、南北十町あり。慶長十六年、黒田長政の修築せるもの、今は第六師團第十二旅團第二十四聯

隊の兵營を置く。舊藩主の祖先を祀れる光靈神社は藥院町にありて、今、縣社に列せらる。市の西北、荒戸崎の海に臨める處、一小丘陵をなし今之を修めて西公園とす。園に荒津神社あり。附近には松樹影を落し、其間に茶店二三散在す。更に丘上を繞れば、戦役記念碑あり。北岸は斷崖峭立、斜に殘島と相對し、北方遠く海の中道の翠松を煙波の間に望み、近く福岡市の萬葉を一眸の下に集めて、風光まことに描くが如く、市民來り遊ぶもの少なからず。市の神社佛閣には西町に縣社鳥飼八幡宮あり。其他材木町に淨土宗の巨利少林寺あり。博多の祇園町に栴田神社あり。又眞宗の巨利萬行寺あり。共に博多停車場附近にあり。住吉神社は市外住吉村にあり。縣社にして、攝津住吉の本社として名高く、往昔は宮殿壯麗を極めたりしといふ。

市の物産には博多織博多人形等あり。

これより汽車は東南に向ひ、全く海に離れて、脊振山脈の東端を限れる御笠川陷落地帯に沿ひ、筑紫平野に向ふ。此地方往昔鎮西府の置かれたる處なるを以て頗る古蹟に富めり。而してその鎮守府を置きし太宰府の地は實に此

地帯の中央東側にあり。汽車は福岡市より東南して、先づ雑餉隈驛ザンクウカイを過ぐ。雑餉隈より東北に岐れ二里弱にして宇美町あり。地に宇美神社あり。神功皇后が新羅より歸りて應神天皇を擧げ給ひし所と云ふ。境内に衣掛の森湯蓋の森などと稱する楠の大木あり。御産の時皇后の凭り給ひしと稱する槐の木は今神木として瑞籬をめぐらしたり。雑餉隈驛と二日市驛との間に御笠の森、水城等の古蹟あり。御笠森は神功皇后の古蹟にして、水城は日本記に「天智天皇三年筑紫に大堤を築き水を貯ふ、名づけて水城といふ」と記せるもの即ち是なり。堤の殘址今猶存して田疇の間にあり。水城村を過れば、道は二つに岐れ、右は二日市に向ひ、左は太宰府町に通ず。宇關屋と稱する地は、天智天皇の御宇、太宰府警固の爲め關所を置かれしところにして、所謂苜萱の關は此處にありたりといふ。これより太宰府道を行くこと幾許ならずして、有名なる太宰府都府樓址あり。

太宰府は何時の頃置かれしや詳かならざれど、宣化天皇の御宇那珂郡即ち今の筑紫郡に官府を建て、九州の政を乘らしめしを以てその嚆矢となす。推

都府樓址

古天皇十六年に至りて初めて太宰府の稱あり。而して今の筑紫郡水城村大字觀音寺にあるものは即ちその舊址なり。其長官を太宰帥と云ひ、次官を大貳といふ。聖武天皇の天平十四年一度太宰府を廢し、筑紫鎮西府なるものを以て之に代らしめしが、十七年再び舊に復し、これより連續すること四百餘年以て鎌倉時代に至れり。今、其址を探れば、荒草の間に、都督府古址と記せる石碑の立てるを認むべし。南に太宰府大門の址、北に都府樓の址あり。都府樓は太宰府官舎の正廳にして、東西十四間、南北六間、其家根に用ゐたる瓦は皆な支那船載の紫色瓦にして、今日田疇の間往々にして其殘甍を存することありといふ。殘存せる礎石の數三十餘箇、又北方地中二尺ほど低き處に數箇の礎あり。其形、方六尺餘にして、柱を受くる處は圓形をなして四五寸ばかり隆起せり。これを東に距ること二町餘に、觀世音寺あり。菅原道眞の詩に「都府樓繞見瓦色觀音寺唯聽鐘聲」を言へるもの即ちこの寺にして、今は一小廢寺に過ぎざれども、往古は八十年間の工事を経たる大伽藍にして、四十九の別院を有し、堂宇頗る宏壯を極めたるものありしといふ。創建は天

太宰府神社

智天皇の御宇にして、天皇の御祈願淺からざりし聖觀世音菩薩を其本尊と爲す。小野道風の筆に成れる『觀世音寺』の額は、國寶に列し、今は其副額を猶其の楯間にかゝげたり。この寺の隣に戒壇院あり。又其附近に學業院址あり。遊子一たび此處に至る、誰れか今昔の感に勝へざるものあらんや。

今の太宰府町は、二日市停車場の北方一里半にありて馬車鐵道の便あり。觀音寺よりすれば、田崎の間をたどること三四町にして、既に其の古風なる街路の中央に出づべし。人口四千九百を算へ縣下の舊市なり。町の盡くるところに、太宰府神社(第五十圖六)あり、官幣中社にして、菅原道真を祀り、延喜五年八月の創建にかゝる。先づ唐銅の大華表を入りて、甃石の賽路を行くこと數十歩、左折して二の華表を入れ、心字形を成せる一大泉池あり、架するに二箇の反橋を以てす。橋を渡れば正面に樓門あり。左右に長廊をめぐらし、内に本社(第五十圖六)の社殿を包めり。建築宏壯神威おのづから高きを覺ゆ。社前に飛梅と稱する老梅樹あり。境内梅樹多く、飛泉社後にかゝりて、一大遊園を成せり。蓋し本地方屈指の大社たるに背かず。華表の前旅舎軒を並べ、肆店土産

を鬻ぎて客を待つ。蓋し太宰府の市街は一に太宰府神社を以て其生命とせるものあり。

神社の東北十町、宇内山に有智山寺址なり。竈門山は社の東北に聳ゆる高山にして、登路十六町、頂上眺望に富むと岩石の多きを以て聞ゆ、國幣小社竈門神社は山頂にある大盤石の上に鎮し、此附近の一名社たり。

甘木町

秋月町

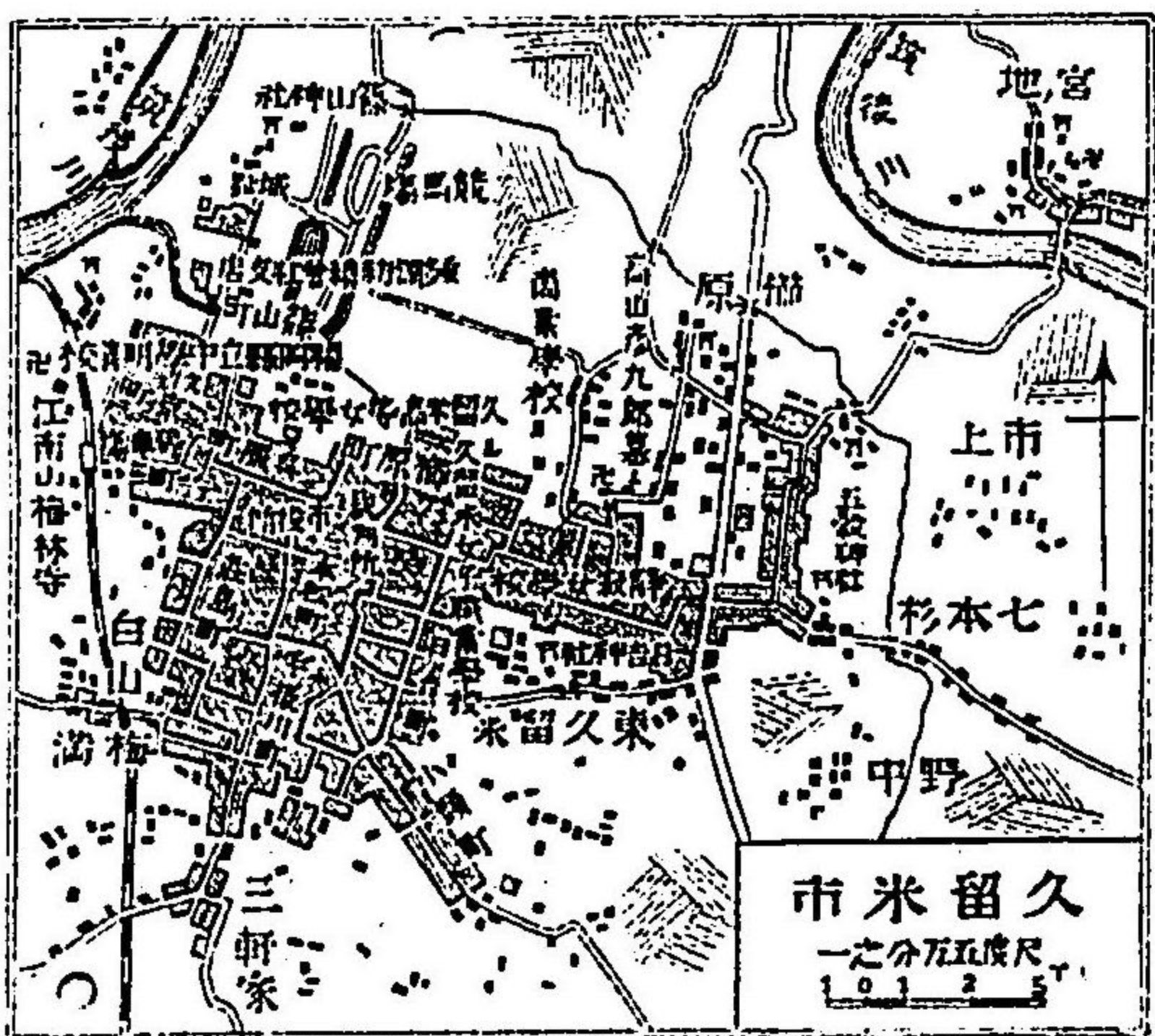
更に二日市驛より東南に岐れたる一路を進めば、朝倉郡を貫きて、豊後の日田地方に達すべし、二日市驛より行くこと四里にして、甘木町あり。郡の主邑にして、朝倉郡役所此處に置き、人口約七千に上る。町の西南一里半蟻城村字林田に縣社美奈宜神社あり。神功皇后攝政二年の創建なり。秋月町は甘木町の北一里餘にあり。人口二千を有す。橘廣庭宮舊址は、宮野村大字須川にあり。齋明天皇の六年、天皇親ら新羅より百濟を征せんとして、筑紫朝倉に行宮を營みたまひしこと國史に明かなり。田圃の中、今猶礎石を存じ、往々古瓦の破片を發掘することありといふ。道路は山田より筑後川に添ひ、志波、若市の諸邑を経て大分縣豊後國日田郡の境に達す。

かくて再び二日市驛に戻れば、武藏温泉は其南十町餘にあり、浴舎十數戸あり。有名なる天拜山は武藏温泉より登る二十町、山上に天満宮あり。頂上にある雌雄の古松は遠くこれを汽車の車窓よりも望むを得べし。また山麓に天台の古刹武藏寺あり。

これより道路は嘉穂郡より來りたる長崎本街道と相交又し、櫛の林の處々に茂生せる間を過ぎて、原田驛に達す。遙かに南方に横はれる高良山山脈は扁平なる臺地狀をなして西より東に長く連亘す。汽車はこれより筑紫平野を出で一旦佐賀縣に入り、田代鳥栖の二驛を経、鳥栖に於て長崎線を西に岐ち、筑後川を渡りて、再び福岡縣に入る。久留米市先づ其瓦甍を前に展く。

久留米市は筑後の西端に位し、西北は筑後川に臨める一都會にして、東西二十九町、南北二十一町、市坊の數四十、人口三萬五千有餘を有し、筑後第一の繁華を保てり。街路平坦にして、九州幹線の鐵路は市の西部に停車場を置き頗る交通の便に富めり。市は維新前有馬氏居城の地にして、今猶市の北部篠山町に其の城址を存し第二十四旅團司令部を置けり。市に區裁判所稅務

久留米市



署市役所等あり。街路の最も繁華な處は呉服町通にして、停車場より東西に通し、老舗巨商軒を並べ甍をつらねたり。市は久留米餅の主産地なるを以て、日を定めて市場を開き、近郷より集り來れる斯業者常に群を成す。市の北部に久留米紡績會社あり。筑後川の東岸、瀬下町にある水天宮(第五十圖)は、安徳天皇建禮門院二位局等を合祀し、當時建禮門院に奉侍せし宮女伊勢子の創建するものと傳ふ。今は縣社に列し賽客常に絶えず。(東京縣殺町有馬伯邸内にある水天宮は、永正元年十一月當所より分社せるものなりといふ)。京町には禪宗の巨刹梅林寺あり。日吉町には、日吉神社あり。順光寺は眞宗の一名刹なり。有名なる高山彦九郎の墓は本町遍照院内にあり。

柳河町

市の南端より道路二つに岐る。東は熊本街道にして、西は柳河街道なり。而して鐵路は熊本街道に添ひて南下にる。此地は筑後川、及び矢部川二川の灌漑する第四紀層の地にして、道路溝渠縦横に相通じ、市街村落頗る發達せり。柳河町は山門郡の主邑にして、久留米市を南に距ること五里、鐵路幹線の矢部川驛を西に距ること一里半、鹽塚川沖端川二川の間中に位し、有明海に僅かに一里を隔つるに過ぎず。人口七千二百有餘を有し、元、立花氏の封地にして、南端に其城址を有す。町に三柱神社あり。戸次道雪、立花宗茂及び其夫人を祀る。地廣潤にして樹木多く、四時の勝に富めり。町より三漕郡を横り、筑後川を渡りて佐賀市に通ずるの路は頗る良好にして、僅かに三里を隔つるのみ。其間、筑後川に瀕して大川町あり。三漕郡の主邑にして郡役所あり。筑後川の河港たる若津港と相接し、人口一萬二千商業甚盛なり。町に縣社風浪神社あり。又その附近大善寺村大字宮本に縣社玉神社あり。天武天白鳳年間の創設にかゝれる古社なり。

更に久留米市の東端より南微東に向ひ別に山鹿街道を進めば、市の東方に

福島町



高良山あり。山は此地方に於ける形勝の地にして曾て菊池氏征西將軍宮を奉

じて屢々此處に出陣せるを以て有名なり。今、山腹に縣社豐姫神社、山頂に國幣中社高良神社あり。山鹿街道は山の西麓を繞ひ、やがて八女郡の主邑福島町に至る。町は人口五千三百有餘を有し、八女郡役所あり。地は矢部川流域の中心をなし、郡の産物多くはこの所に輻輳するを以て、市街頗る

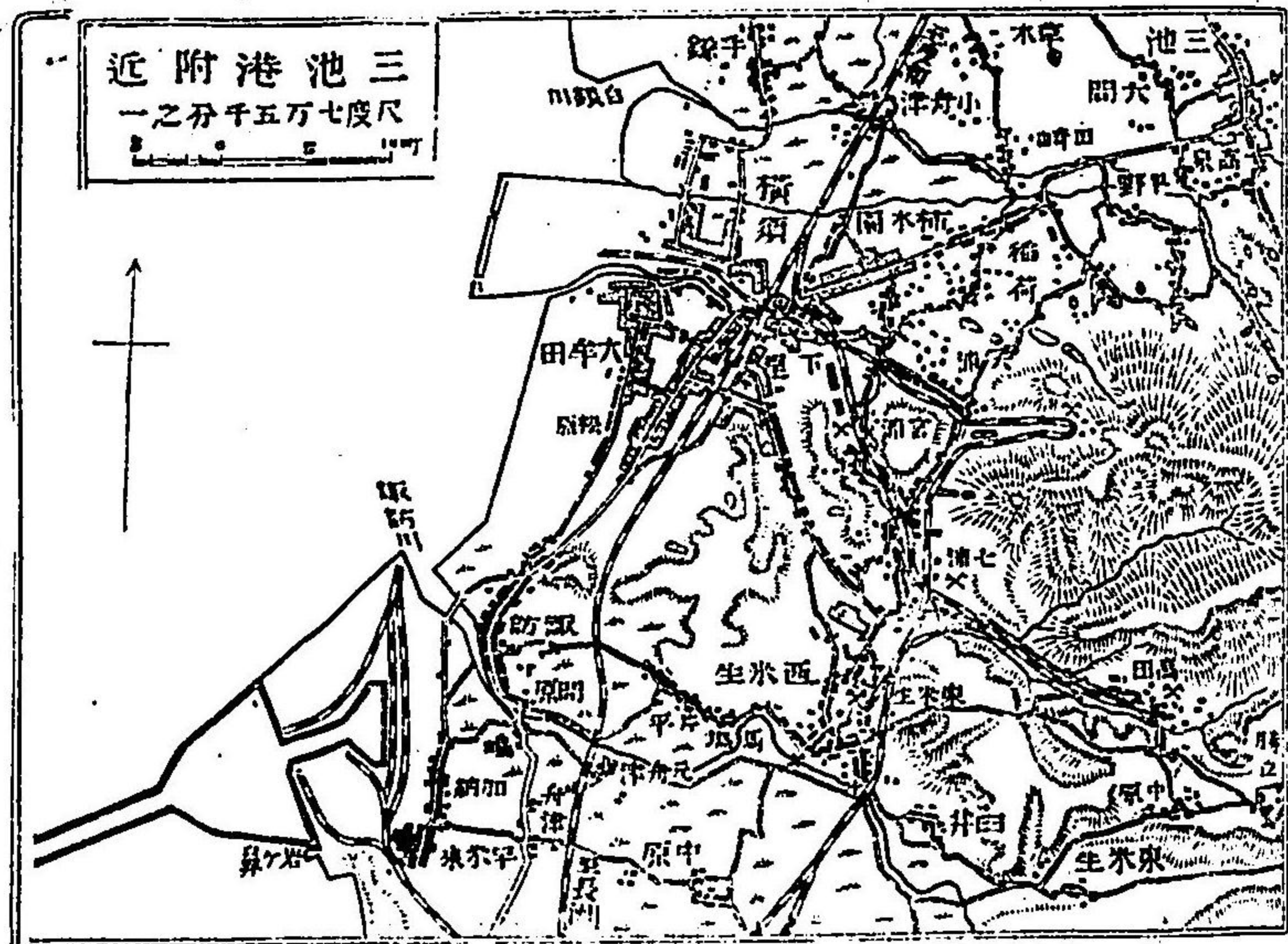
繁盛なり。幹線の羽塚驛を距る僅かに一里二十六町に過ぎず。町の北二十町、

吉田に岩戸山の石人なるものあり。石人の高さ五尺二寸、頭に冠を戴き袖手して立つ。又西北下廣川村大字一條にも石人一個あり。其他石馬石盾の多く此附近に存するより推せば此附近磐井の墓地なりしといふ説眞に近きが如し。福島町より東する道路は山内村を経て、黒木に達す。日向神山の奇岩は大淵村と矢部村との間にありて、其風景豊の耶馬溪に勝るものありといふ。矢部村の奥字御側石に懐良親王の王子良成親王の墓あり。蓋し此地方山隈の地九州に於ける南朝の末路を留むる所、史蹟亦少なからざるなり。

瀬高町

再び幹線鐵路に戻り、羽塚驛の南一里に、船小屋の鑛泉あり。地は矢部川に臨み、浴舎數軒を設く。其下流河を挟み瀬高町あり。人口一萬六千有餘。河港をなす。更に南に進めば三池郡に入る。三池地方(第五十)は有名なる三池炭坑を有せるを以て一種特色の繁華を有し、三十年前海岸の小寒村たりし地は、今は瓦葺櫛比、煤烟常に天に漲るの大坑業地となるに至たり。蓋し三池炭田は福岡縣の南端より隣縣熊本縣に亘れる一大炭田にして、之を六坑區に分ち、大浦七浦宮の浦勝立宮の原高田とし、其事業は總て三井家の經營に屬

大牟田町



し、規模雄大、其出炭額百五十萬噸に上り、本邦第一の炭坑と稱せらる。炭坑の首部は之を大牟田町に置き、各種の工場、三井物産會社支店三井工業學校等あり。町は今は次第に膨大し人口増加して四萬四千人を算ふ。殊に從來此地の石炭は之を輸出するに當り、一旦和船に托して口の津港に送り、始めて汽船に積替ゆる等不便少なからざりしを以て、更に大牟田の南方四ツ山崎の麓に築港の工を起し、長く誘導堤を築き、中に内港を設け、閘門によりて干満甚だしき有明海の水準を調整し、大汽船は容

易に繫船壁にかゝり、各炭坑より鐵道によりて運ばれ來る石炭は、宏大なる積卸機によつて直に舶載さるゝを得べく、明治四十二年其工を竣り、三池港と命名せられてよりは、市況更に一段の面目を改め、市街は愈發展し、殊に港の一部は一般商船の爲めに開放し、普通の開港場となせるが故に、商業亦次第に興り、九州諸港中其活動最も著るしきものゝ一となれり。大牟田町の東北里許、別に三池町あり。人口六千四百を算ふ。町の南方歷木村に景行天皇行宮の址あり。

汽車は大牟田驛より一里餘にして熊本縣に入る。

更に小倉市に歸り、是より豊州線沿道の地を記せんに、線路は小倉市を出て、東南に向ひ、城野、曾根を経て、京都郡に入り、荻田を経て行橋町に達す。行橋町は京都郡の北部にある一市邑にして、長狹川其中央を流る。元と行事、大橋の二邑河の兩岸にありしを、町制を布くに當り合して今の名に改めたるものなり。町は中津街道の衝に當り、筑豊鐵道の分岐點なるを以て、交通の便多く、市街繁華にして戸口稠密人口約七千八百を算ふ。地に郡役所あり。

行橋町

り。汽車はこれより新田原椎田松江等海岸の地を走りて、宇の島に達す。町は人口四千を有し、其築港近年に至りて完成し、此の地方の一商市をなす。八屋町は築上郡の主邑にして、人口約五千に上る。汽車はこれより山國川をわたりて大分縣中津町に達す。

豊津町

行橋町より岐れたる鐵道は、京都郡の中部を西南に掠めて田川郡に入るものにして、主として、田川郡産出の石炭運輸の便を掌れり。行橋の次驛を豊津と爲し、此地方の一中心をなし、地に中學校あり。國分寺は天平九年の創建にして、聖武天皇勅願の道場にして名高く、九州屈指の古刹と稱せらる。犀川驛には、其附近に生立八幡神社、巖持山神社等あり。共に此地方の古祠なり。田川郡に入りて油須原驛あり。田川郡は南北十里、東西三里を有する大郡にして、豊前炭の生産地として名高く、筑前の嘉穂、鞍手兩郡と相連なり、爰に有名なる筑豊炭田の地をなす。鐵道は伊田驛から岐れて、筑豊線の金田驛と相連絡す。郡の南境には英彦山聳立し、賽路は香春驛より長く南に通す。香春町は郡の主邑にして、人口三千五百。附近に香春炭坑あり。香春

神社、高座石寺は此附近にあり。勾金村鏡山に鏡山神社あり。其西に河内王の陵墓あり。其形前方後圓にして頗る巨大なり。河内王は持統天皇三年筑紫太宰帥に任せられ、同年八月は此地に薨去あらせられしなり。後藤寺金田附近炭坑の大なるの少なからず。大藪豊國等は殊に有名なるものなり。其詳細に至りては前章鑛業の條に譲りて之を省く。

英彦山

英彦山は郡の南境に聳立する名山にして、香春驛より六里、油須原驛より四里なり。山上に彦山神社あり。官幣中社にして、天忍骨尊を祀る。九州地方屈指の古社にして、神武天皇東征の時、既に天押雲命をして幣を奉せしめたりと傳ふ。歴代天皇の信仰厚く、屢々勅使を以て國家安寧を祈願せられたることあり。中世時代には一時修験道の行場として寺院三千六百坊を山中有し、戦國の際には割據自から用ゐ、富强諸侯に敵し、其香烟の盛なる、多く他に其比を見ざりしと云ふ。天正年間、大友氏の兵燹にかゝりて、その大半を焼燼し、其後豊臣秀吉の九州を征するや、當山の衆徒島津氏に與せしを以て、戦後其食地の大半を没せられ、僅かに三百坊を存するのみなるに至れり。

り。山内には舊址頗る多く、風光に富み、彦山遠望八景、彦山十二景、彦山二十景等の勝區あり。山麓、彦山村より登路一里半、甚だ峻嶮ならずと雖も、深樹境を蔽ひ、雲霧往々にして天地を蔽ひ、賽者をしておのづから神威の崇高の感に勝へざらしむと云ふ。

鞍手、嘉穂二郡の石炭産地たることは、既に前にこれを記せり。而して其中央を貫通せる鐵路は、皆なこの線路に於ける各炭坑の石炭を若松港に運搬する爲めに設けられたること略々これを記せり。此線路は九州幹線の折尾驛に交叉して南に向ひ、中間筑前植木の二驛を経て、この地方の中心直方町に至る。直方町は始め東蓮寺町と言ひしが、延寶三年今の名に改む。元和年間國主黒田長政が其子隆政に此地を賜ひ、館を構へてこれに居らしめし所なり。今猶ほ其館址双林院を存す。此地は遠賀川の西岸に位し、人口一萬七百萬有餘を算へ、鞍手郡役所の所在地なり。町は炭田の中央に位し、且つ水陸の運輸の衝に當れるを以て市街頗る殷賑を極む。町に多賀神社あり。これより鐵道は二つに岐れ、一は田川郡の金田地方に向ひ、一は嘉穂郡に入りて飯塚

飯塚町

町を過ぎ、猶南して下山田驛に至る。共に石炭搬出の交通主要路を成せり。此の沿線は石炭の産出夥しく、地下皆な炭層と稱するも敢て誣言にあらずして、煙突到る處に林立して滿目都て是れ炭坑ならざるはなし。鞍手郡に於て、大野浦第一第二新入本洞勝野遠賀郡に於て、第二新手第二大辻嘉穂郡に於て、高雄大城餘田碓井等の炭坑は其殊に有名なるものなり。飯塚町は嘉穂郡の主邑にして、人口五千四百、市街甚だ殷賑なり。長崎街道はこれより猶南して筑紫平野地方に入る。其道路上に長尾内野の諸邑あり。郡の東南、牛隈驛の南に大隈の一邑あり。人口四千五百を有す。

福岡市より西、海岸に沿ひて、佐賀縣東松浦郡に入るの路は、早良糸島兩郡の地方に通せり。福岡市の西方に接続せる早良郡西新町(人口三千四百)金龍寺内に碩儒貝原益軒の墓あり。西新町より一路南に分かれ、早良郡の西部を南北に横断して、佐賀縣神崎郡に通ずるものあり。早良川を渡り蛭ヶ濱(人口四千九百)の大邑を過ぎ、下山門の海濱に出づれば、此地は生の松原と稱し、里俗傳へ云ふ神功皇后征韓の時、松枝を折りて逆しまに挿し、若し事なく凱

旋せば此松生きて立てよと宣ひしより此名ありと。前に殘島の青螺を見、風光奮くが如し。松林中に壹岐神社あり。宗祇の筑紫紀行にも、「此社熊野にておはしましけり、其傍に古松あり。これこの逆さ松なるべし」と記せり。殘島は往昔能の浦又は能解の浦と書けり。萬葉集に「唐泊のこの浦波立ぬ日はあれども家をこひぬ日はなし」と言へるは是なり。これより糸島郡に入れば、志摩半島の廣く北方に展開して博多灣と唐津灣を別つあり。沿道に、今宿、周船寺の諸邑あり。今宿の南一里半怡土村字高祖に高祖神社あり。龍國寺は一貴山村大字波呂にありて曹洞宗の一名刹なり。道路は更に西南に向ひ前原(人口三千九百)、加布里深江福井吉井(人口三千七百)等の諸邑を経て、佐賀縣東松浦郡濱崎に達す。芥屋の大門は、志摩半島の西方の岬に位置し、玄武岩の奇岩轟々材木を樹てたるが如く、海水其間を浸蝕して洞窟をなし、奇景壯觀世の喧傳する所なり。

佐賀縣

佐賀縣

佐賀縣は九州地方の北部に位し、東は福岡縣に連り、西は長崎縣に接し、南は長崎縣及び筑紫海に面し、北は玄界灘に瀕す。縣廳を佐賀市に置き、肥前國の一市八郡を管す。一市は即ち佐賀市にして、八郡は三養基神崎佐賀小城東松浦西松浦杵島藤津即ち是なり。東西の最も長きところ二十一里、南北の長きところ十八里、面積一六〇、〇八方里、(二四六八、九九方里)人口六六八、八一(一方里四二五五人)二方里二七六人を有す。各郡の中、面積の最も大なるものは東松浦郡にして、西松浦郡これに次ぐ。前者は面積三五方里、後者は三三方里、これに次ぎて藤津郡の十五方里〇一、佐賀郡の廿三方里三、杵島郡の廿二方里、小城郡の十三、方里五六、神崎郡の十一方里、三養基郡最も小にして十方里五四を有するに過ぎず。されど人口の密度に於ては佐賀、三養基二郡最も大にして、前者は一方里四二〇〇人を占め、後者は一方里四〇〇〇人を占む。これに次ぐは杵島郡の三二〇〇人、神崎郡の三〇〇〇人なり。藤津郡は人口の密度最も小にして、一方里一二〇〇人を有するに過ぎず。地勢は縣の西部及西南部に亘りて、筑紫山脈の峯巒及び之を貫きて噴出せ

地勢

産業

る火山蜿蜒として連り、多良岳國見岳烏帽子岳の諸峻峰を起して長崎縣の境を成し、中部は此等山脈と系統を同したる丘陵到る處に起伏し、其間を縫ひて、道路縱横に通じ、市街村落發達す。北部は福岡縣の境に筑紫山脈中特に著るしき花崗山塊より成れる背振山脈東より西に蜿蜒し、背振山雷山浮岳等の諸高峯を成す。これを以て三養基神崎佐賀小城東松浦諸郡の北部は此の山脈の餘派を受けて、全く丘陵地を成し、背振山脈南麓の佐賀平野とは全く其の地形と人文の發達とを異にするを見る。佐賀平野は有明海に面し筑後川及び武雄川嘉瀬川本庄川等の下流に發達せし沖積平野にして、東は筑後川より、西は杵島山麓の地に及び、一望無涯の沃野にして、所謂筑紫平野の一部をなし、土地豊饒にして一望稻田の穰々なるを展き、河川縱横、道路紛糾其間に横はり、縣の首府たる佐賀市實に其の中央に位せり。

産業は農業・鑛業・工業水産共に盛なり。米は佐賀平野を主産地とす。多良米・山代米また著名なり。麥の産出亦少なからず。特用農産物には、東松浦郡の柑橘、三養基郡の橙實等あり。藤津神崎の二郡には茶を産し、嬉野茶背振茶

交通

の名あり。工業は、織物に佐賀綴通三養基縮等あり。陶器に有田焼唐津焼等あり。有田焼は本邦屈指の窯業にして、其の枝尾張の瀬戸焼と輸贏を争ふと稱せらる。その他、化學工業には和紙清酒木蠟セメント種油等あり。鑛業は佐賀平野の邊縁にある杵島炭田を始め、松浦郡の各所に産し、唐津線の沿道汽車の駛る處、處々に炭坑の烟突を見るべく、其産額亦少なからざるなり。

縣下の交通を記せんに、鐵道は九州幹線の線路、縣の東部福岡縣界より來りて三養基郡に入り、田代驛を経て鳥栖驛に至る。鳥栖驛よりは長崎線西に岐れ、幹線は南して再び福岡縣に入る。長崎線はこれより縣の重要な交通路を成し、神崎郡の主邑神崎町に一驛を置き、南して佐賀市に達し唐津線を分つ。長崎線は之より佐賀平野の中央なる久保田・牛津・山口等の諸驛を經、北方、武雄を過ぎ、杵島郡の丘陵地に入り、三間阪を經て西松浦郡の有田驛に達し、此處に伊萬里線を分ち、直ちに南に折れて長崎縣に入る。唐津線は佐賀市を基點となし、久保田までは長崎縣の線路と並行し、これより西北に岐れて、小城を過ぎ、丘陵と平野と相接觸せる地點を西走して、別府筋原の二

驛を過ぎ、漸く東松浦郡の炭坑地に向つて進む。嚴木岩屋相知山本等の諸驛は、皆な炭坑の烟突の山隈に凭りて煤烟を吐けるを認む。これより汽車は鬼塚の一驛を經て、唐津川に沿ひ、遂に風光明媚なる唐津町に達す。又長崎線の有田より岐れたる伊萬里線は有田川の流域に沿うて北し、藏石・夫婦石の二驛を其間に置く。有田陶器は専ら此線路を利用して輸出せらる。道路は長崎線に添ひたる長崎本街道を主とし、この北方、一二里の間隔を隔てて、神崎より小城多久に通ずる街道あり。杵島・藤津郡に向ふ道路は、牛津及び山口より岐れて南を指し、杵島山の東を過ぎ、鹽田川を渡りて、藤津郡に入り、鹿島町より濱町の一邑を過ぎ、之より全く海岸に沿うて南す。長崎街道は武雄町に於て全く鐵路に離れて南し、嬉野の一邑を經、俵坂越を經て、長崎縣の大村灣頭彼杵町に出づ。其の他伊萬里より北して長崎縣の北部に入るの路、伊萬里より唐津半島に出づる路あり。

吾人は先づ九州幹線の汽車に乗じて、此の縣に入りたりとせん。田代驛は其の第一の停車場たり。邑は國道を夾みて市街發達し、人口二千を有す。こ

鳥栖

れより筑後久留米市に通ずる道路南に岐る。住民は賣藥の行商を業とするもの多し。地に西清寺の一名刹あり。又字永世に永世神社あり。鳥栖驛は長崎線の分岐點にして規模宏大、停車場内に保線事務所を設け。九州線中の大驛なり。森木の一邑は其附近に在りて、鳥栖驛の本邑を成し、三養基郡役所あり。郡内最も殷賑の地にして、人口七千を有す。明光寺、妙覺寺等の巨刹あり。中原驛の北十五町の地に、綾部神社あり。地、小丘を成し、遠く鳥原半島を望み、風景の佳なるを以て知らる。大字鏡原に綾部城址あり。筑後川は郡の東を流れ、北茂安村白壁より南茂安村坂日に至る間の堤防は千業土居といふ。此堤は慶長年間成富兵庫茂安が十二年の功を積みて竣成せし者、蜿蜒三里に連り、霖雨の候も民皆な枕を高うして眠むるを得るは、皆其澤に由る。神崎町は神崎郡の主邑にして、平野の中央に位し、長崎街道其の他數路の交叉點に當り、市街殷賑にして、人口八千を有す。神崎郡役所あり。住民多く素麵製造業を營み、神崎素麵の名此の地方に遍ねし。町に縣社榎田神社あり、景行天皇時代の創建と稱す。三田川大字田手に一名刹東妙寺あり。

神崎町

佐賀市

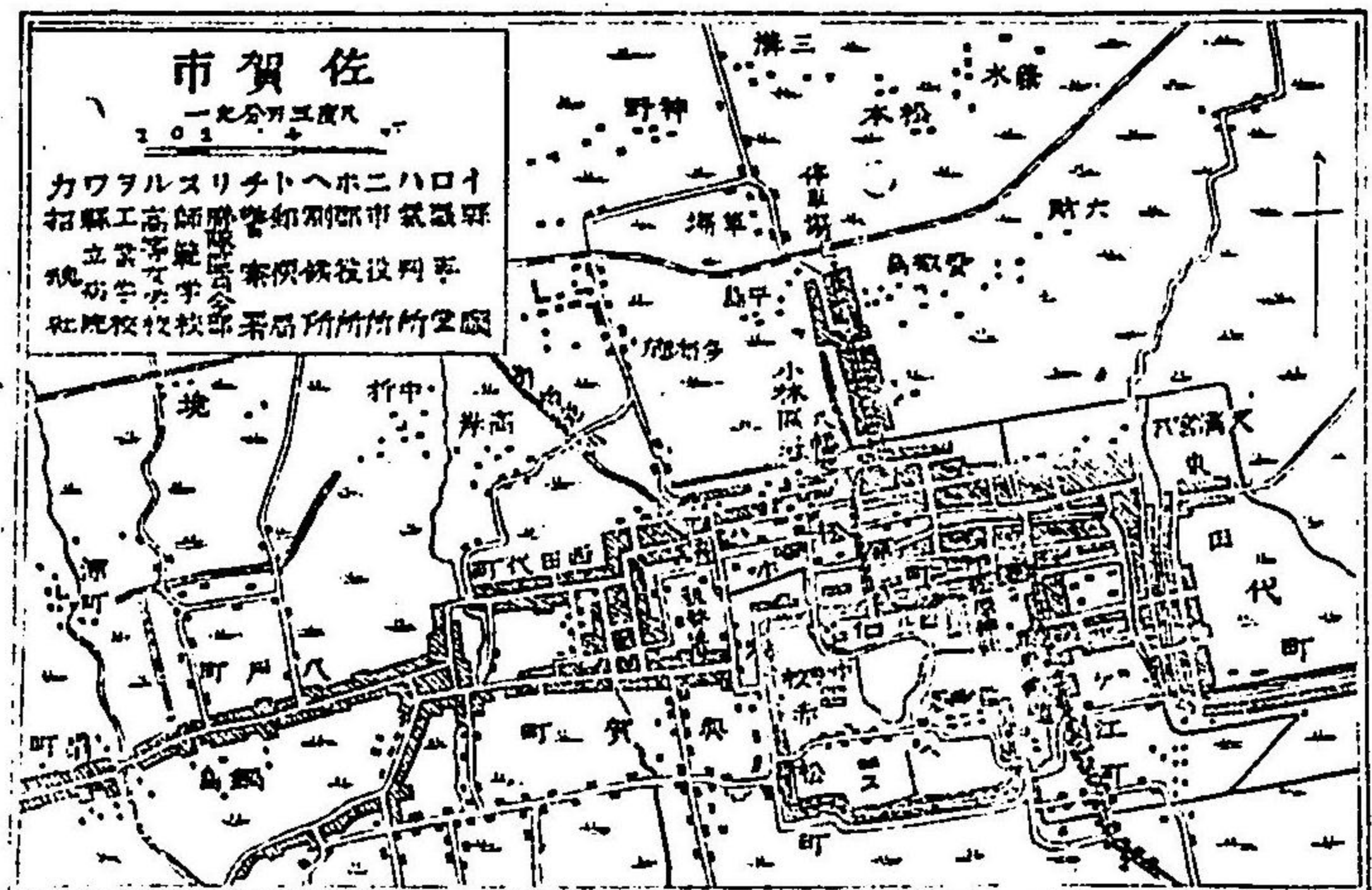
背振山は神崎郡の北部に聳立する一峻峯にして、田手より登路五里と稱す。海拔千三十二米突、花崗岩より成り、山腹に背振神社あり。山上頗る眺望に富み、登臨の快言ふべからざるものありといふ。山より出づる川を城原川といふ。その山間を流るゝ間は、山谷相迫り、流れて急湍を成す。字廣瀧に一危橋を架す。兩岸より石を積みて作り、支柱を設けざること、甲州の猿橋に似たり。人呼んで眼鏡橋と稱す。又西鄉村に日隈山あり。高距一六三米に過ぎずと雖も、平野の頭に屹立し、眺望の佳なるを以て知らる。神崎より郡の南部に通ずる道路を行けば、一里半にして鹽原の一邑あり。地に若宮神社あり。蓮池町は鹽原の南半里に位し、寛永年間鍋島勝義が其の三子道澄に五萬一千石を封せしめて明治維新に至りし地、今其の城址に公園を造れり。老松古樟多く蒼鬱趣を成せり。蓮池町は人口五千を有し、平野中の一名邑を成せり。

汽車は神崎より西南、平野の間を走りて縣の首府佐賀市に達す。佐賀市は舊鍋島氏佐賀藩の城市にして、東西一里二十三町、南北二十町、市坊二十七

松原神社

人口三萬五千を有す。佐賀平野の約中央に位し、川上川其の西を流る。停車場は町の北端にありて、これより起れる道路を唐人町通とす。旅店連漕店多く軒を列ね、鐵道馬車の線路は亦停車場より起り、此町を走り市の外部を過ぎて諸富地方に通ず。重要な市坊は白山町元町吳服町新馬場片田江町等にして、殊に繁華なるを新馬場とす。この街路に面し縣社松原神社あり。明和年中藩主鍋島治茂の祖先鍋島直茂と其の夫人とを祀れるものにして、明治七年閑叟公を祭りて、これに合す。社殿宏壯境内甚だ廣からざれども、處々に泉池を穿ち、自ら公園の趣を成す。殊に、社前の老樟樹は樹幹巨大にして天に參し、頗る壯觀を極む。公園の中に鍋島直正忠勤之碑あり。華表の前の街路には、楊柳を並栽し、旅館あり、劇場あり、遊戯場ありて、市中最も繁華なるところとなす。松原神社に隣りて警察署あり。

これより濠端に沿ひて西に向へば、公園に隣りて、物産陳列所佐賀市役所等あり。舊城内には城濠に面し縣廳あり。其の附近に地方裁判所佐賀郡役所等あり。城濠には蓮を植ゑ、花時の美觀を以て稱せらる。縣廳の一方には赤



十社佐賀支部あり。縣立高等女學校あり。南に中學校あり。又城の南半部には師範學校監獄署測候所等あり。舊城は明治七年、江藤新平の亂に、二の丸三の丸等城櫓は皆な焼失し、今は僅かに牙城の一城門を存するのみ。城門猶ほ彈痕を存し、轉た人をして當年を追想せしむ。城内南部森林の中に江藤新平の碑あり。

城内を東南に出づれば、水の江町に縣立工業學校あり。私立第五佛教中學あり。縣立病院好生館あり。八幡社及び楠公社は米屋町にあり。其東は白山町にして、郵便電信局あり。元町を過ぎて、高木町に至れば、本派本願寺派の巨利願正寺あり。慶長年間

善閑大和尚の開基にかゝり、現今の堂宇は元祿十四年の再建に屬す。結構宏壯にして、眞に舊藩眞宗の法頭たるに耻ぢず。招魂社は與賀町川原小路にあり。多布施川は其の北側を流る。明治戊辰の役國事に死したるものゝ爲めに其の事を録せる碑あり。其の附近に與賀神社あり。樓門高く多布施川の支流に臨んで立つ。これより西に通ずる街路を與賀馬場といふ。本行寺小路には日蓮宗の巨利本行寺あり。

佐賀市の西北部は平濶なる平野にして、多布施川北より南に流る。神野村大字多布施に縣立農學校あり。多布施川の水の兩派に岐れたる處は、堤上に松樹を栽植し、四季の遊樂に適す。神野には藩主閑叟公の常に優遊あらせられし御茶屋あり。地域廣く假山泉石に富む。鍋島村の地は太宰少貳及び九州探題府治のありし處、當時は九州屈指の市邑にして、戸數三千餘戸に及べりといふ。又いふ、景行天皇の朝、日本武尊川上熊襲討伐の際、兵船に乗して此津に上り、蠣壳の上を歩いて川上に赴く時に尊姫踏去とのたまへり。依つて從來蠣久と稱するに至れりとぞ。蓋當時は此の附近より南は全く一面の海

川上

なりしが如し。春日村には、元和年間成富兵庫茂安が多布施川を浚修せし石開の跡あり。其の附近久池井に臨濟宗の巨利高城寺あり。宇尼寺には國分寺の遺址あり。

尼寺より北する半里、川上に至れば、川上川北より流れ、一橋あり。彎形をなして架る。韓人橋といふ。山翠人を襲ひ、水聲佩環に似たり。ことに兩岸櫻花多く、春日來り遊ぶもの多し。眞に一勝地たるに負かす。河畔に淀姫神社あり。此の川、鮎を産すること多く、橋の上流十數町の瀬を堰きて、大なる築を設く。毎年盛夏を以てこれを架し、晩秋に至りて之を撤す。淀姫祠の西隣に實相院あり。此の地、北に山を負ひ、東に川上川を控へ、風景の佳なるを以て聞ゆ。またこの西南水上山上に萬壽寺あり。宇都々來には、閑叟公の退院後に營築して遊息所となせし十可亭あり。金立山は其の北方に發ゆ。頂上に金立神社あり。松梅村の東名尾西名尾と稱する地は一條の溪流其の中央を貫き、屈曲して流れ、流に添ふの一百戸皆な製紙を業とす。近年大に改良の實を擧げ、名尾紙の名漸く九州地方に高し。

諸宮

早津江港

牛津町

佐賀市以南の地は全く第四紀新層の平野に屬し、數條の河流北より南に其の間を貫流し、溝梁道路縱横に相通す。筑後川の沿岸に諸宮の一邑あり。佐賀市より鐵道馬車を通じ、更に東南柳河町に至る街道あり。筑後川を隔て、福岡縣の若津の河港と粉壁相望む。町は縣下に於けるセメントの主産地にして、セメント會社は宏大なる規模を成し、數多の烟突より簇出する煤烟は遠くこれを望むを得べし。筑後川の一支流早津江の河口に早津江港あり。人家櫛比船舶輻湊す。中川副村字三重津に、佐賀郡立甲種商船學校あり。

更に佐賀市より西方に向へば、市の西方一里に法勝寺の一古刹あり。

汽車は佐賀より久保田驛を過ぎ、牛津驛に至る。地は既に小城郡に屬せり。牛津町は郡の南部の名邑と爲し、人口四千八百餘を有す。町の西方を牛津川流れ、水運の便あり。地に乙宮神社天滿宮蛭子社等あり。天滿宮は俗に惡七天神と稱し、賽客の多きを以て著はる。これより線路は稍西し、杵島郡に入りて山口驛を過ぐ。住の江港は六角川の河口に位し、水運頗る便に、物貨集散の商業港にして、船舶常に輻湊す。蓋し佐賀平野の米穀と北方地方の炭坑

北方

武雄町

より産出する石炭の運輸とは専ら六角川の水利を用ひて此處に集り、汽船又は帆船の便によりて、長崎及び口の津地方に輸送せらるゝを以てなり。これより六角川を渡りて一里、六角の一邑あり。人烟稠密なり。

北方驛は大字志久にありて、北方の主邑と二十町餘を隔つ。此附近の地は米穀石炭の産に富み、志久津米北方炭の名世に著はる。附近炭坑の著名なるものには、西に北方杵島あり。東に赤阪あり、北方炭坑を除くの外は汽車の中より其の烟突と煤烟とを認むるを得べし。住吉村に眞言宗の巨刹大聖寺あり。北方村大字志久より小城郡多久村との間に横はれる峠は志久峠又は柴折峠と稱し、龍造寺氏と多久氏との古戰場として世に知らる。其の附近に燒米の池あり。

北方驛の次驛を武雄驛となす、旅客は佐賀平野の次第に窮蹙する所、左に御船山の一孤峰を見、右に武雄町の瓦甍を見るべし。武雄町は武雄温泉の名を以て知られ、戸數五百、人口三千二百を有す。町に杵島郡役所區裁判所等あり。温泉は宮本町の北端櫻山公園の麓に涌出し、炭酸泉にして、其反應は

弱亞爾加里性なり。溫度は攝氏の四十九度にして、涌出量も一晝夜八百四十石に過ぎず。されば温泉としては敢へて他に誇るに足らざれども、交通の便に富み且つ設備頗る完全にして、旅舎は宏壯なるもの多く、浴客をして優遊旬日猶ほ倦むことを忘れしむ。温泉場の後方にある櫻山は、火山岩より成り奇岩屹立し、其景苑として、屏風を連ねたるが如し。山の半腹を開きて公園となし、松樹其の他の花卉を植え遊戯の地とす。園頭に柄崎神社あり。又、山の東半腹に蓬萊館と稱する公衆集會所あり。樓上よりは全市街を一眸の中に收むることを得べし。御船山は線路の南に位し、南北二峰に岐れ、全山奇岩怪石を以て成り、處々に古社を點綴す。其の東麓に武雄神社あり。其附近に武雄城址あり。又、山の南麓、嬉野街道に萩の尾御茶屋あり。武雄藩主鍋島勇爵の別荘此處にあり。風致に富めるを以て聞ゆ。其他、蓬萊山の山腹に臨濟宗の一名刹廣福寺あり。宇宮岡に曹洞宗の名利圓應寺あり。更に武雄より長崎本街道を進めば、南方三里に嬉野温泉あり。長崎縣彼杵驛に至る四里の處にあり。地は藤津郡に屬し、嬉野川の西岸に位す。炭酸泉

にして岩石の間より湧出し、湧出量武雄温泉の比にあらず。また土地幽靜、且つ設備亦武雄温泉に劣らざるを以て、來り浴するもの多し。鐵道線路は武雄驛より第三系丘陵の中に入り、三間阪の一驛を過ぎて、西松浦郡に入れば、有田驛あり。旅客は汽車の車窓の中より、丘陵の起伏する處、白堊粉壁の人家と伍して幾多の陶窯の連れるを見るべし。これ實に本邦著名の窯業地にして所謂有田焼の主産地なり。此の地、慶長以前までは全く山間の一荒村たるに過ぎざりしが、陶器製造の創始せられてより漸次繁華の度を加へ、以て今日の盛況を致せりと。町は戸數千五十、人口六千を有し、住民多くは陶窯を業とす。就中其最大なるを香蘭社とす。(工業参照)道路清洒にして、一見富豪の多き町たるを知るべし。地に、縣立工業學校あり、陶山神社は蓮華石山の半腹に位し、鐵道線路その社前を通過す。町の東泉山に、泉山陶磁石採掘場あり。採掘既に二百八十餘年、而して未だ盡きず。全山皓皓として雪の如くまた壯觀なり。鐵道長崎線はこれより西南して長崎縣に入る。而して伊萬里線はこれより

北に岐れ。藏宿の一驛あり。曲川村の一部にして、地に陶器を産す。有田陶器の特色たる赤繪錦附の始祖酒井田柿右衛門は此の地に生れたりき。汽車は榎河内山、越岳の西方、有田川の峡谷を過ぎて、夫婦石驛より直ちに伊萬里驛に達す。

伊萬里町

伊萬里町は西松浦郡の中央に位し、西北は伊萬里灣に臨み、北には城山伊萬里公園等の高地あり。南は十餘町を隔て、腰岳に對し、伊萬里川は町内を貫流して伊萬里灣に注ぐ。風景唐津港に及ばずと雖も、亦掬すべきの風致も乏しからず。東西十二町、南北五町、人口四千二百餘を有す。最も繁華なる町を濱町上中町中町上下町下町等とし、西松浦郡役所あり。伊萬里川の北今津村には、區裁判所商業學校あり。此の地の繁華は主として陶器の輸出に原因し、殊に、昔時は交通一にこの水路に由らざるを得ざると、有田に於ては製造者と販賣者とを區別し、旅客の陶山に登るを禁じ、其の製品一に伊萬里商人に委ねしを以て、灣口には帆檣林立、當時輸出額凡七十萬俵と注せられ、實に九州屈指の市場たりき。今や町は陸には伊萬里線ありて南長崎線と接し、

海には良好なる錨地を有し、交通頗る便なるを以て、商業愈盛に、船舶の出入年九千餘艘を算すといふ。地、また水産に富み、鯛・鱈・鰯・鮎・烏賊等の産品少なからず。町の南端新町に岩栗神社あり。立町には淨土宗の巨利常光寺あり。又大坪村に香橘神社あり。伊萬里公園はこの境内及び其の丘陵の地にして、眺望開豁市街及び海灣を一眸の中に收む。ことに此處より見たる腰岳は宛然として富士の形を成し、まことに松浦富士の名に背かざるを覺ゆ。

伊萬里灣は玄海灘の潮深く陸地に鬱入し、灣口には福島鷹島横りて外海の怒濤を遮り、殊に其水底は泥沙にして投錨に便に、幾多の大船も容易に繫留することを得べし。若し久原の沖に一大棧橋を架設せば、二千噸の巨船も横付にするを得べく、築堤浚渫の勞を要せずして、一大良港たるを得ること疑ひを容れず。灣内に越木島小島釘島七つ島等の小嶼星散羅列す。

伊萬里町より起れる道路は、一は東して佐賀市に至り、一は灣の東岸に沿ひて東松浦郡に入り、一は灣の西堤を縫ひ長崎縣に入り、一は佐賀街道を東岸道路の中間を経て唐津に向ふ。佐賀街道には松浦村宇桃川に瓶山の舊窯業

所の跡あり。大川内にも大川内焼の址を存す。唐津街道には南波多村椎の峯に椎峯焼の舊址あり。同村井手野に古城址あり。波多三河守の家臣井手飛驒守の居城址にして、今猶塹壕を存せり。楡の谷は同村高瀬の山奥にあり。人家僅かに五六戸に過ぎざれど、數十年前まで他村と全く交通を絶ち、孤棲猶は肥後の五家莊の如くなりしと傳ふ。長崎縣に通ずる道路上には、伊萬里の西半里に長濱あり。鹽田遠く連り、製鹽業甚だ盛なり。牧島村城山の半腹に、縣下屈指の古刹圓通寺あり。東山代村字里に青幡神社あり。久原は海岸の一邑にして、地に松浦丹後守の遺址を存す。

小城町

佐賀市より岐れたる唐津線の鐵路は、久保田驛より西北に向ひ、直ちに小城郡の主邑小城町に達す。町は郡の中央にありて天山の南麓に位し、黃城又は莊に作る。建久中千葉氏の賜封牛頭城と稱するもの町の北端牛頭山にありて城址猶存す。那内屈指の名邑にして、東西八町、南北十七町、人口三千七百餘を有す。南北に通ずる町を大手町岡町とし、これを並行して東にあるを正徳町といふ。其の北に蛭子町あり。郡役所區裁判所出張所中學校等あり。

地に物産多く、紙素麵織物提灯羊羹等あり。城址は町の西北部に位し、元和年中飯島勝茂が佐賀より七萬三千石餘を其の子元茂に分封したるの地、今其地を開きて公園と爲す。古櫻樹相連り、花時は來り遊ぶもの多し。岡上に後西院天皇の御製を鐫したる碑あり。又櫻岡公園碑阿蘇大宮司惟直殉難碑等あり。又、岡の南麓に岡山神社あり。舊小城藩主鍋島元茂を祀る。神苑は公園と相連り、假山泉石の美に富み、頗る名園の趣を成せり。牛頭山は町の北端にありて、祇園川其の麓を流る。山に千葉氏の城址あることは既に前にこれを記せり。岩松村大字松尾に勝光寺あり。

町の北一里に見瀧寺あり。天台宗にして、往昔は堂宇三百餘坊を有し、九州屈指の伽藍なりしが、兵燹にかゝりて焼失し、久しく廢寺たりき。今、殘存せる大悲堂は六間四面の銅瓦葺にして往時の面影を存せり。其の傍に清水瀧あり。直下二十五丈と稱す。

天山は郡の西北に聳え、其の餘脈延いて東松浦郡に跨る。晴田村字晴氣より登路一里半、縣下屈指の高山にして坂路頗る峻峻なり。山頂に小石祠あり。

多久

天山神社即ち是なり。山頂よりは遙かに唐津灣を臨み、風光描くが如し。其の近傍に南朝の忠臣阿蘇大宮司惟直の墓あり。上熊川温泉は川上川の上流に位し、小城町より北四里を隔つ。其の上流に古湯温泉あり。

小城驛の次驛を別府驛と爲す。別府は唐津街道の一邑にして、人口四千二百餘を有す。これより多久を経て杵島郡の武雄町に通ずる路あり。多久は一に丹邱と稱し、舊佐賀藩の大邑にして、山嶺四面を圍み、多久川其の間を流れて、おのづから一區を成す。多矢邑附近に聖廟と稱する唐風の一字ありて孔子の像を安んず。此の地は養蠶生絲の主産地として著名なり。

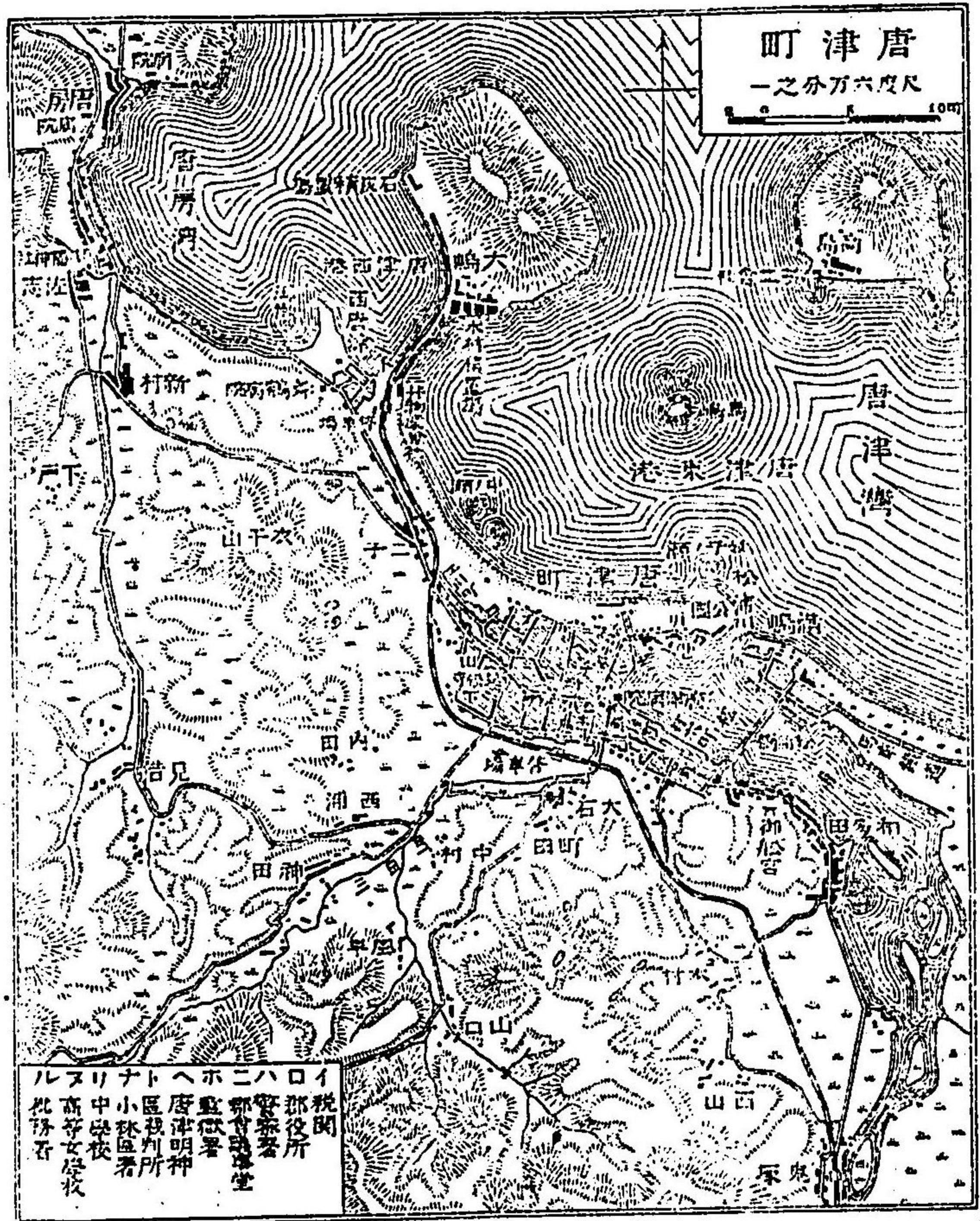
汽車は別府より丘陵平野の相交錯する間を過ぎ、筋原を経て、東松浦郡に入る。嚴木岩屋愛知山本の諸小驛歴落として相連る。此の附近小炭坑頗る多く、烟突の到る處の山隈に煤烟を吐けるを見るべく、石炭を運ぶ列車の絡繹織るが如きを見るべし。牟田部炭坑、矢代町炭坑、岸嶽炭坑等の名あり。就中山本驛に近き芳の谷炭坑最も大なり。相知炭坑も近年に至りて大に其の事業を擴張し、三十三年に至りて三菱合資會社の所有に屬し、爾來益々盛大に赴

唐津町

けり。同炭坑の傍に鵜殿岩屋あり。佛像を刻める岩石多し。久里村字伊岐佐に陣の山あり。同村字黒岩に曹洞宗の名刹醫王寺あり。鬼塚村大字山本に心月寺あり。この附近は松浦川の一支出波多川の流域にして、伊萬里街道これに通ず。川の東に岸岳あり。地に松浦黨の祖松浦源太夫の城址を存す。徳須惠は此の流域中の一名邑を成す。

汽車は山本鬼塚を経て、漸く丘陵地を出て、風光明媚なる松浦川に沿ひて、直ちに唐津驛に達す。

唐津町(第五十圖)は東松浦郡の中央に位し、唐津灣に臨み、松浦川南より來り、市街の東部を洗ひて海に入る。東西三十町、南北十町、戸口二千五百、人口一萬二千を有す。町を分ちて、内町外町郭外郭内の四と爲す。郭外郭内に舊城の内外舊藩土族の住居せる所にして、内町外町は所謂眞の唐津町を成し、人家櫛比す。停車場は町の南部にありて、これを出て、北すれば、數條の街路東西に通じ、頗る繁華の趣を成す。平野町紺屋町京町刀町等は内町の中の最も繁華なる街路にして、魚町大石町水主町等は外町の中の繁華なるものな



り。東松浦郡役所唐津病院區裁判所小林區署等は郭外にあり。郭内は舞鶴城のありし處にして、小笠原氏六萬石を領して此の地に居れり。今、開きて公園と爲す。小丘直に海に臨み西方に中學

校あり。校に沿ひ幅廣き磴道を曲折して上れば、頃刻にして其の頂きに達す。殘壁猶ほ舊時の面影を存し、轉た人をして當年を追想せしむ。頂上に立てば、唐津灣の風光四面に集り、神集島大島島高島の青螺波上に浮び、南には鏡山城壁の如く聳え、滿島の人家の櫛比せる、松浦橋の虹光の如く横はれる、真に一幅のパノラマを展けたるが如く、殊に其の東に虹の松原の沙濱長く連り弓弦の如き灣頭に遠く其の蒼翠を拖けるの光景に至つては、殆ど人をして恍惚として、嘆美措く能はざらしむるものあり。郭内に唐津神社あり。神功皇后の奉安せられしものと稱し、住吉神を祀る。毎年九月二十九日を以て大祭を行ひ、頗る雜鬧を極むといふ。西の濱は城址より以西の海岸の地を稱し、海水浴場あり。夏時は浴客來り集るもの甚多し。近松寺には近松門左衛門の墓あり。其の他刀町に淨春寺、東本町に龍源寺あり。

松浦橋は外町と滿島との間を流る、松浦川に架せる長橋にして、橋上の眺望甚だ佳なり。滿島は松浦川と唐津灣との間に突出せる沙嘴にして、人家櫛比し、自ら一別區を成す。其の西北端は即ち松浦河口にして、河幅は此處に

至りて再び狹隘となり、對岸舊城址との間一町に滿たす。和船輻輳し、帆檣林立す。此の間を公園の渡といふ。この海上一里の處に横はれる高島は花崗岩より成れる丘陵性の島嶼にして、周圍三里其の南麓稍々平坦にして海岸に接して人家多く列る。西海岸に高島製鹽會社あり。

唐津外町たる材木町を基點とせる輕便軌道は、松浦橋を渡り、滿島を過ぎて濱崎に至る。有名なる虹の松原は實にこの海岸に横はり、其の長さ殆と二里餘、白沙青松長く連り、玄界の碧浪來りて其の岸を洗ひ、殊に海岸は遠淺にして、海水清潔なるを以て、海水浴場の好適地として知られ、夏時浴客來り遊ぶもの少なからず。松原の海岸の南に鏡山あり。所謂松浦佐用姫の領巾振山にして、全山玄武岩より成り、山形卓の如く、美容遠くよりこれを見るを得べし。頂上に近く鏡山稻荷神社あり、詣者常に絶えず。山の西北端一老松の蟠屈する處、殊に眺望に富み、松浦灣の風光を一眸の下に集め、眞に人をして佇立去るに忍びざらしむるものあり。山の西麓に鏡神社あり、神功皇后を祀る。この傍に惠日寺あり。また眺望の美を以て聞ゆ。

虹の松原

大島

濱崎の東一里、玉島川に沿うて溯れば、字玉島に玉島神社あり。神后皇后を祀れる古社なり。

唐津驛より汽車は猶西北に向ひて、其の終點に西唐津驛を置く。前に横れる大島に炭坑あり、専ら其運搬に供す。唐津港は西の濱を隔て、西港と相連り、汽船常に碇泊し、煤烟蒼波を蔽ふ。明治三十二年港を開きてより、船舶の出入に一層の頻繁を加ふ。松浦地方の各地の炭坑より來れる石炭は皆此地に集り唐津炭の名を以て輸出せられ、實に本港輸出品の第一位を占む。此他紙魚類大豆米等これに次て輸出せらる。西港は一に唐房灣と稱し、汽船帆船の發着するもの多く、唐津石炭の集散及び釜山渡航は主として此處に於て行はる。税關またこの埠頭にあり。

道路は風光明耀なる唐房灣に沿ひ、これより中央丘陵の間を過ぎて、三里餘にして、半島の北端呼子港に達す。此の間火山灰發掘を業とするもの多し。佐志村字相賀には東光寺あり。

呼子港は呼子灣の長く彎入せる處に位し、前に加部島の尨大なる青螺を見

呼子港

名古屋古城址

る。人口五千八百餘を有し、純然たる漁市の趣を成し、街路狹隘にして、魚蟹の氣人を襲ひ、車馬僅かに單行するを得るのみ。大阪・長崎間の定期船は壹岐を経て常に此處に寄港す。此の附近鯨其の他の漁獲物に富むを以て、商業特に盛なり。加部島との間は、其の距離二十町餘に過ぎず。沖に鷹島燈臺を見、帆影常に相重なる。加部島は周回三里、丘陵相擁し、樹木繁茂す。島に國幣中社田島神社あり。多紀理毘賣喜命市寸島比賣命、多岐部比賣命を祀り、天平三年の創建にかゝる。縣下屈指の古祠なり。

加部島の北に加唐島・松島及び小川島あり。就中加唐島最も大なり。

豊臣秀吉が征韓の本營を置きし名古屋の古城址は、呼子灣の西岸名古屋にあり。當時は七年の歲月を費して竣功せしものにして、規模頗る宏大なりしと雖も、今は唯礎石に其の跡を留むるのみにして、松籟徒に風に鳴り、波濤遠く海岸を搏つ。本丸の跡は丘陵の上に位し、遙かに蒼波を隔て、壹岐島を望み、風景の秀絶なるは言ふを俟たず、轉た人をして英雄の偉業を追想して萬感措く能はざるを覺えしむ。廣澤寺の庭前にある蘇鐵は加藤清正が彼地よ

七ツ釜

鹿島町

り携へ來りて、秀吉の手づから移植せしものなりといふ。其他法光寺には會呂利新左衛門の計畫に成れる假山を存し、龍泉寺には徳川家康の在陣せし遺址を存せり。これより南すれば假屋灣あり。

呼子港の東には土器岬海中に突出す。七ツ釜の奇勝は此海岸にあり。玄武岩より成り、巧みに柱狀節理を生じて奇姿横生人をして驚心駭目せしむ。呼子より舩して訪ふべし。土器岬より港に至るの海岸は風景明媚にして、前に神集島を見、また立神岩の奇姿を見る。神集島は捕鯨を以て名あり。

更に佐賀地方に還り、六角地方より藤津郡に入れば、地に鹿島町あり。人口九千四百餘を有し、郡の主邑を成し、舊城趾を存す。城内に縣立鹿島中學校、附近に高等女學校あり。多良岳高く郡の西方に聳え、其餘派郡の大半部を蔽ふ。(地形参照) 道路は鹿島町より濱町を経て漸次海岸に近接し、多良の一邑を置きて、長崎縣北高來郡に入る。又祐徳軌道は武雄より鹿島を経て祐徳稻荷門前に達す。祐徳稻荷は町の南方一里餘字古枝にあり、賽者少らず。

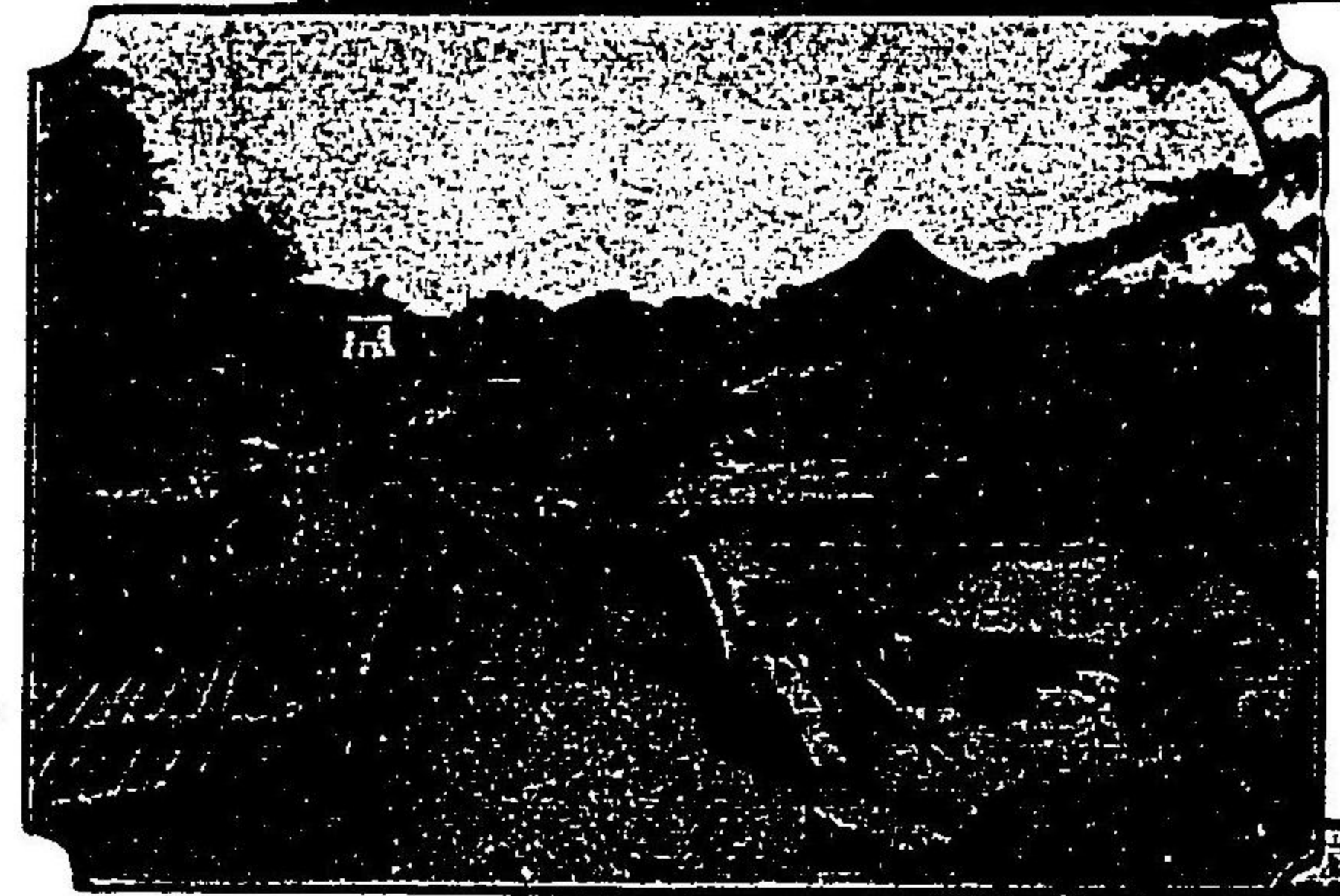
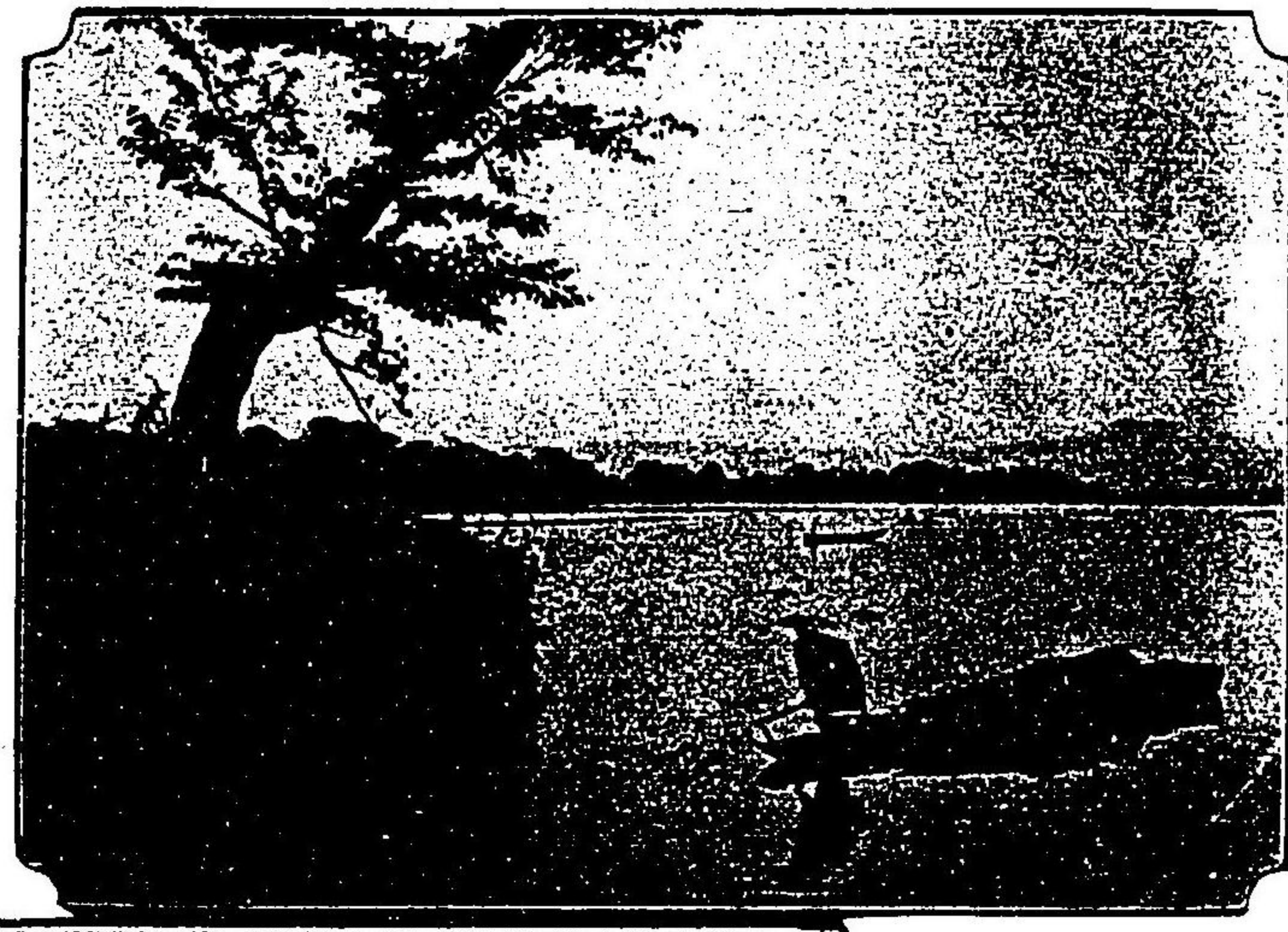
長崎縣

人口

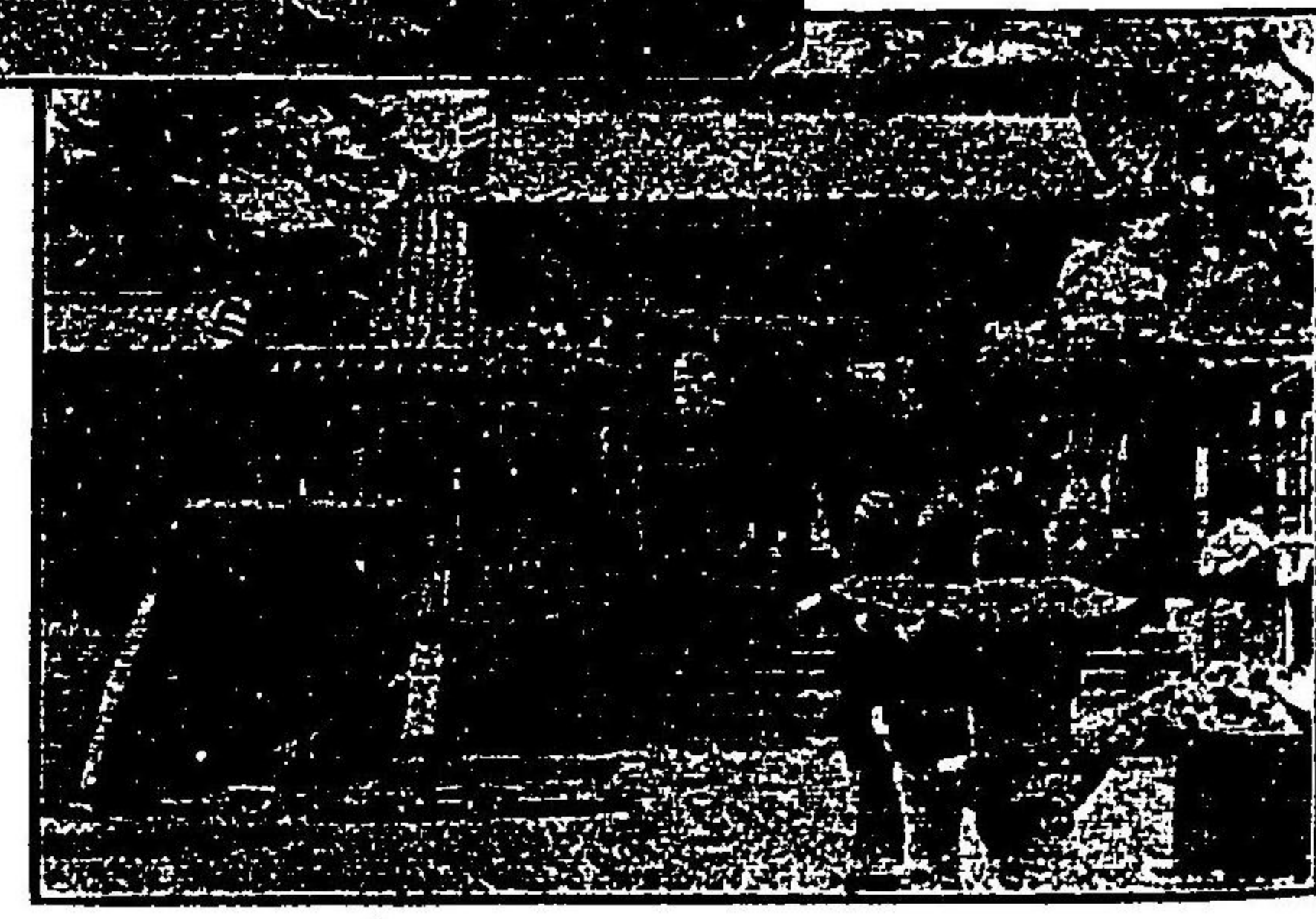
長崎縣

長崎縣は本地方の西部に位し、東北は佐賀縣に境し、西南は全く海に瀕す。縣廳を長崎市に置き、肥前の一市六郡と壹岐の二郡と對馬の二郡とを管す。肥前の二市六郡は、長崎市佐世保市、西彼杵東彼杵北高來南高來北松浦南松浦にして、壹岐は壹岐の二郡、對馬は上縣下縣の二郡是れなり。肥前の東西の幅長き處に於て、南北百九村、面積二三五一五方里(三六二六八三方村)、人口一〇八五三五八(一方里四二七六二方村二七七)にして、各郡中の最も大なるものは南松浦郡にして、面積四〇方里を有し、上縣郡これに次ぎて三九方里を有す。北松浦郡は本土の一部と平戸島及び五島の一なる宇久島を管し、南松浦郡は中通島奈留島久賀島福江島の四島及びその附近の島嶼を管す。本縣各郡に於ける人口の密度は、本土殊に長崎市佐世保市附近に於て一方里七〇〇人乃至一〇〇〇〇人を數へ、海濱僻遠の地に至りて、次第に其密度を減じ、絶海の島嶼に至りては、一方里九〇〇人を有するに過ぎざるところあり。

湖津壽後肥(甲)

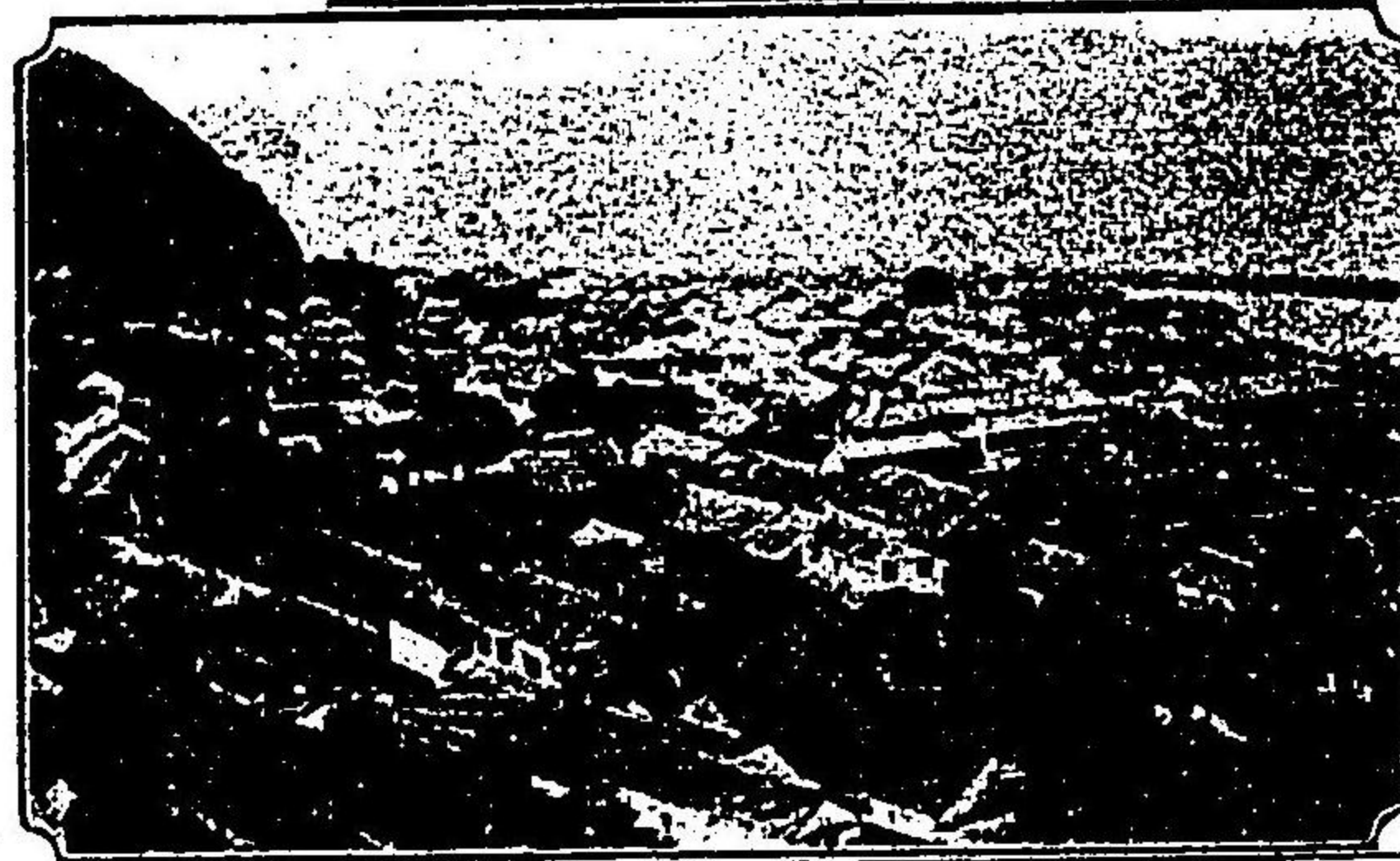


(乙) 肥後水前寺

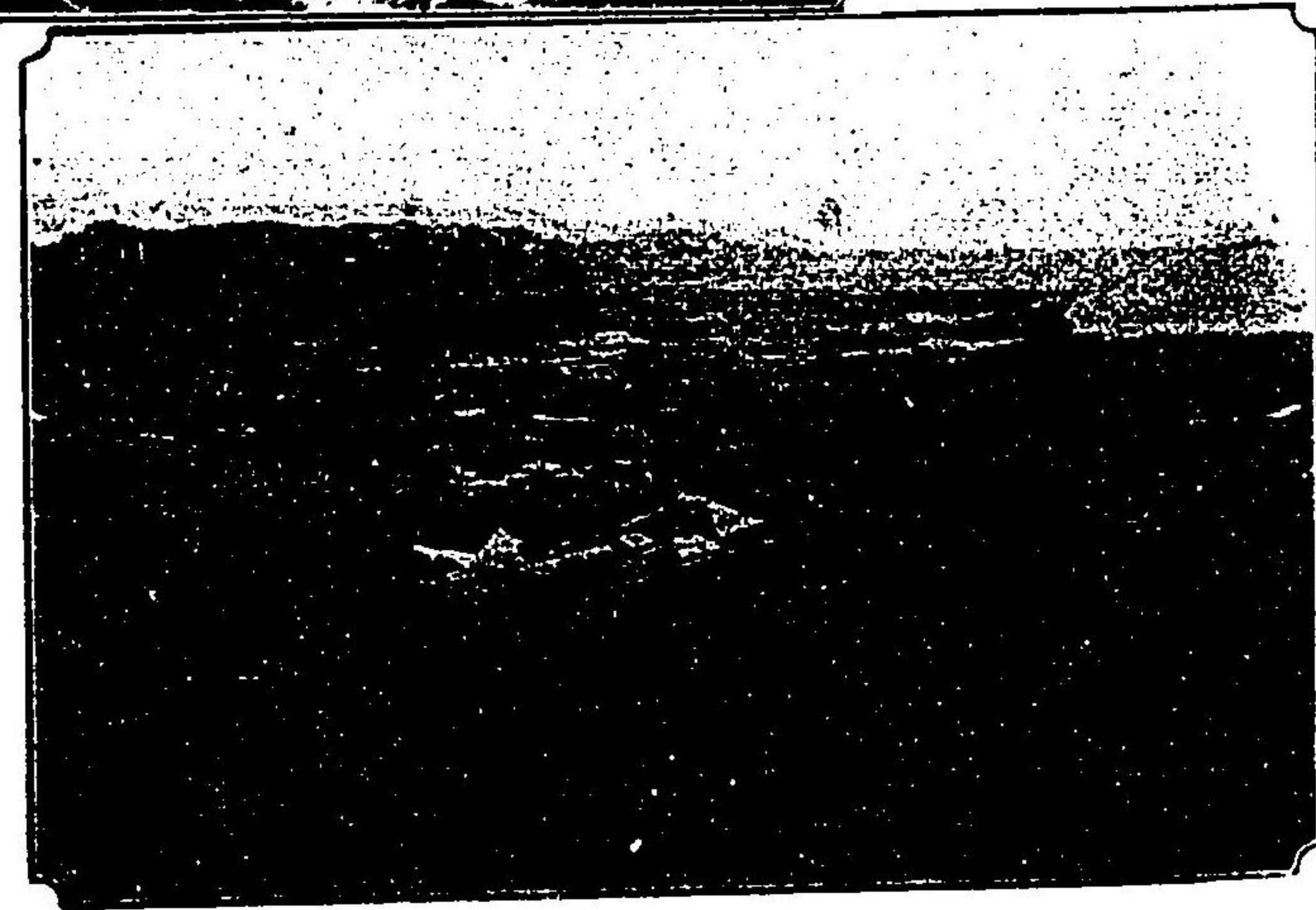


寺妙本後肥(丙)

港角三後肥 (甲)



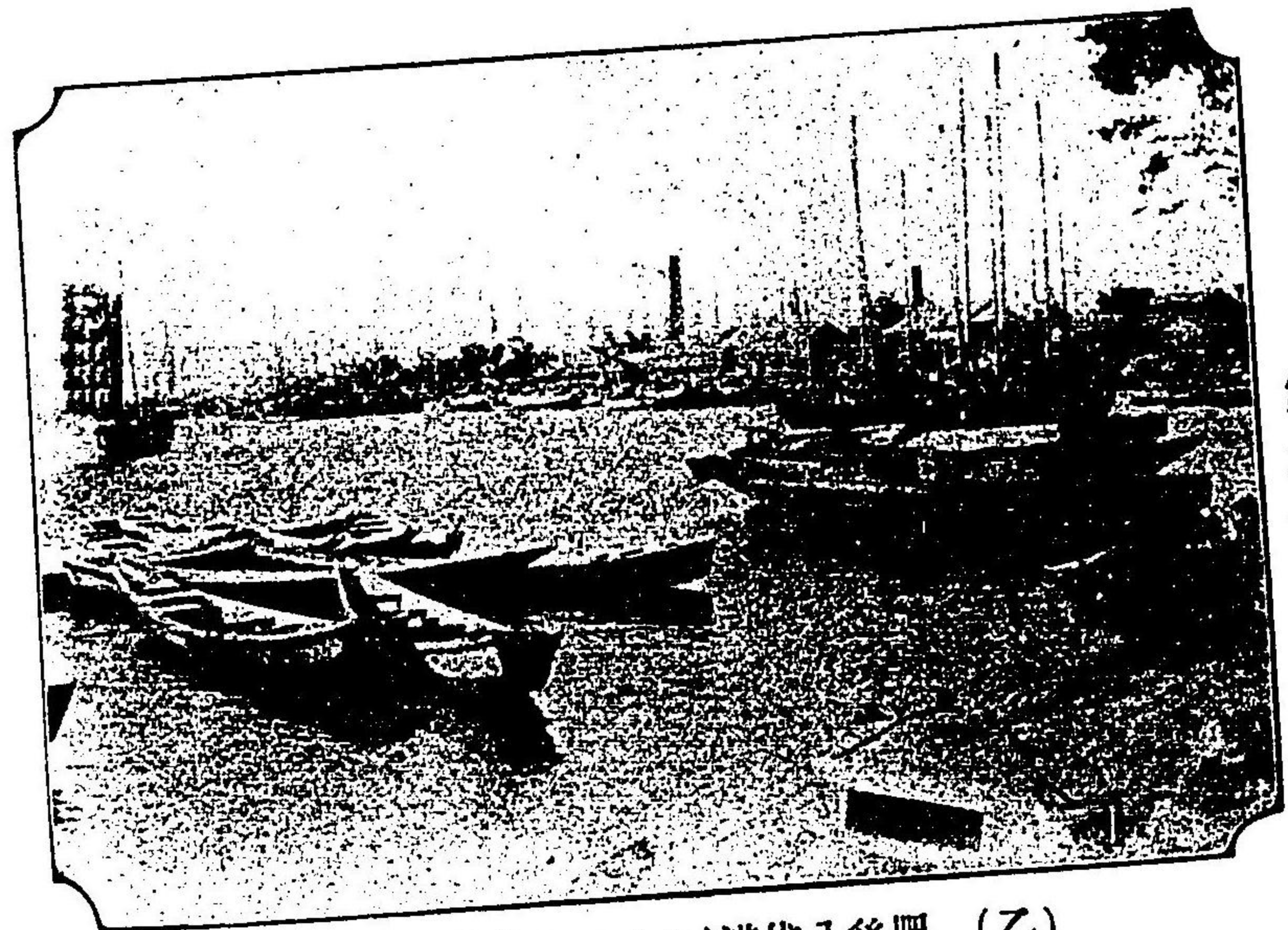
(乙) 肥後日奈久町



町渡本草天後肥 (丙)

第六十五圖

橋川前口川磨球後肥 (甲)



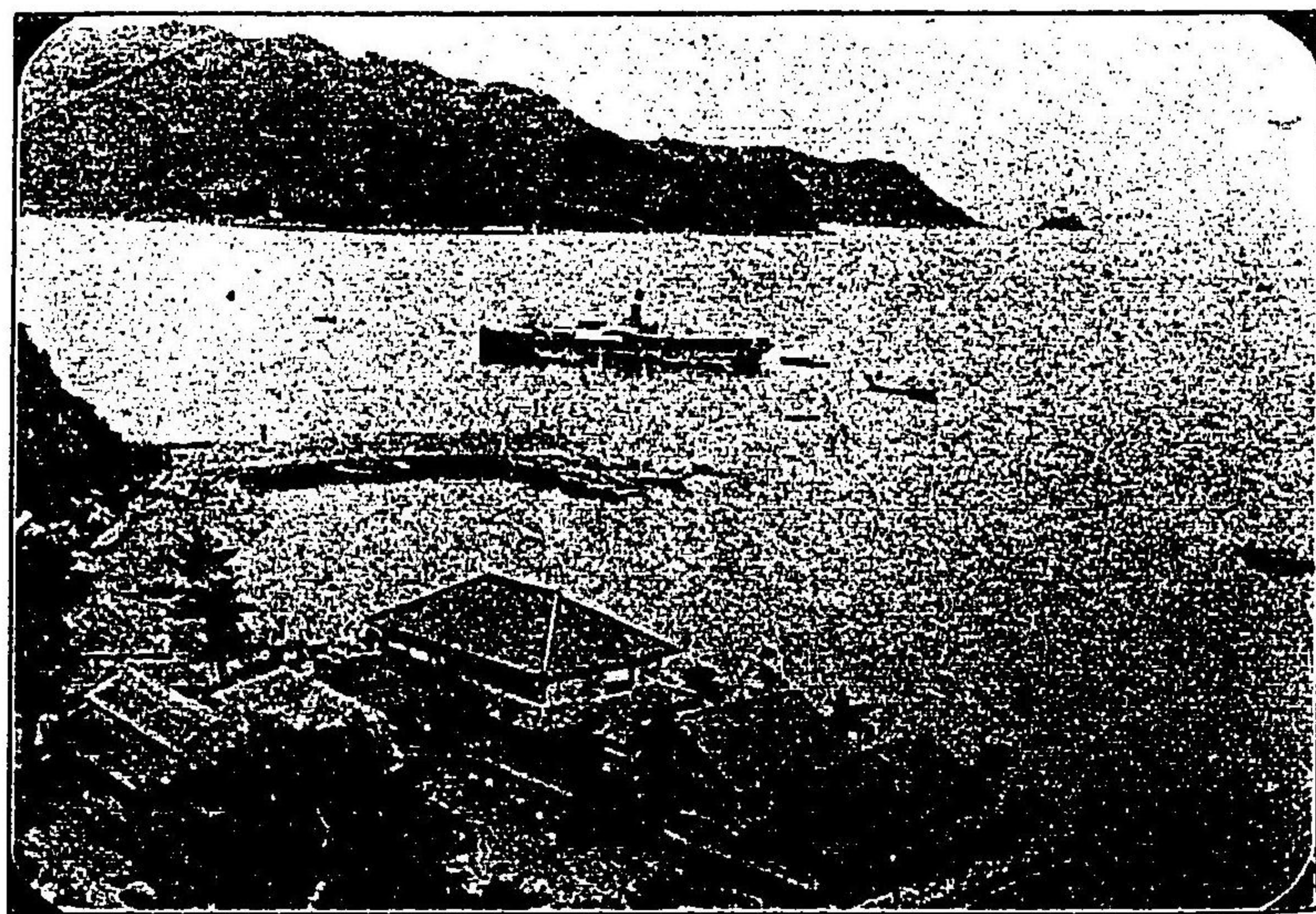
(望遠の社會トメセ) 港代八後肥 (乙)

第六十四圖

港 分 大 後 豐 (甲)

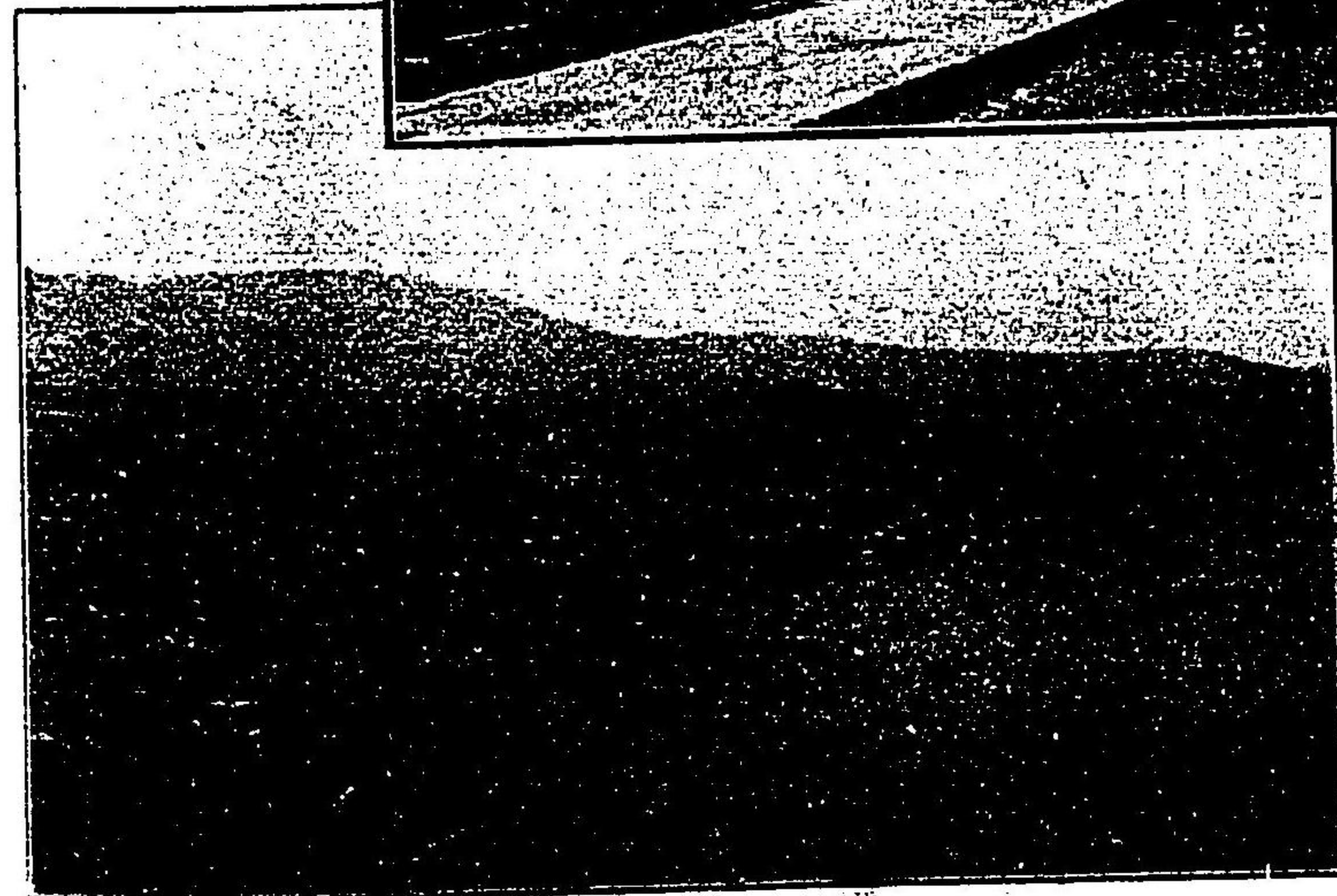


第 六 十 七 圖



港 伯 佐 後 豐 (乙)

宮 神 佐 宇 前 豐 (甲)



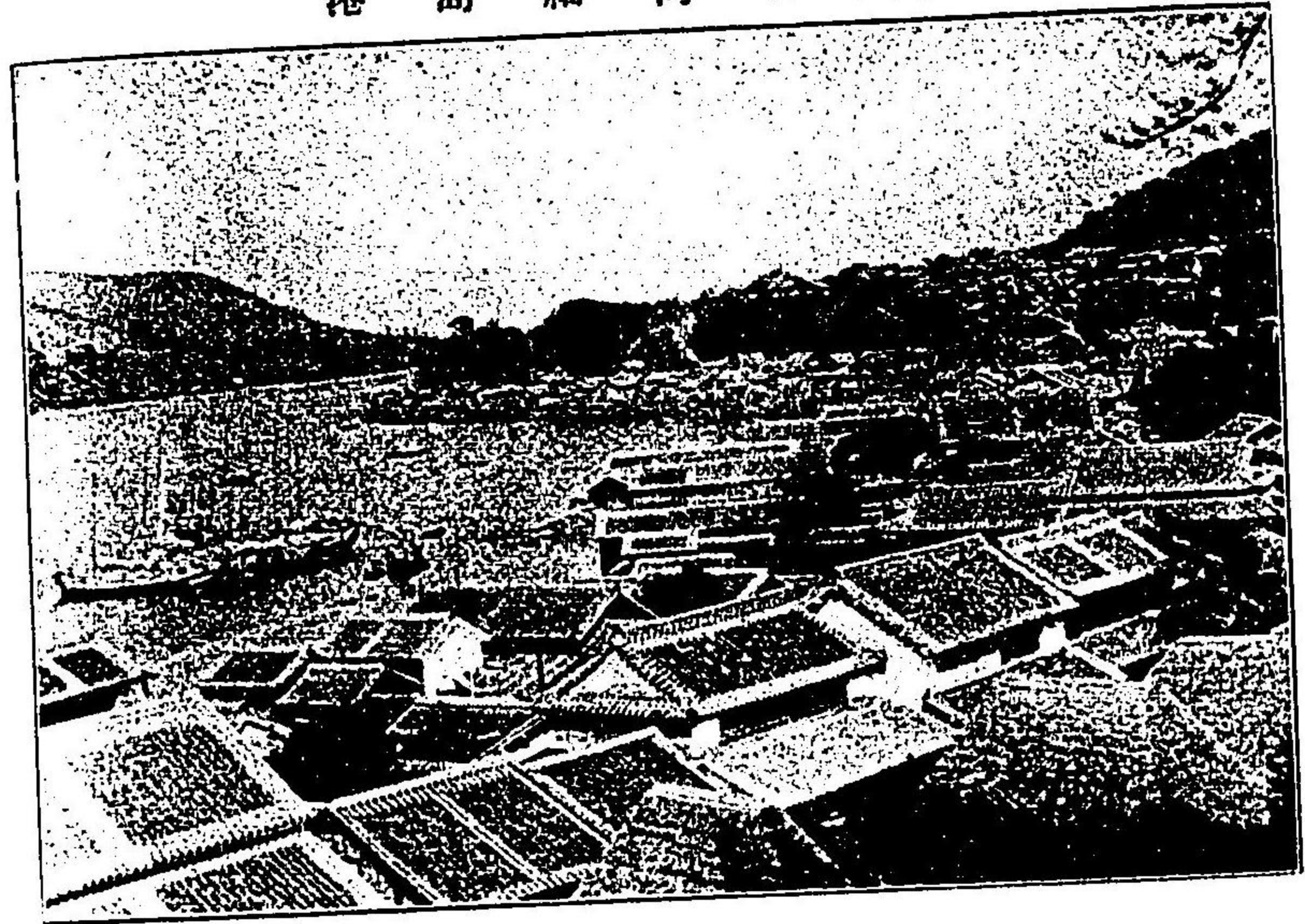
港 府 別 後 豐 (乙)

第 六 十 六 圖

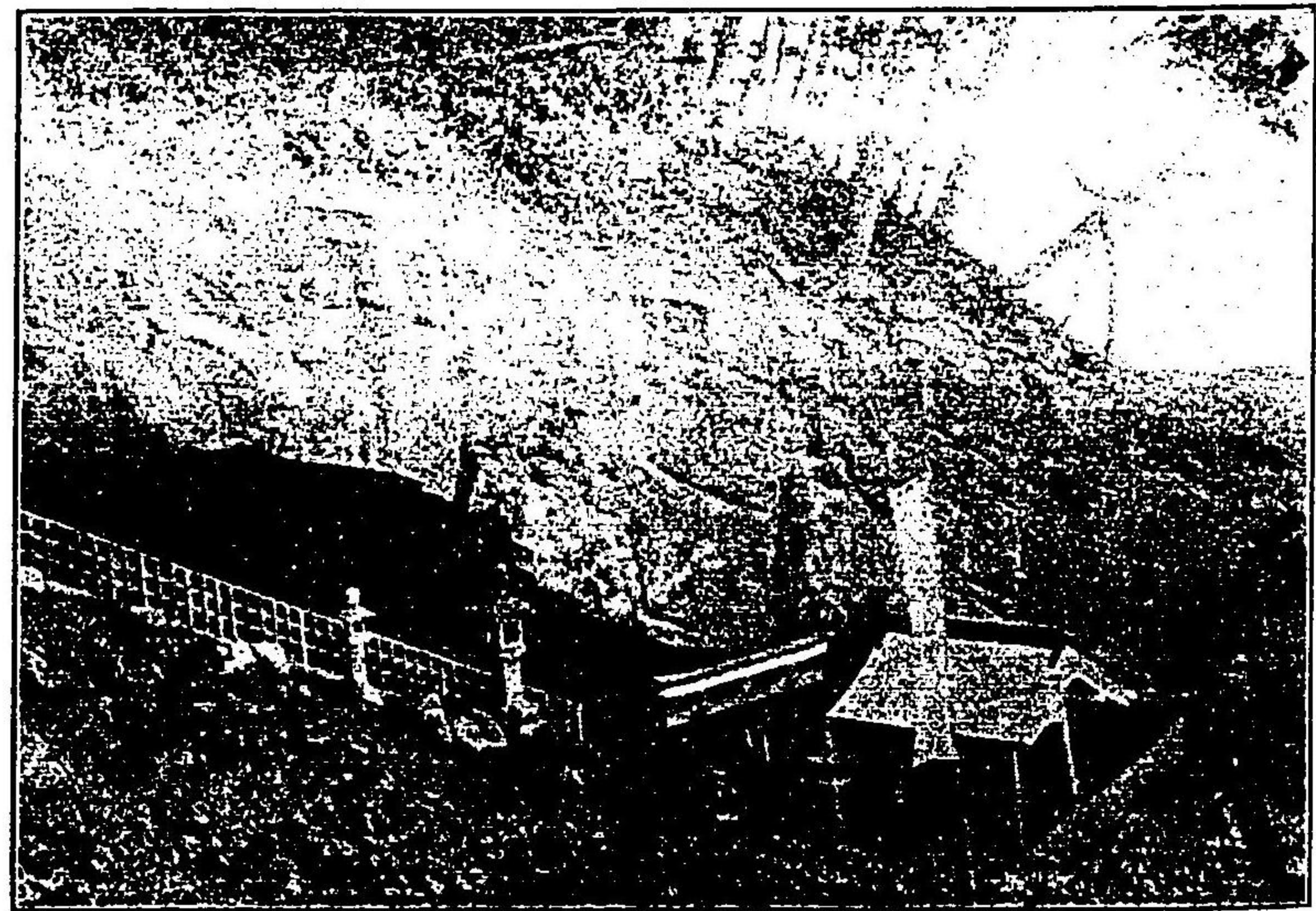
町上城都向日(甲)



港島細向日(甲)



第六十九圖



宮神戸橋向日(乙)

第六十八圖



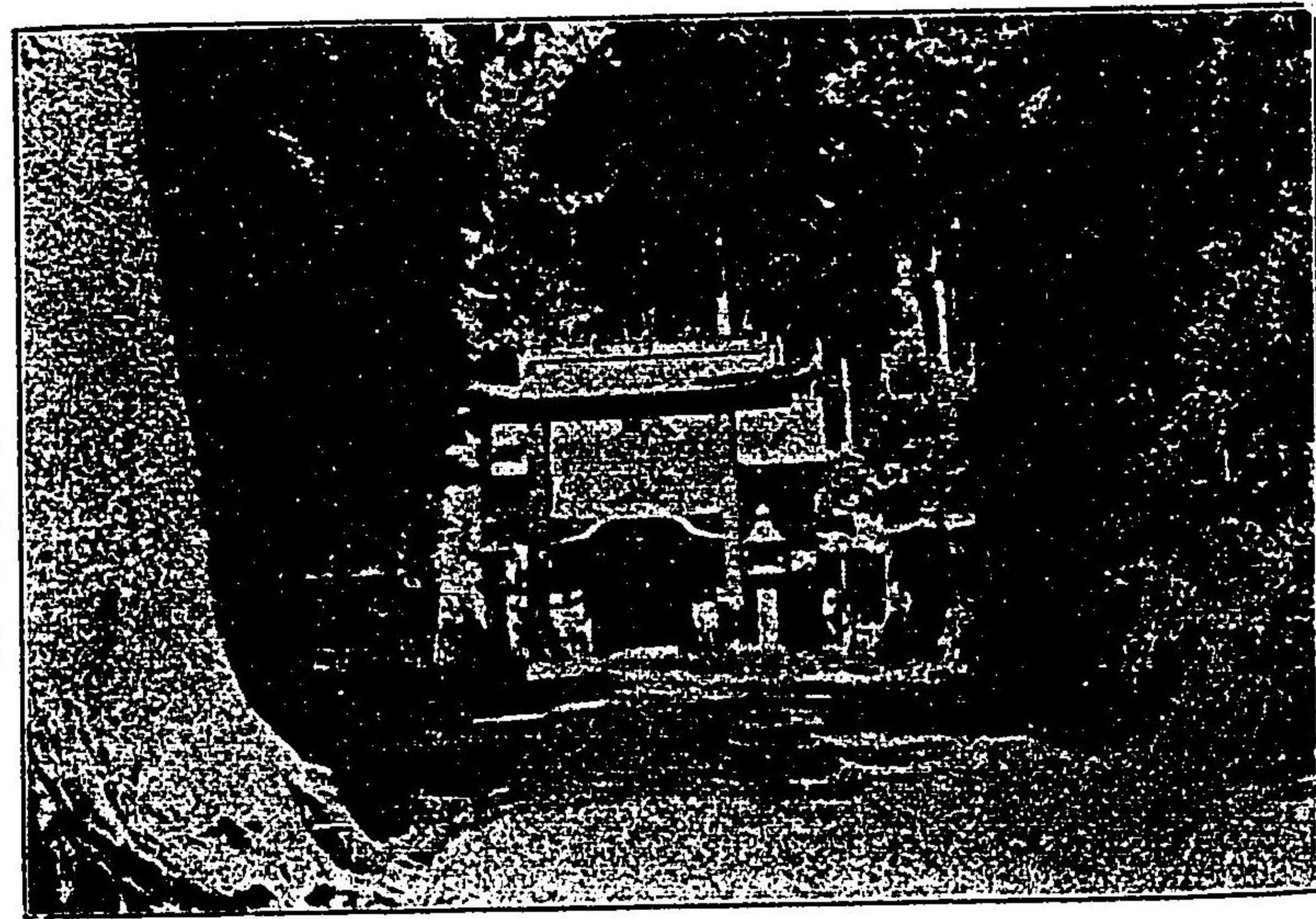
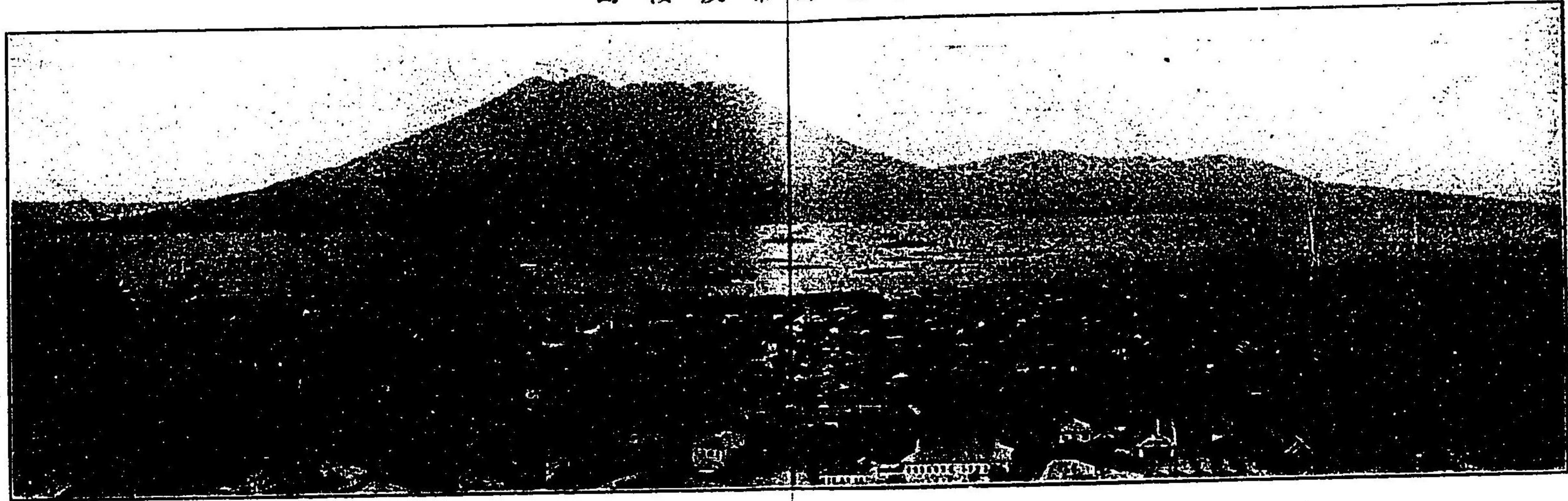
橋橋崎宮向日(乙)

港川山摩薩(甲)

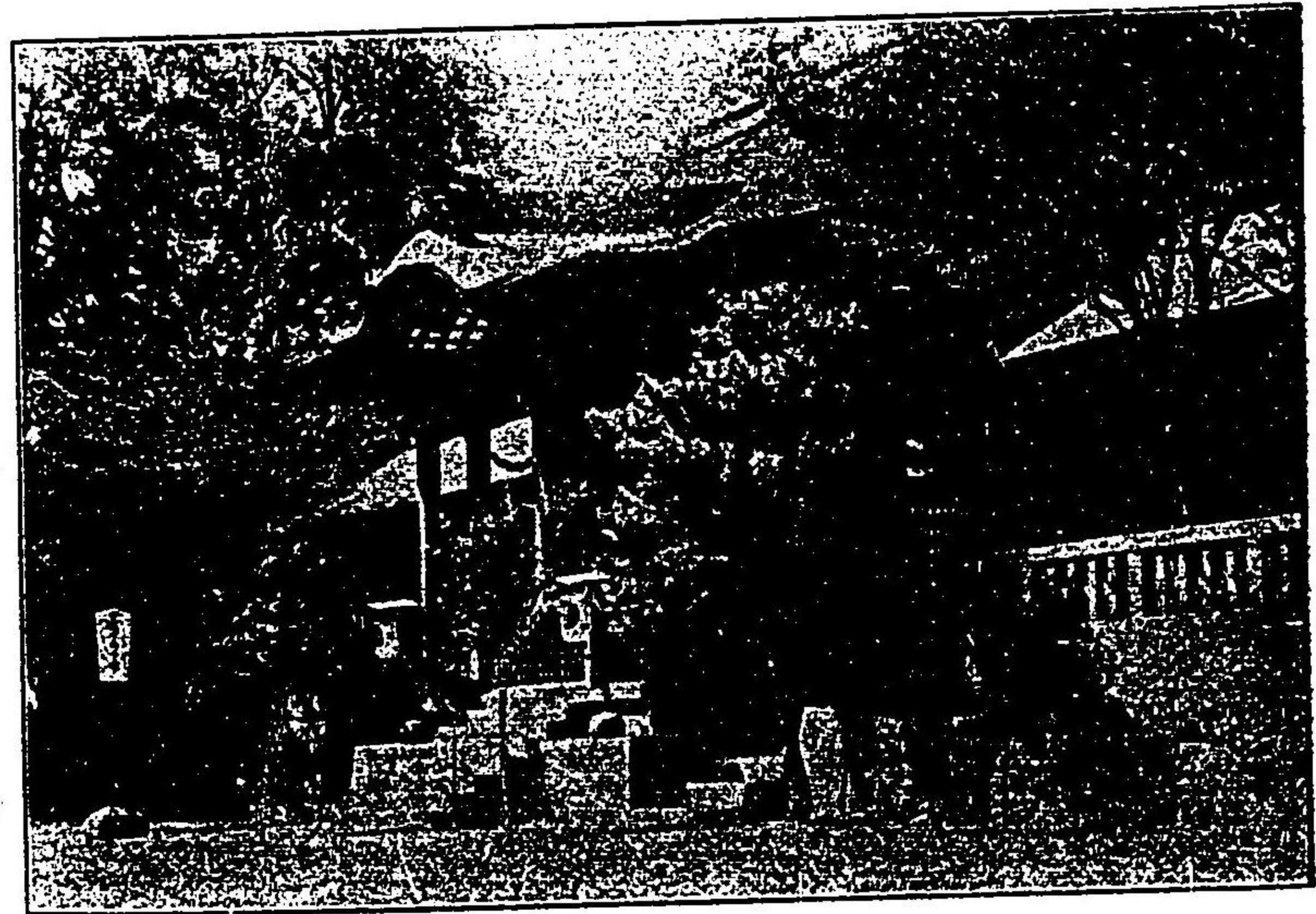


町邊川摩薩(乙)

島櫻及市島兒鹿(甲)



宮神島霧社大幣官隅大 (乙)



(幡八分國)宮神島兒鹿隅大 (丙)

第七十圖

地勢

壹岐國に於ては一方里二四〇〇人、對馬國に於ては一方里七〇〇人の割合なり。

地勢は極めて水平的肢節に富み、港灣半島、相出入し、島嶼基散する蓋し本邦府縣中の第一に位し、陸上亦山岳丘陵起伏し、土地概ね平夷ならずして頗る變化に富む。東南は島原半島遶く海中に突出し、中に山容秀麗なる温泉嶽火山を戴き、北高來郡には多良岳の山彙東南より西北に走り、山容巍々として佐賀縣の界を擁す。有明海は愛津地峽を以て千々石灘と相逼まり、諫早地峽を隔てて大村灣に隣り、西彼杵郡は一大半島をなして東彼杵郡との間に大村灣を抱き、灣は宛然湖水の形を成して深く灣入し、其北方伊ノ浦瀬戸を以て外海と相通せり。縣の南端には野母崎半島長く斗出して、天草灘を擁し、半島の頸部には狭長なる長崎灣灣入して、中に長崎の開港場を有し、北方北松浦半島にある佐世保灣の内軍港佐世保と共に縣下、否九州無雙の良港をなす。島嶼の主要なるものは西に五島列島、西北に平戸群島あり。而して北方には壹岐島對馬島等ありて、對馬島は朝鮮半島に對し炊烟相望む。

産業

縣下の地勢かくの如くなるを以て、従つて巨川大河なく、長さも七八里に過ぎず。東彼杵郡の郡川波佐見川、北松浦郡の佐々川相神浦川志佐川等あり。前者は皆な大村灣に注ぎ、後者は佐世保灣及び外海に入る。

縣下の産業は、農業水産工業鑛業等皆な盛にして、農業に於ては北高來東彼杵の米、麥、南高來郡の甘蔗、北高來東彼杵の茶等最も著名なり。蠶桑は縣下到る處として適せざるの地なく、南北高來の地方殊に盛んなり。西彼杵郡の蜜柑及び枇杷は其の味ひ殊に美にして、歐米人の嘆賞して措かざる所なり。水産は本邦屈指の主産地にして、漁業採藻を業とせるもの實に一萬九百餘戸に及べり。漁獲物の重なるものは平戸有川生月に於ける捕鯨、對馬海岸に於ける鰯、西南海岸に於ける鯉、對馬壹岐五島に於ける烏賊等にして、鰯鮑、鰻、鯛到る處の海岸にこれを見ざるなし。大村灣に於ける眞珠養殖業また頗る著名なり。五島を南に距ること五十哩なる女島男島列島の近海に産する珊瑚は、質固く色澤美麗にして、年收穫額二十一萬餘圓に達すといふ。遠洋漁業製鹽業又頗る盛なり。又工業としては長崎に於ける三菱造船所の造船、

交通

機械製造の大工業最も著るしく、又南北高來地方の製絲、長崎市の籠甲細工等見るべし。窯業には波佐見燒三河内燒等あり。機業は本縣下に於ては甚だ振はず。鑛業は高島及び端島の炭坑あり。就中高島炭坑は本邦炭坑中最も古きを以て著名なり。金鑛には波佐見金山最も著はる。

縣下の交通を記すれば、鐵道は九州鐵道の長崎線佐賀縣西松浦郡より來り、三河内より早岐に達し、此處に佐世保支線を岐ち、本線は南して大村灣に出で、南岬川棚彼杵松原等灣の東縁をめぐれる諸驛を経て大村町に達し、それより大村灣の盡頭に沿ひて、西彼杵郡に入り、灣の南縁をめぐり、大草長與高田を経て、長崎市に達す。其線路の長さ五十八哩を有す。道路は長崎街道(國道)を主要路となし、佐世保街道島原縣道内海縣道外海縣道平戸縣道等あり、長崎街道の通する處は大抵鐵道長崎線の駛走する地區にして、長崎より發する鐵路は始め北方に向ひ道路は東に向ふも、諫早に至りて兩者相合し、此處に佐賀縣大浦に至る東目縣道を分ち、國道は大村灣の東岸を縫ひ、多良岳の西麓を掠めて、彼杵に達し、これより汽車の線路と別れて東北に向ひ、俵坂

峠を越えて佐賀縣の藤津郡に達す。里數十七里二丁餘あり。佐世保街道は彼杵より更に灣岸に沿ひ鐵道と共に早岐に出で、更に鐵道に沿ひて佐世保に達す。島原縣道は島原町を起點とし、島原半島の北岸をめぐり、愛津地峽を経て、千々石灘に沿ひて南し、船津町より小濱に達し、半島の南端口ノ津に達し、更に半島の東縁をめぐりて島原町に至る。即ち島原半島を一周するの道路にして、二十里二十四丁餘を有し、別に此街道中愛津より西方諫早に通じ國道を連絡するものあり。内海縣道は長崎より浦郷に至る時津縣道の更に大村灣の西縁に沿ひて延長せるものにして、西彼杵の半島の北端面高村に至る。長崎より里程十三里十町餘あり。外海縣道はこれと相並行せる外海に面せる道路にして面高村より長崎附近浦上村まで十七里十六町を有す。平戸縣道は佐世保市を起點とし、中里佐々江迎下寺小手田を経て、平戸海峽を渡りて平戸に達するものにして、里程十里二十六町を有す。北松浦郡の北海岸を小手田より今福に達し、之れより佐賀縣の伊萬里町に達するの路を今福縣道と稱し、五里十町あり。平戸島の交通路は平戸より島の南端志々伎に達するもの

を主要路と爲し、志々伎縣道と稱し、四里十四町を有す。長崎市より南方野母岬頭に至るものは、野母縣道と稱し、五里餘を隔つ。其の他、對馬に於ては竹敷嚴原間、壹岐に於ては勝本郷の浦間の縣道あり。

本縣の如く海岸線の發達し港灣に富める所にありては、水運は最も重要な交通機關をなし、沿海航路の汽船は論なく外國航路の集まるもの亦少なしとせず。殊に此等の港灣は昔より疾く開けて平戸、長崎の如く夙に外國貿易に従事せるものあり。就中長崎は久しく本邦唯一の開港場をなし、支那和蘭等の商船により齎されたる東西の貨物を輸入し、從て又自から西歐文明侵入の門戸として維新の時に及べり。之より長崎は更に内外航路の集中點となり、上海線、濠州線、臺灣線等の外に太平洋航路の汽船亦皆爰に寄港し、沿海航路にありては、長崎より鹿兒島に直航するもの、牛深阿久根を経て串木野に至るもの、嚴原勝本に至るもの、三角港に至るもの、鯛の浦福江等を経て富江港に至る五島線、島原口ノ津小濱を経て茂木に至るもの、沿岸各地に寄港して平戸に至るもの等あり。其他別に平戸より伊萬里に至るもの島原より三

角又は長洲に至るもの、殿原より佐須奈に至るもの等あり。航路縦横に通じ、水運の交通頗る便なり。

彼杵

吾人先づ長崎線の汽車に由りて、東北より此の縣下に入るとせんに、佐賀縣有田驛より丘陵相連れる間を過ぎて、先づ三河内驛に達し、次に早岐驛に至れば、前に狹長にして、宛然山間の河水を見るがごとき早岐の瀬戸を認むべし。この瀬戸の對岸は針尾島にして、西南伊浦瀬戸と此の瀬戸とを以て全く本陸より分かれたり。早岐驛よりは佐世保市に至る支線北に岐れ、其間僅か四哩を隔つるに過ぎず。汽車は早岐瀬戸に添ひて南し、南風崎驛に達し、これより大村灣の東縁を縫ひて南す。岸に大島横島瀬戸島等あり。大崎の小半島は中央に大崎山を聳立せしむ。崎針尾島は本郡最大の島嶼にして、その西方杵郡伊の浦横瀬と相界する處に伊之浦瀬戸あり。海口頗る狭く、海水の吞吐容易ならず、干満の時は内外常に數尺の落差を生じ、急湍宛ら瀑の如く壯觀を極む。されば汽船は纔かに潮時を候して過ぐと云ふ。灣の東縁に川棚彼杵の二邑相連り、共に停車場を置く。彼杵は長崎街道の岐るゝ所にして、

大村町

古來交通の衝に當れるを以て、人烟頗る稠密なり。これより大村町に至る間は湖水に似たる大村灣の風光宛として畫くが如く、東には多良岳の諸峯長く相連り、旅客をして殆ど身の旅中にあるを忘れしむ。

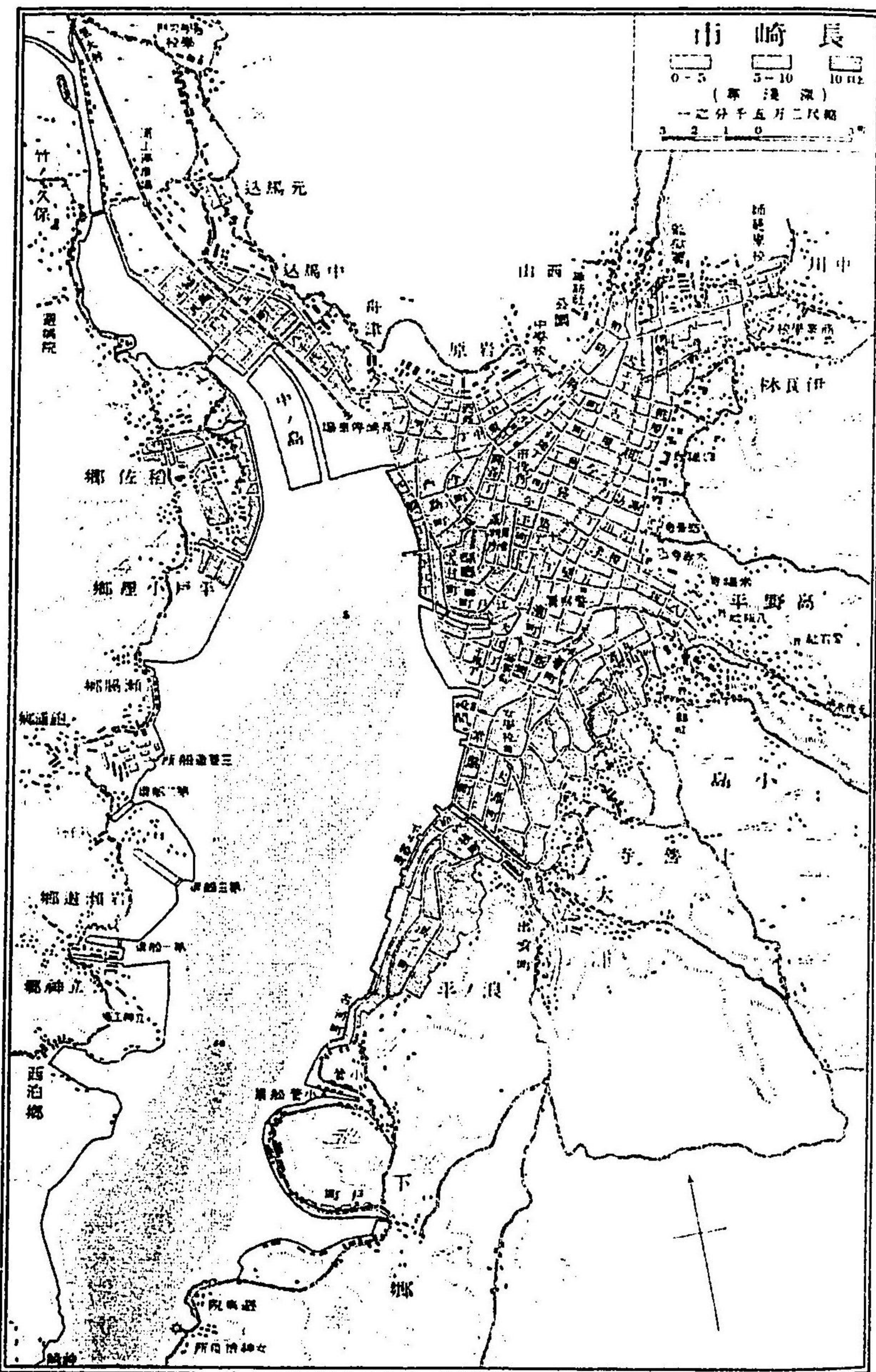
大村町(第六十圖乙)は東彼杵郡の南部に位し、鯛浦に向へる郡中唯一の名邑なり。市坊の數二十、東西三町、南北十一町人口二千五百を有し、長崎市を距ること九里十町餘なり。地に郡役所、縣立大村中學玖島學館等あり。放虎原ホコヒには歩兵第四十六聯隊の兵營あり。海岸には鯛の浦沿岸諸邑に往來する汽船發着所ありて、汽笛の音常に絶えず。町には舊大村侯の居城址を存す。慶長四年大村丹後守嘉前の築くところにして、地勢大村灣に突出し、樹林鬱蒼として晝猶暗きの趣あり。されど大村神社のある處、地高燥にして遠く開け、灣内の風光を一陣の下に集むることを得べし。馬場には櫻樹數百株を駢植し、花時は遊客踵至す。

松原鑛泉は松原停車場の約六町の海岸にあり。含鐵炭酸泉にして、旅舎の設あり。此地より東に一里郡山の麓に山田港あり。龍頭泉は千綿村にあり。

諫早町

四十八湍の名世に高し。孰れも多良岳噴出の熔岩崖に懸る。大村驛の次驛は諫早驛にして、地は北高來郡に屬す。諫早町は有明海と大村灣との間に位せる地頸部に位し、交通の要地を占む。市坊の數十六、東西八町、南北七町、人口三千四百を有し、郡役所、監獄署、縣立農學校等あり。本明川は市街の北部を東西に流れ、眼鏡橋、新橋の二橋を架せり。眼鏡橋は橋下兩堰月形をなし、結構の美なるを以て聞ゆ。町に天祐寺、安祥寺、高城神社等あり。多良岳は標高一〇七五米を有する休火山にして、地形三章、參照山上に多良岳神社あり。諫早町の北方に位し、町より登路約四里餘、陰曆四月八日、九月十五日の祭日には遠近より參詣するもの夥しく、登山の道路雜沓を極むと云ふ。町の南一里半に有喜村あり。近く島原半島の温泉嶽を仰ぎ、遙かに北高來郡の國崎と相對し、水天髯嶽の間に天草の群島を望み、風景絶佳なり。江の浦村の海中には牛洗島、前島、收島等あり。

汽車は諫早より喜々津驛を經、大草、長與、道尾を經て長崎市に達し、舊長崎街道は古賀、矢上の諸村を經、日見峠の險に沿ひて同じく長崎市に入る。長崎



長崎市

驛附近には、時津の鹽湯あり。來浴者多し。道の尾驛には道の尾公園あり。附近は蜜柑畑に富み、秋晴の美多く他に求むべからず。舊長崎街道上の矢上村よりは瀧の觀音に至るべし。寺は長瀬山觀音寺と號し、丘に架し谷に凭りて、境頗る幽邃なり。寺背瀑あり、甚だ高からずといへども、水聲鞆鞆としておのづから塵俗を忘る。蓋し長崎市附近勝景の一なり。

長崎市(第六圖)は縣の中部海岸に位し、西南は長崎灣に臨み、東南北の三面は全く丘陵に圍まる。長崎街道は東より、汽車の線路は北より、茂木街道は東南より野母街道は西南より相集りて市に集中す。市坊の數七十八、東西二十二町、南北二十五町、人口十七萬六千を有し、本地方第一の良港にして、且第一の都會たり。此地は往昔より開港場として早く開けたるところ、徳川幕府時代に於ても、西洋及び支那の人常に來港し、早くよりかの地の文明を傳へ來りたるを以て、一種特色に富める光景を呈し、港の繁華殷賑は殆ど本邦中他に見るを得ざるのさまを呈したりき。抑も本邦と支那と貿易を開きしは、慶長年間にして、長崎は當時唯一の貿易港たりしなり。此時清國は恰も明末

を受け、海禁の制ありしが爲め、本邦に来る船舶甚だ多からざりしが、貞享年間清國海禁の制を解きしより、渡來の船次第に増加し、我は銅を以て重なる貿易品とし、彼は主として藥種織物等を輸入したりしが、元祿の頃に至りて我産物の主たる採銅の數著るしく減じたるを以て、當時の經濟家は之に代はるべき輸出物産を求め、海産物を以て代り物となすの必要を認め、元祿十年長崎の人倭物諸色を以て代物替と稱し、銅に代へて貿易の料となさんことを乞ひ、幕府之を許したりしかば、大に船載の貨物を増加したり。倭物とは海參乾鮑の稱なりしが、明和中鱈鱈を加へて倭物三品と稱し、諸色とは昆布、石花菜、鶏冠菜其他のものなり。而して幕府は長崎市民に倭物一手請負方を命じ、此等は當時貿易の要品となれり。明治維新以後は、横濱神戸の諸港開港せられたるを以て、在來の門戶的繁華と活躍とは、次第に各地に奪はれ、今日の貿易は最近四十一年の統計によれば、本邦開港場中の第五位に位置せるも、其輸出入合計は一千八百三十五萬圓にして、本邦貿易總額の百分の二なるのみ。之を第四位の門司に比し、正に其半額に當れるに過ぎず。之を

横濱神戸等に比すれば、十九分の一乃至十五分の一に過ぎず。されど上海航路、濠洲航路、臺灣航路、印度洋航路、太平洋航路に屬する内外汽船皆此地に寄港するが故に船舶の出入頻繁なることは本邦港灣中屈指のものにして、出入各一年約一千二百隻に及び、其噸數出入各二百七十萬噸に達し、之を横濱に比し、噸數に於て劣るも隻數に於ては之と伯仲たり。之に加ふるに、三菱造船所にある船渠は日本に於ける私立造船所の第一に位し、遠來の船舶の損害を受けたるもの、皆な一度ことに修繕を加ふるを例と爲すを以て、従つて、其繁華は層一層を加ふるに至れり。旅客は汽車の市に近づくに従ひて、丘陵の間より次第に展開せられたる瓦葺海波の上に帆檣の林立し船舶の碇泊せるを見るべく、市の周圍をめぐれる丘陵斜阪に凭りて高樓大厦の並び立てるを認むるなるべし。舟津郷と市街との中間に位せる停車場は、元船町にある大波止の棧橋に相對して海陸の貨客を送迎者を見るべく、灣外他の浦の三菱造船所に錚々たる機關の響は、港内に來往する幾多の汽船の汽笛响然たると相對して、其處に無限の活躍の展開せられたるを目にすべし。殊に停車場前

より樺島町を過ぎ大波止に至れば、其附近には港内に碇泊せる汽船と並に、對岸稻佐他の浦立神水の浦平戸小屋等に往來する幾多の汽艇舢板(端舟)の蟬集するを看るべく、出島町附近は昔の出島の地にして、和蘭人の商館のありし處なり。入江町千馬町出帥橋附近は港灣改築事業として新に埋築したるところなり。大波止に近く少しく坂路を上り、宏壯なる洋館の聳ゆるもの之を長崎縣廳とす。其北、大村町に大神宮及商業會議所あり。區裁判所控訴院地方裁判所はこれと一路を隔て、相接す。本下町より築町に至れば、中島川の溝渠の南流するありて鐵橋を架す。明治二年の架設にして、稱して本邦鐵橋の嚆矢と云ふ。橋を渡れば東濱町にして、長崎警察署あり。丸山には本邦砲術の祖たる高島秋帆の居址あり。今は寶亭といふ。此附近は市中最も繁華の處にして、老舗巨商多く莖を並べ、船大工町本籠町は雜貨店多く其商品は主として外國人の嗜好に投せるものなり。大徳寺佐古招魂社共にこの附近にあり。舊唐館所在地にして、今尙支那人の居住地たる館内十善寺は船大工町の南にあり。附近野菜獸肉を鬻ぐもの多し。これより南して梅ヶ崎町に至れば、横

濱正金銀行支店、日本郵船會社支店あり。出帥橋の橋角に接して長崎税關あり。これより以南海岸を大浦と云ひ、主として外國人の住居する處となす。背後の丘腹には各國領事館、天主堂等あり。大浦より更に南すれば小曾根町浪の平町古河町を経て小菅船渠あり。

再び梅ヶ崎橋に戻り、新地町を過ぎ、濱町より今鍛冶屋に至れば、長崎電燈會社あり。八坂町に八阪神社清水觀音あり。眺望甚だ佳なり。崇福寺は黃蘗宗にして、結構宏壯なり。寺町は片側町にして、右側の山麓は悉く名利を以て充さる。大音寺最も著はる。寺町と並行せる麴屋町を北に進むこと五六町、一橋あり。高麗橋といふ。橋を渡れば伊勢神社あり。伊良林町に市立商業學校あり。新大工町に監獄署あり。右に市の一名勝地彦山聳ゆ。

市の北方岩原郷と稱する地は、丘陵相連亘し、舟藏山坊主山立山西山等相連るの地なり。丘陵の半腹以下は皆な人屋相架し、遞下して港頭に至る。東西上町東西中町小川町舟津町惠比須町の目あり。西中町に長崎市役所あり。東中町の街路を登れば、縣立長崎中學校あり。古の立山役所の跡として著名

なり。校門を過ぎ、淋しき片側町に入り、橋を渡れば立山の金刀毘羅祠あり。市人が舊三月を期として有名なる風揚げを行ふところにして、長崎灣の眺望に富めり。その一角に諏訪山公園あり。緑樹蒼鬱、中に市の總鎮守諏訪神社を鎮す。國幣小社にして、社前青銅の大華表掲ぐるに鎮西大社の大額を以てす。社殿宏壯にして、境内清洒なり。此社の祭典は古來長崎名物の一として數へられたるもの、今猶壯觀を極むといふ。公園の中本邦活字の祖本木昌造の記念像並に有名なる蘭人ケムプルの碑等見るべきものあり。又公園に接し物産陳列所あり。縣下の物産を陳列し、兼て縣外の産を集む。西山に、松森神社あり。附近に高等女學校、長崎高等商業學校あり。水道水源貯水池の一つはこれより尙北にあり。これより馬町に出て出來大工町を経て、材木町に青物市場あり。これより築町、本下町を経て大波止に達す。市の西北方浦上驛の附近には長崎醫學專門學校あり

稲佐は長崎の本市街の西方にあり。一河渠を隔て、稲佐橋を以てこれを通す。ロシア東洋艦隊は曾て久しく長崎を以て其避寒地となし、稲佐を以て其

稲佐

優遊の地となせしを以て、此地の土民とロシア人との關係極めて深きものありしが、三十七八年戦役後は艦隊復た來らず、今は其の趣全く一變せりと云ふ。地に悟真寺と稱する巨刹あり。露人の墳墓多し。寺背に稲佐嶽聳立す。半腹に稲佐公園あり。眺望甚だ佳なり。水の浦に、長崎要塞司令部あり。これより南は飽の浦にして、三菱造船所此所にあり。機械工場並に第二船渠此處にあり。工場は之より立神地方に亘り、巨大なる船渠を有し、規模宏壯、東洋第一と稱せらる。(工業参照)

市の物産には陶器甕甲細工長崎針縫箔唐木細工等あり。

長崎灣外に散在する島嶼甚だ多し。その中高島端島は僅かに掌大の孤島なれども、良好なる石炭層は海底地下深く秘せられ、之が採掘の設備甚だ完全にして、外海より來る旅客は、長崎灣に入るに先だちて、島上林立せる煙筒より吐ける夥しき煤烟の海上に靡くを見るべし。(鑛業の部参照)其他鼠島神の島四郎ヶ島あり。四郎ヶ島には高島秋帆が幕府時代に砲臺を築きし跡を存す。伊王島は灣口島嶼中最も面積の大なるものにして、その西角に燈臺あり。長

茂木港

崎灣の門戸を照し、入港の船舶に便にす。

長崎市以南は野母崎半島長く南方に突出し、其の尖端に野母崎あり。道路は半島の東岸及び西岸に沿ひて走り、東岸には長崎港の南一里半に茂木港あり。西岸には同じく二里餘に深堀町あり。茂木港は此附近の良港を成し、灣内屈曲して水深く、よく北風及び西風を支障することを得。天草灘、千々石灘、有明海等沿海を航行する小汽船の常に寄港する所なり。旅店、回漕店多く又風景の勝あり。海岸には地質學者間に有名なる第三紀植物化石産地あり。深堀村は人口四千五百を有し、この半島中の一名邑たり。これより道路は透蛇として海濱を繞ひ、遂に國の南端野母岬に達す。岬頭を御崎と稱し、有名なる脇之岬觀音あり。寺は圓通山觀音寺と稱し、海岸の大觀と風光の明媚なるを以て世に知らる。

深堀村

長崎市より北方一帯の地は、東、大村灣に臨み、西は東支那海に瀕し、中央部には丘陵連亘す。時津より面高に至る内海道と、浦上より面高に至る外海路と、共に此地方の主要交通路を爲す。而して内海路の村松より外海路の

雪浦に達する一路は、この内外地方を連絡する道路として重要なり。灣内には小島嶼多く、波濤靜穩、碧灣を隔て、多良岳の翠微を望み、到る處風光の美を以て稱せらる。灣内水産に富み、沿道の市邑多くは漁業を業とせり。外海路は大洋に面するを以て、内海路に比して、眺曠甚だ雄大、徒崖の間に處處に散在せる村邑は、皆な漁獲を業とし、魚腥の氣到る處に充つ。三重本郷、瀬戸等最も繁華なる漁村を成せり。ことに瀬戸の海上には、福島、焼島、松島等の島嶼散點し、港内は水深く、よく西風を支障し、此沿岸に於ける屈指の好碇泊地たり。地に又炭坑あり。

伊之浦瀬戸は内海路の河内より至るべし。大村灣の湖水を吞吐する水道たること前に述べたるが如く、狹隘河流の如き水道は、其の兩岸近く相迫り、中に辨天島あり。疎松亂生して、頗る幽趣に富む。地に市杵神社あり。毎年大潮に際し、潮流急湍をなすの時は、來て其壯觀を見るもの少なからず。

縣の東南有明海中に南高來郡の一郡突出して、島原半島を成し、愛津地峽を以て纒かに本陸と連る。地峽の幅僅かに三十町のみ。有名なる火山温泉岳

島原町

は半島の中央に蟠踞し、其秀容は到る處よりこれを仰ぐを得べし。温泉岳の裾は長く四方に引き、其餘脈陵夷して海中に盡く。これを以て大河の其間を灌溉するものなく、平坦なる地積また多からず。されば市邑海岸に沿ひて散在し、東岸に主邑島原あり。南端に口ノ津の開港場あり。西岸に小濱あり。道路は長崎より國道に沿ひて矢上に至り、東に分かれ有喜、千々岩を経て小濱に至るものと、北高來郡諫早町より有明海に添ひ、三室神代多比良を経て島原町に至るものとの二あり。

島原町(第六十圖)は東西一里、南北一里九町、市坊の數十、人口五千三百餘を有し、南高來郡役所及び縣立島原中學校の所在地なり。町は島原町と島原港との二區劃に分れ、町には島原城址あり。今猶ほ四圍に濠渠を存す。港は町の南に連り、港口には温泉岳眉山の爆裂に歸因する岩塊より成れる大小の島嶼星散羅列し、頗る好風光を成す。港内水深く碇泊に便なるを以て、帆船林立し、汽笛の音常に絶えず。定期船は長崎口ノ津茂木に達するものと、熊本縣長洲三角に達するものとあり。港の埠頭に燈臺あり。白色の射光海上六

口ノ津港

里に達す。市街の東に權現山あり。小丘を成し、山頭に靈丘神社あり。境内綠樹蒼鬱として、遙かに筑後肥後の山影を望み、海上の眺望座ろに遊人をして去るに忍ばざらしむ。今これを島原公園と稱す。

島原町より南し、温泉ヶ岳の東麓を掠め、深江布津棠崎等を経て、半島の南角口ノ津港に達する間は、寛永四年天草四郎が幕府と戦ひてこれを惱したる處、追討使板倉重昌の戦死の址は南有馬村にあり。此海岸一帯は平滑なる沙濱にして、前に天草群島を望み、後に温泉岳を顧み、穰々たる水田處々に相開け、頗る風光に富めり。南有馬村に原城址あり。有馬氏の居城にして、慶長十七年、城主晴信耶蘇教を奉せしが爲め家絶え、後元和元年松平重政此城に主たり。後、森岳城を築くに及び、此城は全く廢墟となれり。これより南すること三里にして、瀬詰岬の奥に、口ノ津港(第六十圖甲)あり。半島南部の良港にして、海水深く大小の船舶は常に港内に輻湊し、其出入去來實に本郡に冠たり。明治十一年の交より石炭集散の要地として知られ、二十二年特別輸出港に指定せられ、専ら三池炭を輸出し、其後更に開港場となりてより爾來

小濱

市況頗る殷賑を呈するに至れり。市街は概むね海岸に沿ひ、人口一萬一千餘を有す。港を距る十町餘の絶端に燈臺あり。能く海上八溼を照らす。長崎茂木天草小濱島原長洲三角への連絡汽船あり。又た、上海香港牛莊新嘉坡等東洋の各港に向け、石炭を輸出するが爲めに、巨船常に来り、港口はつねに繁盛を極めしが、近時三池港開港以後は、やうやく繁榮を奪はれたるの觀あり。半島の西岸には船津小濱加津佐等の名邑あり。道路は東岸と同じく、海汀に沿うて、愛津地峽より南端口ノ津港に達す。船津は愛津を東に距る一里餘、船舶來り泊し、人烟稠密なり。小濱はその南方一里半に位し、地に温泉場あり。泉質鹽類泉にして、所々に湧出し、旅舎十數軒丘に凭り海に臨み、頗る游浴に適せり。長崎茂木より汽船の便あり。温泉は温泉岳の西腹中央に位し、小濱より登攀すれば、五時間にして達すべし。縣下屈指の避暑地にして、清國諸港にある歐米人の暑を此地に避くるもの常に群を成す。蓋し山高く氣清く、温泉湧出して、萬頃の海波を眼下に望むの勝あるを以てなるべし。小濱よりの登路を記すれば、湯の岬より鬚串と稱する村落まで坂路十五町、これ

温泉

より駕立場まで十六町、駕立場より札の原に至る二十六町。札の原より温泉まで十八町あり。札の原より温泉に至る間は眺望廣濶たる一大高原にして、往昔僧房三百を置きしところ、處々に水田及び堂址を存す。温泉には巨館相連り、宛として別天地に至れるが如し。地に筑紫國魂神社あり。

温泉嶽は海拔一〇六二米、著名なる複火山にして、最高點は中央火口丘普賢岳にあり。國見岳等之を圍繞す。島原町、小濱より皆登攀すべし。(地形參照)

佐世保市

更に鐵道長崎線の通する地方に戻り、早岐驛より西北に岐れたる佐世保支線を趁へば、汽車は丘陵地の間隙隧道の裏を走りて、頃刻にして、佐世保市に達すべし。佐世保市は佐世保灣の北岸に位し、軍港のある所、實に西海の重鎮たり。明治二十七年、三十七、八年兩度の戦役に於て、我が艦隊は先づ纜を此港に解き、其光榮ある征途に上りたりき。二十年以前にありては、一箇蕭條たる魚蟹の村たりしもの、誰か想はん其の今日の如き壯觀を呈せんとは。人口七萬八千餘を有し、佐世保川北より西に市中を貫流し、其の河口に佐世

保鎮守府あり。停車場は沙見町にありて、一條の道路は直ちに旅客を其の繁華なる市街に導くものあり。本島町に本願寺あり。其の後に佐世保要塞司令部あり。名切川に架したる橋を渡れば、榮町常盤町松浦町の一區は市中最も繁盛なる商業市街を成し、相生町高砂町は其の北に連りて、その繁華またこれに次ぐ。佐世保橋は佐世保川に架したる鐵橋にして、前に巨大なる鎮守府の洋館の巍然として港を壓し恰も市の一中心を成せるの觀を呈し、橋を渡れば郵便局あり、服部中佐の銅像あり、水交社あり、幾くもなくして鎮守府の正門に達すべく、橋を渡らずして北すれば、宇地町に宇地嶽神社あり。高砂町の北に市役所あり。川の西に區裁判所稅務署等あり。萬徳町に佐世保要塞砲兵聯隊の兵舎あり。衛戍病院はこれに隣る。

軍港は設備盡く整ひ艦船兵器の製造修理、到らざるなく、壯大なる工場軒を列ね、深碧なる海波の上には、山のごとき巨艦常に來り泊し、水雷艇小蒸汽の其間を縫ひて駛走せる、其壯觀實に人意を壯ならしむるものあり。市より北方に向へば、平戸街道は北松浦郡の丘陵の間を縫ひて委蛇屈曲し

て通す。中里佐々の諸邑あり。佐々は佐々浦に面し、北に佐々川を帶び、人烟稍稠密なり。これより江迎に至る間に小分水嶺あり。佐々川は南流し、江迎川は北に向つて流る。江迎川の水源に近く、潜龍瀑あり。江迎は此地方に於ける一名邑にして、全く魚蟹の村を成す。日ノ浦は平戸海峡を隔て、平戸島の首邑平戸町と對す。郡の北部、海岸地方を東西に縫へる道路は、今福縣道にして、其中に御厨志佐里今福の三邑あり。共に地方の小中心を成す。

平戸列島は縣の北部に位し、平戸海峡を以て北松浦郡の本土と相接し、平戸本島生月島大島渡島上下海瀬島より成る。平戸本島は面積東西二里半、南北八里を有する大島にして、三百乃至五百米の山嶽東南より西北に亘りて島中を縫斷し、一路其間を縫ひて、北部の平戸町より南部の志々岐に至る。平戸町は有名なる港市にして、本島の北部に位し、平戸海峡最隘處に臨む。人口三千二百を算し、北松浦郡中第一の市街を成す。地は長崎の未だ開けざりし以前にありて最古の外國互市場たりし所、その狹長なる海峡を過ぐるものは、潮流急駛せる峽門の北に當りて、高陵の上、長松の海風に亂立する間に、

平戸町

數層の古城閣の僅かに一兩基を存するを見るべし。これ即ち往昔の平戸城跡にして、久しく松浦氏の治する所たりき。弘安の役蒙古の襲撃を受けしより以來、西肥の要津外國往來の門戸を成し、慶長年間に至りては和蘭人此地に來りて交易を開始し、遂に地界を劃してこれに居るに至れり。今日猶其遺址を存せり。田助港は町の東方十數町のところにあり。其の海角魚見岬に燈臺あり。町に縣立中學猶興館及び平戸女學校あり。此地は捕鯨業の殷盛なるところにして、季節に際しては、其の活躍實に目を刮せしむるものあり。其の捕獲は主として米國式を用ゆといふ。

生月島は平戸本島の西北に位し、地に生月の一邑あり。平戸捕鯨事業の主要地にして、舊幕府時代より其名は世に喧傳せられ、同地の捕鯨家の雄たるものは、其富王侯に擬するに至るといふ。今日、猶其の業隆盛にして、年々捕獲する處巨額に達す。

平戸島の西に宇久島群島あり。五島の一なれども、管治は北松浦郡に屬せり。宇久島を本島とし、野崎島・小値賀島・大島・斑島・寺島・六島等これに屬す。宇

福江

富江

久島は周圍四里を有し、島の東方に平の一邑あり。野崎島の南に津和崎瀬戸を隔て、五島の一にして南松浦郡なる中通島あり。

南松浦郡は五島列島の中、中通島・奈留島・久賀島・福江島の四島を管す。中通島は宇久島の南に位し、相崎瀬戸を以て西彼杵郡の平島と相接す。島の中央、有川浦頭に有川・榎津の諸邑あり。有川港は捕鯨業を以て著はる。港の背面に鯛の浦あり。長崎より福江に赴くの汽船は、常に此處に寄港す。奈留島は中通島の西に位し、久賀島はまた奈留島の西に位す。福江島は五島列島中の最西に位し、周圍六十里を有する大島なり。島の東北に福江港あり。長崎港を距ること六十八海里あり。港内水深からず、且つ風波を避くるに便ならざれども、前に螺螺島・庖丁島の二島を控へて、頗る眺望に富めり。町に南松浦郡役所を置き、又縣立五島中學校あり。市坊の傍に五島氏の居城址あり。福江港の西南二里に富江港あり。港内水深く、且つ諸群島の其門戸を鎖せるを以て碇泊に便なり。男女列島に於ける珊瑚採集業者の根據地にして、諸方より來集する船舶數ふるに遑あらず。これを以て常に殷賑を極む。島の西端に玉

の浦港あり。本縣最西端の港として知らる。本島の西南端大瀬崎に燈臺を設け、又無線電信局を置く。

男女列島は北緯三十二度の海中に位し、福江島の西南六十海里の絶海中にあり。近海に良好なる珊瑚を産するを以て、遠く來りて漁獲に従事するもの多し。唯同島は海波強く、船舶を碇繋すべき港灣絶無なるを以て、一たび颶風に襲はるれば、狂瀾怒濤の中に魚腹に葬らるゝの他なし。されど年産額約千五百貫二十一萬圓に達するを以て、毎年採集期に至れば、本縣及び大分福岡山口愛媛各縣より出漁するもの約四百隻を下らず。採集したるものは富江玉の浦に市場を開きて賣買し、多くは加工することなくして直ちに阪神地方に送り、更に又海外に輸出す。されば仲買人の中には歐米人も少なからずといふ。

壹岐島

壹岐島は本土の北方海上十海里餘に位し、東西二里半、南北三里半、面積十六方里半を有し、壹岐の一郡を置く。島中は一高原を成し、丘陵性の山岳連亘し、其最高峻なるものは郷の浦の東部に起立せる嶽の嶺(二三八米)にして、

これに次ぐは箱崎の魚釣山、鯨伏の本實山是なり。全島至る所耕地ならざるなく、主として麥米大豆等を植ゑ、肥料を加ふること少きも其收穫頗る大なりといへり。島の北方に勝本港あり。南に郷野浦港あり。道路はこの二港の間を南北に通ずるを主要路となし、其他に勝本より島の東端瀬戸に至るものと、郷野浦より東南印通寺を経て盧邊に至るものとの二あり。此地は孤島なれど朝鮮航路に當り、古より其名著れたり。國郡制定の際島司を置きてこれを治せしむ。延喜式に壹岐島下國、海路程三日の字見えたり。中世鎌倉の時少貳氏島民を治し、文明年間に及び、肥前の波多氏全國を合せて自から守護と稱せり。永祿に及んで松浦氏これを領せり。海路は縣の補助航路ありて、往航は長崎港より平戸を経、郷野浦に寄港して對州に至り、復航は對州より勝本を経て、博多に至り、それより郷野浦を経て、平戸長崎に歸航す。其他不定期汽船の海岸各港に寄港するもの尠なからず。郷野浦(第六十圖甲)は一に武生水と稱し、戸數七百、人口二千餘を有し、本島の主邑を成し壹岐郡役所あり。呼子を距る二十海里、平戸を距る二十七海里なり。鳴打氏、波多氏、松浦氏之

を傾して今日に至れり。浦は本島の南西岸にあり。海水深く灣入して良港をなし、其内灣に大小船舶を泊すべし。南風を除きて各位の風威を支障す。肥前の呼子港より小川島加唐島の間を經る海底電信は、この浦の東角に於て朝鮮釜山浦より來るものと相連合す。浦の南西面に大島長島原島平島机島の五島及び數多の岩礁あり。其間に横はれる水道を淨賀島瀬戸といふ。この西に渡良村あり。地に延喜式内社物部布津神社あり。石田郷は武生水郷の東方に位し、石田の一邑は其灣頭にあり。萬葉集に「伊波多野」と詠せられしところにして、地に式内社石田郡津神社を存せり。筒城には筒城崎の岬頭に燈臺あり其燭光暗夜には呼子(上松浦)芥屋(糸島)附近より遠くこれを望むを得べしといふ那賀郷は全島の中部に當り、郷野浦より出でたる道路は其中央を南北に通す大字住吉に住吉神社あり。神功皇后以來の古社にして、延喜式内に列し、今國幣中社たり。大字國分の東中郷に古刹島分寺あり。那賀郷の東は、伊宅郷田宅郷にして、前者に八幡浦あり。後者に芦邊浦あり。八幡浦の北側は海岸特有の高原を成し、長者原岬長く海中に突出す。蘆邊浦は灣形東方に開き、

大船を容るゝの好錨地なければ、和船は常に來りて碇泊す。地に、高御祖神社あり。この浦の對岸は往昔の潮安郷にして、東に瀬戸の小澳あり。弘安の役蒙古の襲撃を受けしところとして著名なり。勝本港は郷野浦を北に距ると四里、島の北端にありて、對馬と壹岐北水道を扼せり。對馬嚴原を距ること、四十海里なり。港内水深く、船舶の碇泊頗る便なり。人口三千二百を有す。港の背面西南に武末城址あり。豊太閤朝鮮を征するに當り此地に城廓を構へたる遺址を存す。東南一里香椎村には、文永の役、元寇に殉死せし守護代平景隆の遺址を存す。

對馬島

對馬島は壹岐島の西北に位し、二大島と無數の島嶼とを以て成る。二大島を分つて上縣、下縣の二郡となす。下縣郡は東西二里、南北五里半、周圍卅里餘を有し、上縣郡は東西四里、南北九里、周圍三十六里を有す。壹岐郡勝本より下縣郡嚴原に至る、海路二十二里なり。此地は白鳳二年始めて國府を置き、與良郷櫻川の南にその廳舎を置きしが、中世以降國司任に赴かず、常據に官をして國事を掌らしめたり。寛文年間宗重尙太宰府の命を受けて此地

竹敷港

に來り、爾來世々これを領す。元寇の役、宗氏がこれに據りて殉難せしは、歴史を讀む者のよく知る所なり。地形は東西に狭く、南北に長く、中央劈開して、一大灣を成し、灣内に數十の島嶼あり。わが海軍の要港竹敷港は實にこの灣内にあり。方今警備隊司令部、要港司令部を置き、灣口一里、東西三里南北二里乃至半里、東は上下兩島を分界する大船越瀬戸に通じ、如何なる大船と雖も往復することを得べし。町は海岸に臨み、瓦葺相連り、頗る繁華の趣を呈せり。人口二千二百餘を有す。鷄知には陸軍要塞司令部あり。人屋櫛比市街繁盛なり。地に住吉神社あり。

嚴原町

嚴原町(第六十圖乙)は其南二里に位し、往昔國府を置きしところにして、全島の主邑を成し、人口一萬千三百を有し、島司の廳舎此處にあり。此港は朝鮮釜山浦との互市昔より盛大にして、和船常に來り集り、市街繁盛なり。町の西南端の丘陵棧原に府中城址あり。宗氏歴代の城址なり。縣立中學校區裁判所等あり。里人皆な此地を呼んで城下といふ。國府址は町の近郊與良村にあり。宇屋敷町清水には國府八幡宮あり。清水山には豊太閤征韓の役に際し、毛利

大分縣

に命じて築城せしめたる古城址あり。扇原には國分寺あり。豆酸は上島の南部地方にして、東の岬角を神崎といひ、西を豆酸岬といふ。神崎の絶端に燈臺あり。其他佐賀浦、淺茅浦等あり。下島の東岸に佐賀・小鹿・琴等の諸邑あり。共に漁村にして、多く記すべきものなし。佐須・奈は下島の北部の一良港に成し、小澳あり、西北に向つて開く。寛文年間宗氏此港を開き、朝鮮來往の津頭を爲し、より、今猶和船の碇泊多く、北部に於ける朝鮮に對する輸出港を成す。秋季、鯖の漁業期に際しては、特に繁盛を極む。

大分縣

大分縣は本地方の東北に位し、南は宮崎縣に界し、西は熊本縣に連り、北は福岡縣に接し、東は全く海に瀕す。東西三十里餘、南北二十二里餘、面積四〇二、七三里六二一、四九方疋人口八七七、九四五を有し、縣廳を大分町に置き、その十二郡を管す。十二郡は豊後の西國・東國・東速見・大分・北海部・南海部・大野・直入・玖珠・日田・豊前の下毛・宇佐即ち是なり。面積の最も大なるものは大野

地勢

郡にして、面積六五〇二方里を有し、日田郡の四五二八方里これに次ぎ、南海部郡の三九四六方里はこれに次ぐ。最も小なるものは西國東郡にして、面積一五八六方里を有するに過ぎず。更に人口の密度を見れば、その最も大なる地方は北海部郡にして、一方里平均四八〇〇人の割合なり。これに次ぐは西國東郡にして、一方里三二〇〇人を有し、宇佐郡の二九〇〇人、東國東郡の二七〇〇人これに次ぐ。玖珠郡は山間僻地にして、九〇〇人に過ぎず。

地勢は一般に山嶽重疊して平野に乏しく、殊に西南豊日肥の國境には本地方中屈指の高山たる祖母の連山蜿蜒として連亘し、其北方肥後の境には九重火山麓に屬する一目山湧出山等相連り、別府灣の西には由布鶴見の諸火山突兀として聳立す。平野は大抵河川の沿岸に發達せる河成平野往古の湖底なりし湖成平野及び海岸に沿うて發達せる海岸平野にして、多くは狹長なる形を成し、市邑村落之に従て開展せり。大分川に沿へる平野の末端には縣治の中心大分町あり。之に並びて大野川の平野あり。此の區域を本縣平野中の最も廣濶なる處とす。湖成平野として稍廣きは日田の平野にして日田町此處にあり。

産業

之に次ぐを森町の平野となす。河川の海に注ぐ所には大抵小平野を開展し、市邑此處に發達す。臼杵川の河口には北海部郡の主邑臼杵町あり。番匠川の河口には、南海部郡の主邑佐伯町あり。南方東國東半島には八坂川の河口に杵築町あり。湊川の河口に港町あり。田深川の河口には田深町あり。又桂川の河口には高田町あり。豊前及びそれに接せる北部海岸地方に於ては、これに反して比較的幅廣き海岸平地を成し、驛館川山國川共に稍大河の趣を爲し、この平野を緩流し、前者の河口に長洲町、後者の河口に中津町發達す。

大分大野宇佐の三平野は土壤肥沃にして、稻田種々として相連り、蠶業、花筵業等各種の産業發達す。林業また山地に盛にして、日田玖珠下毛の三郡に點在する山林は、杉材の栽付其の發達頗る見るに堪へたるものあり。特に日田郡の如きは、數百年來著名の山林として世に名高く、其の造林の方法一種の特色を有して、他の模範たるに足るもの少なからず。縣の沿海線百八十餘里に亙り、内海外洋に臨み、漁場と漁獲物の種類とに富み、水産の利亦極めて大なるものあり。工業は國東半島及び速見大分二郡に於ける青花筵業、

大野川沿岸地方、宇佐郡、下毛郡、日田郡地方に於ける養蠶及び製絲業等を第一とし、これに次ぎて西東國郡の木臘、日田郡大野郡の烟草茶等あり。其他産物の一地方に名聲あるものも亦尠なからず。

交通

縣下の交通を記すれば、本縣に於ける鐵道は豊前街道に沿ひて、福岡縣界に近き中津町より、宇佐郡宇佐驛を経て別府灣頭の日出に至るものあり、將に延て大分に至らんとす。道路は國道に豊前街道、日向街道あり。縣道には、肥後街道、伊豫街道、筑前及び筑後街道の四路あり。豊前街道は大分より茵茗灣の南部を縫ひ、別府日出を経て、大分海岸地方と宇佐海岸との間に横はれる丘陵を横斷し、立石を過ぎて宇佐町に達し、驛館川を渡り、四日市赤尾を過ぎ、犬丸に於て、九州鐵道線の今津驛に接觸し、これより鐵路街路相並行して中津町に達し、山國川を渡りて直ちに福岡縣に入る。この交通路は本縣諸街道中最も交通頻繁なる道路にして、西北方面より大分に入る唯一の關門を成せり。日向街道は大分より南し、富岡を経て戸次に達し、大野川に沿うて溯り、高城峠を越て、三重町(市場)より大野南海部兩郡の境を成せる三國峠(六二九米)

を越え、小野市と千束との間に於て、板峠(二一九米)を越え、重岡より赤松峠を越えて、日向の延岡に至るものにして、市場までは車を通すれども、以南は山路峻峻にして徒歩にあらずんばこれを度る能はず。肥後街道は豊前街道に次いで、重要な交通路を成し、大分より西南に向ひ、野津原を經、温見を過ぎ、直入郡の中心竹田町に達し、管生を経て熊本縣坂梨に達す。地山間を通ずるも道路よく開けて車及び馬車を通す。筑前街道は大分市より西し、向原川西中村戸畑日田の諸驛を経て、筑前の國境に達す。この途中、日田より分岐して筑後の國境に至るものを筑後街道と爲す。大分より東、鶴崎に至り、阪の市細の諸邑を経て、別府灣の東端佐賀の關に至る路は、伊豫街道と稱し、佐賀の關より海路直ちに伊豫に至るを得べし。其他の交通機關に、豊州電氣鐵道あり。大分、別府間風光明媚の地六哩を快走し、旅客をして座ろに眼を車窓より放つと能はざらしむ。港灣の良好なるものには、東に、佐賀の關、白杵、佐伯あり。別府灣中に、別府日出あり、北方國東半島には竹田津高田あり。宇佐郡の海岸には、長洲、中津あり。皆、水路の重要な港津を成し、

別府町

大阪内海間・大阪・油津間・其他四國・廣島下の關等瀬戸内諸港を往來する汽船は、常にこれ等諸港に寄港す。また、別に、別府日出間の小航路あり。輕快なる小蒸汽は絶えず別府灣の南方海上を駛走す。

吾人は海上より風光明媚なる別府灣に入り、鶴見火山の雄姿を右に仰ぎ、大友氏の古戰場なる城壁のごとき四極山を左に見つゝ、次第にその灣内深く進み入るとせん。前に横はれるは一輻の畫圖をひろげたるが如き別府町の瓦葺粉壁にして、其港頭には和船汽船の碇繋せるを見るなるべし。港は明治三年の開築にして、東西百間、南北八十間の埠頭を有し、その水深三尋より四年の開築にして、道路は埠頭より直ちに市街の中に通じ、九州屈指の温泉地なる別府町(第六十圖乙)は忽ちその殷盛なる一區を展開し來る。町は戸數千五百餘人口一萬四千を有し、縣下屈指の都邑にして、人家櫛比し、宏壯なる旅館は戸々相連る。蓋し此附近は鶴見火山由布火山を後に負ひたるを以て、温泉各地に湧出し、到る處浴樓ありて、人をして旬日遊浴の閑を覺えざらしむ。町の中央、街頭に面して三層樓あり。所謂不老泉と稱する公浴場にして、其設備の完き、

濱脇

他の温泉場多く見ざるところとなす。泉質は炭酸泉にして、其の反應は酸性なり。中濱町より左折して海岸に出づれば豊州電氣鐵道株式會社あり。濱脇を經、海岸を縫ひて、別府・大分間を往來す。其東に松原遊園地あり。庶民の散策を試むるもの多し。濱脇は朝見川を以て別府に隣り、其市街の殷賑は却つて別府町を凌げり。地は、砂湯を以て聞え、泉質別府温泉に均しく、宏壯なる共同浴場は東西二箇所にあり。南に、東山遊園あり。規模大ならざれども、眺望に富み、浴餘半日の清遊を試むるに足る。地に崇福寺、長松寺、朝見八幡神社あり。大友氏時の墳墓は乙原にあり。又其地に雌瀑雄瀑の勝あり。

觀海寺温泉は別府町を西に距ること一里餘、鶴見山の山腹に位し、前に別府灣を望み、風光頗る明媚なり。泉質は別府温泉に均し。三四町登りて上の田湯あり。その北方峡谷の間は一面に硫煙を蒸騰し、俗に稱して觀海寺の地獄といふ。これより東、鶴見岳一帶の地は、處々に温泉硫氣を湧出し、堀田温泉・塚原温泉・明礬温泉・由布院温泉等あり。坊主地獄・海地獄・紺屋地獄等などと稱する硫汽洞は皆この附近にあり。鐵輪温泉は海地獄の東八町に位し、泉質

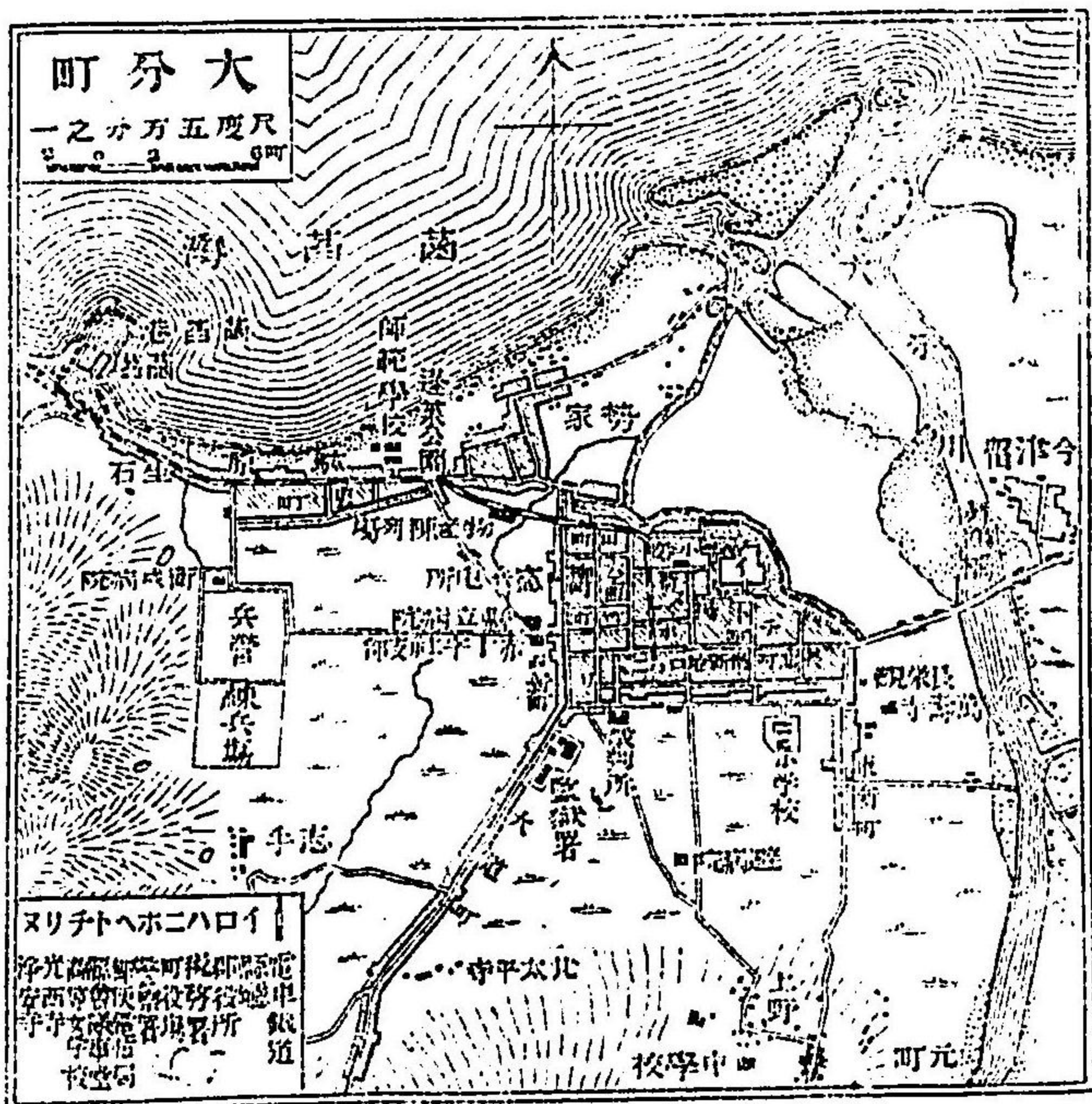
良好なるを以て浴客常に踵至す。龜川温泉は別府日出間の國道上に位置し、

浴舎軒をつらね、頗る殷賑を極む。

更に濱脇より東に進めば、國道は四極山の山脚の海に没するの頭を傳ひ、二里餘にして、大分町に達す。

大分町は縣の北方海岸に位置し、北は別府灣に臨み、西に四極山の翠微を控へ、南は丘陵の連れる間、平野の連れるを見る。大分川は町の東方を流れ洲渚を成して海に注ぎ、西方海中に突出しこの港の埠

大分町



頭と相對して、齒蒼灣を其中に抱く。東西二十町、南北十七町、人口二萬七千餘を有し、本地方東海岸中屈指の都會を成せり。沿革をたづぬれば、往昔此地に國府を置き、文治建久の頃、鎌倉覇府の統ふる所となり、大友能直をして豊後豊前の守護職となし、鎮西奉行を兼ねしめしより、世々これに據り、傳へて、二十二世に至る。義鑑(二十代)義鎮(二十一代)の時に當りては、其武威赫々として東肥北筑を併呑し、領域一時九州の大半を占むるに至りしが、義鎮の子義統に至り、文祿征韓の役に於て、怒を豊臣秀吉に得、國遂に除せらる。其後封主屢變遷し、以て明治維新に及べり。町は東に伊豫國に通ずる佐賀關街道あり。北に日向街道、肥後街道あり。西に中津街道あり。國中交通の線路皆なこれより輻射す。水運は其港灣の地形規模別府灣に及ばざるを以て、船舶は大抵別府港に碇繋し、町の齒蒼港は却つてその隸屬たるの觀を呈すれども、電車の交通は別府大分間を連絡せるを以て、今日に於ては、別府港は却つて大分町の前港を成せるの趣を呈せり。電車は西より來りて、齒蒼港埠頭の北を掠め、駄原を經、蓬萊公園の傍を過ぎ、田町に入り、南して直

春日公園

ちに終點に達す。四極山は一に高崎山と稱し、町の西を擁し高千十米を有し、天正以前大友氏の城塞ありし地にして、山嶺平坦、頗る登臨の美あり。菡菖港(第七圖乙)は生石の北に位置し、船舶常に幅輳す。海上に笠結島あり。濱の市に縣社柞原八幡宮あり。また青島神社あり。淨土寺は生石にあり。猶進めば其東に隣りて春日公園あり。古木鬱蒼たる間より海濱の渺漫たるを望み、白砂青松相映對し、風光甚だ佳なり。中に縣立師範學校春日神社、蓬萊丘賢女起世の碑等あり。この附近及勢家町の海濱は、神宮寺浦と稱し、天文年間、大友宗麟が外國と貿易を行ひたるところなりといふ。この附近電車に沿うて物産陳列所あり。これを過ぎて田町、大工町に至れば、市街整正にして商家櫛比し、おのづから地方の都會の趣を呈す。大分縣廳は荷揚町にあり。元の府内城のありし處にして、今猶ほ樓櫓城壁外濠等を存し、中に水産試驗場あり。縣廳に對して、縣會議事堂あり。其南に高等女學校あり。長池町の一路は直に東を指し、街衢の盡くる處に大分川の貫流するを見、そこに舞鶴橋の虹霓を架す。眞宗の巨剎萬壽寺は東新町にあり。その南數町を隔て、上路

に縣立大分中學校あり。更に町の南部に至れば於北町に地方裁判所區裁判所あり。監獄署は大新町にあり。郡役所は南新地にあり。第七十二聯隊の兵營は西方郊外にあり。

町の物産は青筴、生絲等とす。

これより佐賀の關街道を東すれば、二里にして、鶴崎町に達す。市街繁榮にして人口千を有し、大野川の一支流乙津川其西を流る。町は元と熊本藩に屬せしを以て舊藩時代は盛なりしも今は寧ろ衰微せり。町の北半里、別保村に宇森に眞宗の巨剎專想寺あり。往時は四百餘の末寺を有し、關西屈指の巨剎なりしといふ。其の附近高田の一部落は古來有名なる刀匠の輩出せしところにして、現今にても銳利なる鎌鋤庖丁等を産す。また地に牛旁を産す。鶴崎町より大野川を渡れば、北海部郡にして、里餘にして阪の市の一邑に達す。白山(五二)一里の東腹を縫ひて白杵地方に達する道路これより北に岐る。

佐賀關町は海部半島の南端に位し、豊豫海峡を隔て、伊豫國に相對す。白杵街道分岐點阪の市より、海岸路三里半にして達す。人口七千七百を有し、

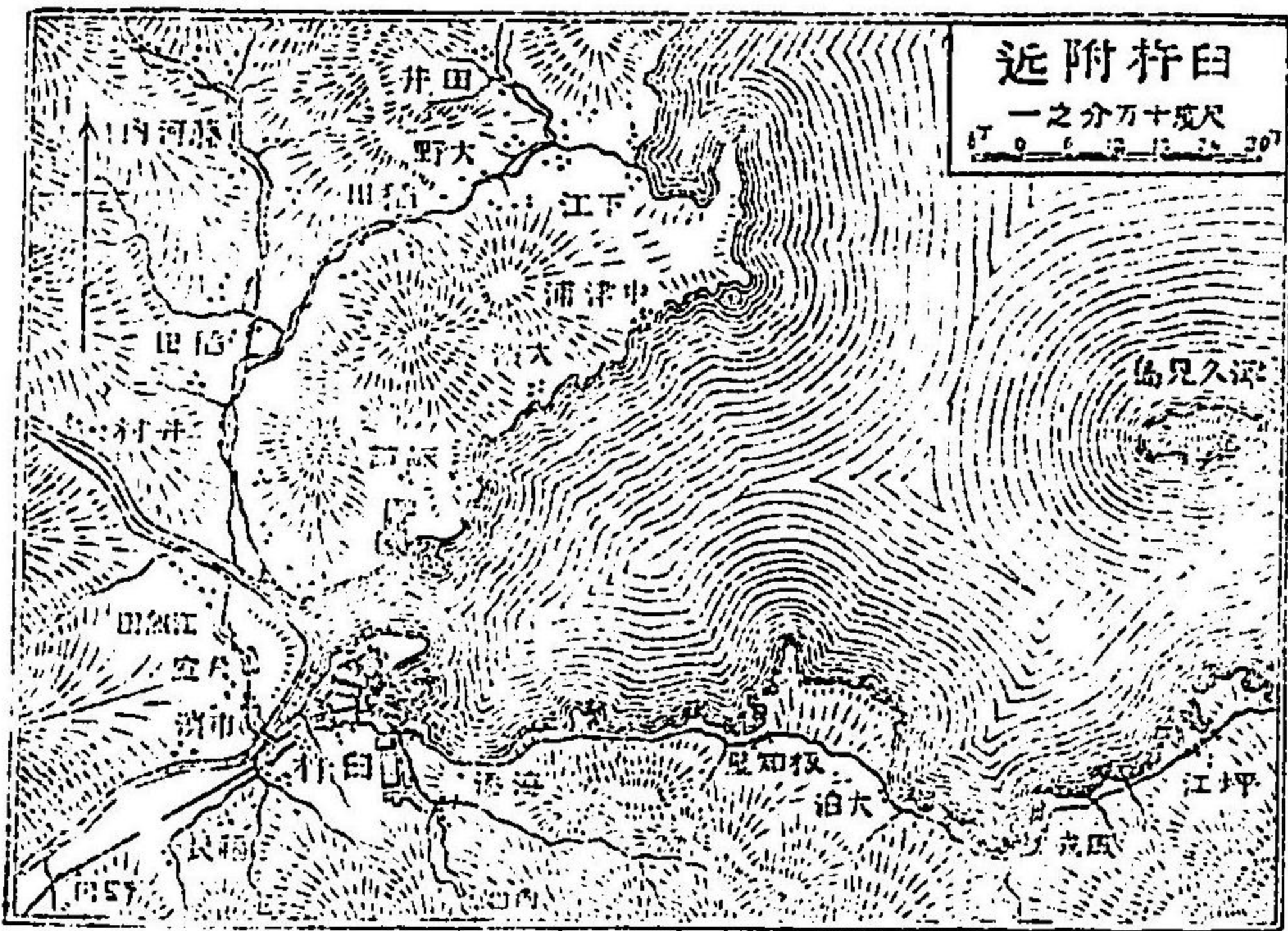
佐賀關町

縣下屈指の名邑なり。港灣南北に展げ、南を下關又は下浦といひ、北を上關又は上浦といふ。南北共に天成の良港にして、船舶常に輻輳して片時も帆影を見ざることなし。上浦の埠頭に接近せる丘陵を左義長岬といひ、其東に縣社速吸日比神社あり。日向泊は上古神武天皇が東征の途次舟を寄せたまひしところとして著名なり。又、下浦に、縣社椎根津彦神社あり。この上浦下浦の東方には一九八米を有する牧山聳立し、其の絶端關崎に燈臺あり。三等燈臺にして光達十湮に至る。此の關岬の絶端には牛島高島相連りて、伊豫の長岬佐田岬と相對し、其距離僅かに六里に過ぎず。潮流急駛にして、所謂速吸の瀬戸を成せり。

佐賀の關街道坂の市より南に岐れたる道路は、白山の東腹を掠めて、白杵地方に達す。また佐賀の關より白木佐志生下の江を經、海岸をつたひて白杵町に至る道あり。白杵町は白杵川の河口に位し、港灣東南に向つて開け、縣下東海岸中の一名港をなし、人口二萬九百餘を有し、維新前は稻葉氏の歴代の城下たりき。人家櫛比、商業繁盛に殊に此地は勤儉の美風を以て縣下にき

白杵町

こゆ。北海部郡役所縣立白杵中學校大分縣立農學校等あり。東南の丘陵は舊



部郡に通ずる唯一の道路にして、

城址にして、今は公園となり、園内廣濶にして、眺望頗る美なり。園の中央に稻葉神社あり。舊白杵藩主一鐵公を祀れり。又、郡役所の北に八坂神社あり。南には月桂寺多福寺等あり。港頭には埠頭ありて、汽船常に來りて碇泊す。町の北、一里餘の海岸に下の江港あり。灣内水深く波靜かにして巨船大舶を泊せしめ得べし。此地また風景の美を以て世に聞こゆ。白杵町より大野郡に入るの路には、津留村字野田に新高野山の勝地あり。頗る登臨の美あり。白杵町より東北海岸に近き一路は、南海郡の中央海岸に佐伯町の一主邑を有す。南

佐伯町

海部郡は縣の東南に位し、南黒澤の諸嶺を以て日向と接し、三國楯の諸山西北に聳え、其の脈鏡彦山に連りて大野・北海部の二郡に接し、東北は海に面し、蒲戸鶴見の兩岬遠く海中に斗出し、相對して佐伯灣を抱けり。これを以て地形全く縣の他地方に懸隔し、他郡より此地に入るものは、山路にあらすんば海路によらざるべからざるが如き状態にあり。白杵町より南に向ひ、佐伯街道を辿れば、半里にして棧の勝地あり。山水の美に富む。津久見峠を越えて、下に津久見灣を見る。徳浦の地に、石灰を産し、年産額三百萬俵に達す。津久見は津久見灣の奥に位し、人口二千を有する一名邑にして、蜜柑の産地として名高く、俗に小紀州の稱あり。年産額三千石に及ぶといふ。これより鏡峠を越ゆれば、地は既に南海部郡なり。末木の一邑を過ぎ、二里餘にして佐伯町に達す。佐伯町(第七圖六十二)は郡の中央海岸に位し、人口九千四百四十餘を有し、番匠川其の南を流る。維新前にありては、毛利氏歴世の城市たりき。市街整正にして、人烟稠密、百貨輻輳、白杵町と共に、縣の東部の一名邑を成せり。地に、郡役所區裁判所・小林區署・稅務署等あり。市街の西北に聳立せる城山は

佐伯港

佐伯城址のある處にして、城は往昔鶴谷城と號し、山麓より頂まで九十間、周圍二十七町を有し、老樹森々として満山を蔽ふ。東麓に臨濟の巨利養賢寺あり。其の附近に陸軍墳墓地住吉神社等あり。佐伯港は町の東廿町餘に位し、一に葛港と稱し、港内水深く、波靜かにして、碇繋の便頗る良好なり。内海・大阪間、宇和島・細島間の汽船は上下共に寄港し、埠頭汽笛の音を絶たず。港の西北は佐伯灣にして、大入島其の東北を劃し、環翠湖の如く、風光頗る明媚なり。灣内海軍貯炭庫の設けあり。又大入島の東北、宇鹽内の海岸に舊藩主毛利子爵の經營に成れる魚類養殖所あり。其の北にある日向泊の地は、神武天皇東征の時、皇船をつなぎ給ひしところと傳ふ。今猶ほ御船繋ぎと稱する巨石を存す。

佐伯町より南に岐れたる二路は共に日向街道にして、多くは山嶽丘陵の間を經由し、車を通せず。青山村を經由するものには、途中宇黒澤に二株の老櫻樹あり。行きて見るもの多し。月形を經由するものは、大分より大野郡を縦走する日向國道に合するものにして、絶えず久留須川の流に沿ひ、夏木峠

を越えて大野郡の南部に入る。因尾街道は因尾川の流に沿うて、郡の西部山間の一邑因尾に達す。

再び大分町に歸り、更に日向街道及び肥後街道の地をたどるとせん。日向街道は主として大野川の流域を南北に走り、肥後街道は其の西方二里乃至三里を隔て、竹田町地方に達す。大分町を出て、半里、國府の地に往昔の國府の地あり。薬師如来大臣塚等あり。これより國道を傳ひ東南に行くこと一里、大野川の水急潭を爲し、風光畫くが如し。對岸にある一邑を戸次といふ。此地は天正年間、長曾我部元親仙石秀久が豊臣秀吉の命を奉し、大友義統を援けて島津家久と戦ひ大敗したる古戰場にして、當時戦死せし元親の子信親の墓は左方の丘上にあり。これより國道は一里餘にして大野川に離れ、高城山の西腹を縫ひて、大野郡に入る。西寒田に西寒多神社あり。豊後の一の宮にして式内社に屬し、國中第一の古祠なり。今、國幣中社に列す。社殿宏壯にして、境内櫻樹多し。國道の西方、大野川苗川の會點に犬飼の一邑あり。三重町は、普通市場と稱し、略、白杵街道、竹田街道、日向國道との會點に位し、人

三重町

口六千餘を有し、大野郡役所、稅務署、竹田區裁判所出張所等あり。大分町元標を南に離ること九里餘なり。町の南十町内山に、著名の古刹蓮城寺あり。敏達天皇時代の創始にして、今を距ること千三百二十年なりといふ。これより日向國道は概して山岳丘陵の間を過ぎ、七里餘にして小野市の一邑に至る。山間の一小邑にして、人口千五百を有す。この西方三里の山中に木浦鑛山あり。一時は鑛業盛大を極めしも、今は衰頽して見るに足らず。この西方に傾山の高嶺聳立し、頗る峻嶮を極む。その西長谷川村の山中に黒葛谷瀑あり。その西南宮崎縣に接して、尾平鑛山あり。日向國道は小野市より重岡を経て宮崎縣に入る。

三重町より西に岐れたる竹田街道は、道路平坦、よく車を通ず。二里にして、砂田の一邑あり。其南一里に有名なる沈墮瀧あり。大野緒方の兩川無數の溪流を導き來り、茲に相合して懸崖より落下す。高さ九丈、幅さ十間、頗る壯觀なり。砂田の南、宇田枝に御嶽社あり。大化に大行八幡社あり。上下自在は砂田に連る驛邑にして此附近平原を成し、字片ヶ瀬に岡藩の騎射場

沈墮瀧

竹田町

たりし孤松原あり。櫻花の名所を以て聞ゆ。この北方上尾塚に普尾寺、島田に神角寺、酒々井に醍醐寺あり。共に古刹として著名なり。街道はこれより二里にして直入郡竹田町に至る。

大分町より竹田地方に出づる縣道は、大分郡の野津原より、大野郡の今市・島田上尾塚を経て竹田町に達せり。竹田町は直入郡の南部高原地方の峽谷間にあり。人口六千餘を有し、郡役所・稅務署・區裁判所・葉烟草專賣支局・縣立竹田中學校等あり。舊中川氏の城址は市街の東南に位し、其の丘陵の形牛の臥するが如きを以て、因て臥牛城の名あり。市街の東端には舊藩主の設けたる鐘樓あり。眺望甚だ佳なり。八幡山の半腹に眞言宗の古刹願成院あり。町の西端に公園あり。軍神廣瀬中佐の銅像あり。蓋し中佐の出身地たるを彰かにするにあり。また市街の西南七八町を隔て、魚栖の瀑布あり。雌雄相連り、高さ各十數間、幅八十尺に及び、柱狀節理を呈せる阿蘇熔岩上に懸る。下流に橋あり、魚栖橋といふ。橋上より雄瀑を望む、頗る壯觀にして夏時は探涼の客踵至す。竹田町より縣道は西し、王來管生の二驛を經、三里餘にして熊本

久住

縣界に達す。又、次倉より肥後の津留に至り、それより日向の西臼杵郡に入るの路あり。縣道を傳へば、王來に山下公園あり。舊藩主の別莊たりし地、今、公園となれり。山上に、舊藩主中川氏を祀れる中川神社あり。又、その附近に扇森稻荷神社あり。この南方三里を隔てたる山中神原に縣社建男霜凝日古神社あり。式内の古社として著名なり。祖母嶽は本郡及び大野、日向の西臼杵郡等に跨れる高山にして、其高さ一千七百五十七米を有し、曾て九州第一の高山と稱せられしも、今は九重山の爲に其壘を摩せらるゝに至れり。山脚肥後日向に跨り、登臨すれば、脚下に群山の起伏するを見るべく、頗る壯觀なりといふ。日向街道上柏原村陽目に白水瀧あり。再び肥後縣道に歸りて王來より西すれば管生の一邑あり。大字朝鍋に鬼窟屋と稱する奇なる岩窟あり。廣さ百人を容るゝに足る。此附近古塚多く、蜘蛛塚・七ツ森塚等の名あり。直入郡の北部は九重山・大船山の山岳屹立し、其の裾は廣大なる原野を成し、交通不便、人煙稀少なり。竹田町より西北三里を隔て、久住の一邑あり。附近の一中心を成し、人口三千を有せり。其途中城原に縣社八幡神社あり。

景行天皇が土蜘蛛征討の時御駐蹕あらせられし地として著名なり。久住は養蠶製糸の盛なる地として縣下に名高し。この西北二十町餘を隔て、青柳に納池公園あり。池小なれども、九重火山の伏流は地底より湧出し、清冽口を激くに堪へたり。九重の曠野は、廣袤數里に跨り、地形高濶、頗る人意を快にす。現今、其の南麓に大分縣種馬所あり。七里田温泉は大船山の南麓にあり。炭酸泉にして旅舎の設備完からざれども、近郷より行つて浴するもの常に群を成す。九重山は九州著名の高山にして、三俣山・久住山・大船山と共に九重火山群を成し、その最高の處は海拔千七百八十九米を有し、實に九州第一の高山たり。九重山の東腹に硫質噴氣孔ありて、絶えず多量の硫氣を噴出す。此處に九重山硫黄鑛山ありて、硫黄を採取す。(地形及鑛業参照)

玖珠・日田の二郡は縣の西方山間の地に位し、交通便ならず。大分町より起りたる道路は、向原・高岡等の諸邑を経て、下川より川西に達し、これより玖珠郡に入る。郡の中央に森町あり。郡の首邑にして、人口五千五百を有し、山間の一中心を成せり。郡役所・稅務署・豆田區裁判所出張所等あり。これより

森町

縣の南部下毛郡に入るの道路は、新耶馬溪と稱せられ、よく車を通ずるを得べし。森町の北方は玖珠川の發源地方にして、直入郡の郡界に湯坪火山・九重火山聳起し、其裾野は廣大なる高原を成し、葭葦一面に繁茂し、仲秋の頃これを望めば、恰も萬頃の田園を望むが如し。土俗これを千町蕪田と稱す。或は其の一部開墾せられて、五穀米麥を産するに至れり。これに接して大分牧場あり。無數の牛馬を放牧せり。附近に震動瀑あり。湯坪火山中には湯坪温泉あり。清透なる温泉の湧出最も多量にして浴舎櫛比し、浴客甚だ多し。猶北して町田川の沿岸に町田温泉あり。引治には金坑あり。日田街道上の南に、斷株山聳立し、これより二里餘にして、魚返瀑に達す。玖珠川の急流、懸崖にかゝりて此瀑を成し、高二三丈、幅三十丈、頗る壯觀を極めたり。附近に瀧神社あり。これより道路は戸畑を経て、日田郡に入る。

日田郡は縣の西端に位し、西は福岡縣、南は熊本縣に連り、全く縣の東部及び北部と交通を異にす。筑後川の一大支流たる三隈川・肥後の阿蘇郡より來りて郡の中部を南北に流れ、中央日田盆地に至りて、東方北方よりする諸川

日田町

を合せ、これより西に流れて筑前に入る。其合湊點に近く郡の主邑を成せる日田町あり。町は元、豆田隈の二市街に分れたりしを、明治三十四年合併して、日田町と改稱せし者にして、人口一萬餘を有し、商業繁盛、人民富饒にして、生活の度他地方に比して頗る豊かにして、巨商舊家多く縣下西部に於る屈指の市邑を成せり。郡役所稅務署小林區署縣立農林學校葉烟草專賣所出張所豆田區裁判所等あり。慈眼山は豆田の東北八町に聳立し、松樹密生して、山容頗る古雅あり。日田市街を眼下に下瞰し、風景頗る可なり。其の西に慶長年間小川壹岐守の據りし月隈城址あり。今、此附近に區裁判所農林學校等の建築物あり。嶽林寺はその西南にあり。著名なる古刹にして、後醍醐天皇の宸翰及び繪旨を藏す。三隈川の合湊點は町を距る三十町の處にあり。巨流滔々として、しかも水色清冽、山水映發して風光描くが如し。川の中央に龜翁山崛起す。この東北に會處宮の古蹟あり。成務天皇の五年、鳥羽宿禰が日田の國造たりしところといふ。其北に縣社大波羅神社あり。日田の地は、廣瀬淡窓がその家塾咸宜園を開きしところにして、その門に遊ぶもの一時二千

日出町

達し、その學風鎮西を風靡するの概ありき。今猶其の故宅を存せり。郡の東部及び南部は群山聳起し、三隈川及び其他の河水に沿ひて數條の河成平野を成せども、多くは寒村僻地にして記すべきこと少し。唯中川村大字湯山に天ヶ瀬溫泉あるのみ。更に再び別府町に歸りて、縣の北部地方を記せんとす。これより豊前街道の國道は別府灣の西岸を繞ひて北に向ひ、一里餘にして龜川に達す。地に溫泉あり。浴舎街路を挟みて並び、頗る殷盛を極む。この南に由布岳鶴久見岳聳立し、翠色海波を掩映し、風景絶佳なり。龜川附近に縣立農學校あり。龜川は溫泉多數に湧出し又海水浴を兼ねるを以て浴客多し。日出町に至る間に豊岡町あり。日出町は別府灣の北端に位し、人口四千を有する一市邑にして、市街繁盛人烟稠密なり。速見郡役所小林區署梓築區裁判所出張所等あり。港は町の南方海岸にありて、別府灣内の小港津を成し、別府日出間の小汽船は絶えず往來す。また市街の南端に日出城址あり。木下氏の居城ありしところにして、老松盤旋し、海山の眺矚甚だ佳なり。この東に八幡神社あり。町の

杵築町

鎮守神なり。松屋寺は曹洞宗の古刹にして、城址の西北五町に位し、境内にある二株の蘇鐵は縣下著名のものと稱せらる。町の西二十五町を隔て、鮎返の瀑あり。

杵築町は日出町の東方二里餘に位し、豊前街道を八阪よりわかれ、八坂川に沿ひ下りたる海岸にあり。人口六千九百三十八を有し、繁華なる小市街を成し、區裁判所、縣立杵築中學校等あり。町の東方にある港には、船舶輻輳し、沿岸航行の汽船常に寄港す。町に、杵築城址あり、維新前は松平英親の居りしところなり。八坂川の下流に架したる長橋を錦江橋といひ、長さ九十七間、頗る眺矚に富めり。豊前國道は丘陵の間を北に横斷し、十里餘にして宇佐郡に入る。此間に立石の一邑あり。人口三千六百八十九を有し、國道上の一宿驛を成す。此街路は大分地方より宇佐線上にある長洲驛に通ずる主要なる交通點を成せるを以て、往來頻繁、車馬の音日夜絶えず。

國東半島は西國東東國東の二郡にわかたれ、南北に長き橢圓形をなして海中に突出す。半島は殆ど全く五百乃至七百米の兩子火山の噴出物を以て成り、

守江港

道路の主なるものは海岸に沿へるものと、半島の中部を東西及び南北に横斷せるものと三あり。東國東郡は東方に位し、其の南角美濃崎は南方遙かに關崎の岬角と相對して齒齒灣の門口を成す。郡中到る處煙草の栽培を業とし、其産額頗る多し。海岸は灣入に乏しく、従つて良港を缺くも、速見郡の杵築町より鶴川町に至る道路は割合に良好にして、よく車馬を通せり。鶴川は田深村を合せて國東町と稱し、人口六千を有し、東國東郡役所は此地にあり。港は水淺くして大船巨舶の碇繋に便ならざれども、大分下の關間航海の汽船は日々寄港し、以て陸路交通の不便を補へり。奈良には縣社奈良神社あり。守江港は町の南方に位し、沿海港の一として知られ、多少の繁華を呈す。また郡の北部には、熊毛港岐部港、竹田津港あり。竹田津港最も良好にして、港内水深くよく大船巨舶を繋ぐに足る。又海上一里に姫島あり。西國東郡は東國東郡に比すれば、其面積小なれど、其繁華と交通の便とは却つてこれに勝れり。ことに桂川は其兩岸に稍々廣き平地を作り、高田玉津の二邑亦海陸交通の便を備へたるを以て、商業の活動敢て宇佐地方に劣らざるを見る。高

田町と玉津町とは桂川を挟んで相對し、前者は人口三千五百を有し、後者は三千を有し、玉津町に西國東郡役所あり。地に縣社若宮八幡社あり。その南來繩に黃檗宗の巨剎報恩寺あり。桂川の上流地方、田染村落に天台宗の古剎富貴寺あり。高田町より半島の北角竹田津に至る道路は、海岸を離るゝこと半里乃至一里、多くは丘陵の間を傳ふ。

宇佐町

豊前街道は丘陵の間を出で、宇佐郡の海岸平野に入り、先づ宇佐町に達す。町は人口三千を有し、縣立宇佐中學校あり。又著名なる鎮西の古祠宇佐八幡宮は其の東端にあり。市街は瓦葺茅屋相半し、繁華なりと云ふ可らず。先づ鐵の大華表を仰ぎ、吳橋を渡れば宏壯なる樓門あり。雲慶の作と稱する仁王を安置せり。門を入れれば神苑あり。老樹鬱蒼として、詣者をして自づから襟を正さしむ。社殿は一の鳥居を過ぎたる奥にありて、小高き丘陵の上に南面して立ち、中央には應神天皇を祀り、左右に比咩大神神功皇后を祀れり。本邦屈指の古祠にして、官幣大社に列し、往昔は伊勢の大廟と共に歴代の至尊の奉告使を差遣せしところ、かの和氣清麿が誠忠此の社に祈りしは世人の知

長洲町

る所なり。社殿の規模大ならざれども、彫鏤精巧佳麗を極め、事務所神輿庫御守所等これを圍繞せり。例祭は春秋二季にこれを行ひ、その儀式頗る古風にして、賽客遠近より廣至す。

國道は略、海岸に平行し宇佐町より西して、驛館川を渡る。驛館川は郡中の大河にして、其河口に長洲町あり。人口八千五百餘を有し、其西に港ありて沿海航行の汽船は常に寄港す。宇佐線上の宇佐停車場は此線路に沿ひ、長洲町の對岸に位し、宇佐町に陸路一里餘を隔つ。此線路は二三里の間、國道と海岸路との間を走り今津に至りて合す。四日市町は宇佐町の西一哩餘、國道上に位し、郡の主邑を成し、人口三千餘を有し、郡役所此處にあり、其他小林區署農學校等あり。町の南端に二箇の大剎の雲端に聳ゆるを見る。これ即ち東西本願寺九州別院なり。町の北十町餘を隔て、宇佐八箇社の一なる乙呷神社あり。森山に安樂院、芝原に善光寺あり。長峰村佐野に大根川神社あり。宇佐八箇社の一なり。その南、清水に清水寺あり。此郡は養蠶の盛なるところして、到る處繰車の音を聞く。驛館川の上流は津房川惠良川の兩峡谷に岐

中津町

れ、其岸に多少の平地を展開したれど、多くは寒村僻地にして記すべきものなし。かくて國道は赤尾、犬丸の諸邑を經、海岸路と鐵道線路を挾んで下毛郡の中津町に達す。

下毛郡は宇佐郡の西方に位し、南は玖珠日田の二郡に接し、西は福岡縣築上郡に界し、北は一帶周防灘に面す。耶馬溪の勝を以て聞えたる山國川は郡中を南北に貫流し、樋田より海岸平原に出て、福岡縣の界を成して海に注ぐ。其の河口に中津町あり。郡の南部は概して火山噴出物より成る丘陵の地にして、平地は僅かに中津町附近の海岸平原に過ぎず。中津町は郡の主邑たると同時に縣内屈指の都邑を成し、人口一萬八千、其市街の整正と商業の活潑とは却つて大分町の壘を摩するものあり。現に玖珠日田・宇佐・下毛及び福岡縣の築上郡等の各郡より中津港及び中津停車場を經て縣の内外に輸出せる産物中米穀のみにも年々二十萬石を下らずといふを見ても、その地の交通運輸の中心を成せるを知るべし。市街の最も繁華なるところは、新博多町・古博多町・京町等にして、豊後町・上博多町・船町等これに次ぐ。下毛郡役所・稅務署・大分地

耶馬溪

方裁判所・中津支部・中津監獄支署・縣立中津中學校・女學校等あり。中津紡績株式會社は豊岡村にあり。機械紡績の大工場として、本地方に著名なり。宇萱津に入幡大江神社あり。その西北新魚町に臨濟の巨刹自性寺あり。奥平氏の舊城址は其東北にありて、今は中津公園を成し、園内に福澤諭吉氏の紀念碑あり。また町の東北に關無濱神社あり。間々の濱は海岸和田村の地にして、萬葉集に『豊國の間々の濱邊』といへるは此地なりといふ。

山國川に沿うて北する道路は豆田街道にして、所謂耶馬溪の勝に沿へるもの、北するに従ひ、次第に平野を離れ、山光水色既に尋常にあらざるを見るべし。殊に左に聳ゆる火山岩臺より成る八面山の峭姿は、恰も人をして耶馬の勝の前驅をなすの思ひあらしむ。相原土田・白杵を過ぎ、漸く耶馬の峡谷に入り、樋田に至れば、富士岩質集塊岩より成れる奇岩谷の兩側に聳立し、處々に洞門を穿ち、川はその傍を盤旋して流れ、眞に人をして佇立去るに忍びざらしむ。これより或は溪橋を渡り、或は深潭に沿ひ、半里にして青に至る。落合川來り會す。此邊奇岩殊に秀絶にして、帶岩最も名を得たり。橋を渡り

て、一路あり、左に岐る。これを傳へば、二十町にして、羅漢寺に達す。全山奇石を以て成り、上に僧堂を架す。これを妙義に比すれば、規模甚だ小なれど、また一名勝たるを失はず。本道をたどれば曾木、平田、林等の諸邑溪の兩岸に散在し、道路は幾度も溪橋を渡りて、次第に溪山の美を展開し來り、人をして佇立願望去るに忍びざらしむ。柿阪に至りて、所謂山陽の擲筆の岩あり。蓋し集塊岩の溪流の浸蝕作用を受け奇形を呈せるものなり。この川の一支山移川の溪谷を新耶馬溪と稱し、泥熔岩の削るが如き峭壁は、谷の兩側に屹立し、或は其の風景却つて本耶馬溪に勝りたりとなすものあり。殊に秋季紅葉の期節には滿山錦を染め、山川の美殆ど窮る。新耶馬溪に沿へる道路は遂に玖珠郡森町に達し、山國川に沿へる道路は遂に日田郡日田に達す。

熊本縣

熊本縣

熊本縣は本地方の略、中央に位し、東は大分縣及び宮崎縣に界し、南は宮崎縣及び鹿兒島縣に接し、西は有明海を隔て、長崎縣と相對し、北は福岡縣に

地勢

隣る。縣廳を熊本市に置き、肥後國の一市十二郡を管す。一市は熊本市にして、十二郡は飽託、宇土、玉名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、下益城、八代、葦北、球磨、天草即ち是なり。東西の最も長き所十五里、南北の最も長き所二十七八里、面積四六五、四七方里(七一七九、一六方里)人口一二二九九六(一方里二四六二)を有す。各郡の中、面積の最も大なるものは球磨郡にして八七、七〇方里を有し、阿蘇郡の七八方里これに次ぐ。これに次ぎて天草郡は五〇方里、八代郡は三一方里を有す。面積の最小なるは宇土郡にして、八方里を有するに過ぎず。人口の密度は飽託郡第一に位し、一方里一、〇一七〇人を占め、これに次げる宇土郡は一方里六〇〇〇人を占む。その最も小なるものは球磨郡にして、一方里九〇〇人に過ぎず。

地勢は三面山を以て圍繞せられ、西は海に瀕し、中央に一平原あり。西方に蜿蜒せる山脈は九州島の主山脈を成せる九州山系にして、山嶽重疊し、頗る峻峻なり。東部には有名なる阿蘇火山聳立し、其裾野は遠く豊後日向に跨る。北部には筑紫山脈の餘波筑後との國境を劃して長く横はれるを見る。而